

ZENworks マイグレーションガイド

Novell®
ZENworks® 10 Configuration Management SP2

10.2

2009年5月27日

www.novell.com



保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、「[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/)」の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2009 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を、書面による同意なく、複製、写真複写、検索システムへの登録、送信することは、その形態を問わず禁止します。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本文書に記載されている製品に実装されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/) の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell のマニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	9
1 マイグレーションプロセス	11
2 ZENworks 10 Configuration Management と従来の ZENworks との違い	13
2.1 アーキテクチャ	13
2.1.1 従来の ZENworks アーキテクチャ	13
2.1.2 次世代の ZENworks アーキテクチャ	15
2.1.3 アーキテクチャ変更の詳細	17
2.2 システム管理	21
2.3 ワークステーション	21
2.4 インベントリ	22
2.5 イメージング	22
2.6 リモート管理	23
2.7 アプリケーション管理	23
2.8 その他の機能	24
3 ZENworks Configuration Management へのマイグレーションの計画	27
3.1 マイグレーション候補	27
3.2 ZENworks マイグレーションユーティリティのインストール	28
3.3 ZENworks マイグレーションユーティリティの機能	28
3.3.1 マイグレート済み	29
3.3.2 マイグレートなし	29
3.3.3 その他のソフトウェア	29
3.4 マイグレーションの計画	30
3.4.1 ZENworks システムの共存	30
3.4.2 LDAP 認証	31
3.4.3 PXE デバイスとサーバ参照リスト	32
3.4.4 インクリメンタルマイグレーション	33
3.4.5 マイグレーション順序	33
3.4.6 管理ゾーンの設定	33
3.4.7 ワークステーションのマイグレート	34
3.4.8 ユーザの識別	35
3.4.9 Configuration Management 内のフォルダ使用	35
3.4.10 マイグレーションモデリング	36
3.4.11 最新情報	37
4 ZENworks Configuration Management へのマイグレート	39
4.1 前提条件	39
4.2 ZENworks マイグレーションユーティリティの開始	41
4.3 マイグレーション元の選択	43
4.4 マイグレーション先の選択	45
4.5 アプリケーションのマイグレート	47
4.6 イメージのマイグレート	55
4.7 ポリシーのマイグレート	59
4.8 管理ゾーン設定のマイグレート	63

4.9	ワークステーションのマイグレート	65
4.10	関連付けのマイグレート	69
4.11	管理するマイグレート済みワークステーションの設定	75
4.12	マイグレートしたワークステーションのイメージの作成	75
4.13	ZENworks の従来のインストールの管理	75
A マイグレーションデータ		77
A.1	アプリケーション	77
A.2	イメージ	80
A.3	ポリシー	81
A.4	管理ゾーンの設定	82
A.5	ワークステーション	84
A.6	関連付け	85
B グローバルマイグレーションオプション		87
B.1	一般	87
B.2	アプリケーション	88
B.3	関連付け	89
B.4	イメージング	90
B.5	ポリシー	90
B.6	ゾーンの設定	90
B.7	ワークステーション	90
B.8	Web クライアント設定	90
C マイグレーションユーティリティの理解		91
C.1	マイグレーションタスク	92
C.2	マイグレーション元 / マイグレーション先	92
C.3	[今すぐ移行] ボタン	92
C.4	[キャンセル] ボタン	93
C.5	終了	93
C.6	タブの選択	93
	C.6.1 ソース eDir ツリー	93
	C.6.2 宛先ゾーン	94
C.7	[移行する項目] タブ	95
C.8	[マイグレーション履歴] タブ	96
C.9	最新情報	97
C.10	オプションアイコン	97
C.11	プロセス全体	97
D トラブルシューティング		99
E ベストプラクティス		103
E.1	Windows Vista デバイスでのマイグレートユーティリティの実行	103
E.2	マイグレーションオプションの選択	103
E.3	オブジェクトをコンテンツサーバにアップロード	103
E.4	アプリケーションをアクションまたは MSI としてマイグレート	104
E.5	ネットワークファイルの使用	104
E.6	マイグレーションユーティリティで関連付けをリスト	105

E.7	マイグレーションユーティリティで AppFsRights 属性を持つアプリケーションオブジェクトをリスト.....	105
-----	---	-----

F マニュアルの更新 **107**

F.1	2009 年 5 月 27 日 :SP2 (10.2).....	107
F.1.1	ZENworks Configuration Management へのマイグレート	107
F.1.2	グローバルマイグレーションオプション	107
F.1.3	マイグレーションデータ	108

このガイドについて

この『Novell ZENworks 10 Configuration Management ZENworks マイグレーションガイド』には、従来の Novell® ZENworks® から次世代の ZENworks、Novell ZENworks 10 Configuration Management SP2 に移行するために必要な情報、手順およびプロセスが含まれています。このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ 11 ページの第 1 章「マイグレーションプロセス」
- ◆ 13 ページの第 2 章「ZENworks 10 Configuration Management と従来の ZENworks との違い」
- ◆ 27 ページの第 3 章「ZENworks Configuration Management へのマイグレーションの計画」
- ◆ 39 ページの第 4 章「ZENworks Configuration Management へのマイグレート」
- ◆ 77 ページの付録 A「マイグレーションデータ」
- ◆ 87 ページの付録 B「グローバルマイグレーションオプション」
- ◆ 91 ページの付録 C「マイグレーションユーティリティの理解」
- ◆ 99 ページの付録 D「トラブルシューティング」
- ◆ 103 ページの付録 E「ベストプラクティス」
- ◆ 107 ページの付録 F「マニュアルの更新」

対象読者

このガイドは、ZENworks Configuration Management 管理者を対象としています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

追加のマニュアル

ZENworks 10 Configuration Management SP2 には、製品の概要とその実装方法を説明したその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式) が用意されています。追加のマニュアルについては、『ZENworks 10 Configuration Management SP2 マニュアル (<http://www.novell.com/documentation/zcm10/>)』を参照してください。

マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (/) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux^{*} など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

マイグレーションプロセス

1

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management では、以前のバージョンの ZENworks とは異なるアーキテクチャが導入されています。ZENworks 10 の能力および新機能を活用するためには、通常のアップグレードを実行するのではなく、既存のシステムをマイグレートする必要があります。

Novell ZENworks 10 Configuration Management にマイグレートするには、次を実行します。

1. 13 ページの第 2 章「ZENworks 10 Configuration Management と従来の ZENworks との違い」 Configuration Management が従来の ZENworks とどのように異なるか理解するためのレビューを実施します。
2. (オプション) Configuration Management の概要については、『ZENworks 10 Configuration Management Enterprise Edition 入門ガイド』の「製品の概要」を参照してください。(『入門ガイド』の Standard および Advanced エディションにも同様の情報が含まれています。)
3. 従来の ZENworks 情報をマイグレートできる管理ゾーンを確立するため、少なくとも 1 つのサーバの ZENworks 10 Configuration Management をインストールします。インストール手順については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』を参照してください。
4. 次の指示に従って従来の ZENworks インストールを Configuration Management にマイグレートします。
 - 27 ページの第 3 章「ZENworks Configuration Management へのマイグレーションの計画」
 - 39 ページの第 4 章「ZENworks Configuration Management へのマイグレート」
5. (オプション) 『Novell ZENworks 10 Asset Management マイグレーションガイド』の指示に従って、従来の ZENworks Asset Management のインストールを Configuration Management にマイグレートします。
6. (オプション) 次のガイドを使用して、Configuration Management の各種のエディションに含まれているその他のソフトウェアをインストールします。
 - 『AdminStudio 9.0 ZENworks Edition インストールガイド (<http://www.novell.com/documentation/zcm10/pdfdoc/adminstudio/AS9ZENInstallGuide.pdf>)』 (すべてのエディション、PDF のみ)
アプリケーションおよびパッチのパッケージ化、テスト、配布および管理の方法を引き続き標準化することができます。
 - 『Endpoint Security Suite インストールガイド* (<http://www.novell.com/documentation/zesm35/install/index.html?page=/documentation/zesm35/install/data/bookinfo.html>)』 (Enterprise Edition のみ)
単一の管理コンソールの下でデータ、デバイス、およびコネクティビティに関するセキュリティポリシーの実施を組み合わせることによりエンドポイントセキュリティを簡素化し、これによって組織で MESH および WiMAX、アプリケーションコントロール、Machine Posture/ 整合性、データ暗号化、および高度なパーソナルファイアウォールを含むリムーバブルストレージ、ワイヤレス通信向けのセキュリティポリシーを管理、制御、および実施することができます。

- ◆ 『*USB/Wireless Security* インストールガイド (<http://www.novell.com/documentation/zesm35/install/index.html?page=/documentation/zesm35/install/data/bookinfo.html>)』 (Advanced Edition のみ)

管理者はローカルの光磁気メディア (CD-R/W および DVD+/-R/W)、およびすべての接続ストレージデバイス (USB サムドライブ、フロッピーディスク、フラッシュメモリカード、ZIP ドライブ、SCSI PCMCIA カード、および他の種類のリムーバブルメディア) の使用を制御できます。これにより、デバイスアクセス権限に対してポリシーベースの制限を提供し、エンドポイントにおけるデータの整合性や機密性を保持できます。同時に、エンドポイントにおけるマルウェアの侵入や他の不正な活動を防ぐことができます。

- ◆ 『*ZENworks Linux Management* インストールガイド (<http://www.novell.com/documentation/zlm72/lm7install/data/front.html>)』 (Enterprise Edition のみ)

ZENworks Configuration Management は、直接 Windows* デバイスのみを管理します。したがって、Linux デバイス (サーバまたはワークステーション) を管理する場合は、Novell ZENworks Linux Management を使用する必要があります。これは ZENworks 10 Configuration Management Enterprise Edition の一部として利用できます。または Configuration Management の Standard あるいは Advanced エディションをインストールしている場合は Linux Management を別個で購入できます。

- ◆ 『*ZENworks Handheld Management* インストールガイド (<http://www.novell.com/documentation/zenworks7/hm7install/data/a20gkue.html>)』 (Enterprise Edition のみ)

ハンドヘルドデバイスによる広範囲の管理を提供します。

7. 『*ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート*』を使用して Configuration Management の使用を開始します。この管理クイックスタートには、Configuration Management を起動および実行するためのタスクの実行方法が示されています。

ZENworks 10 Configuration Management と従来の ZENworks との違い

2

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management にマイグレートするには、初めに Configuration Management と従来の ZENworks との違いについて理解してから、従来のデータを新しい Configuration Management インストールにマイグレートする必要があります。

次のセクションでは、ZENworks 10 Configuration Management の新しいまたは異なる機能について説明します。

- 13 ページのセクション 2.1 「アーキテクチャ」
- 21 ページのセクション 2.2 「システム管理」
- 21 ページのセクション 2.3 「ワークステーション」
- 22 ページのセクション 2.4 「インベントリ」
- 22 ページのセクション 2.5 「イメージング」
- 23 ページのセクション 2.6 「リモート管理」
- 23 ページのセクション 2.7 「アプリケーション管理」
- 24 ページのセクション 2.8 「その他の機能」

2.1 アーキテクチャ

ZENworks Desktop Management の以前のバージョンと同様に、ZENworks 10 Configuration Management には Windows サーバおよびワークステーション向けの広範囲の管理が提供されています。ただし、基礎となるアーキテクチャは大幅に変更されています。

次のセクションでは、アーキテクチャの違いについて説明します。

- 13 ページのセクション 2.1.1 「従来の ZENworks アーキテクチャ」
- 15 ページのセクション 2.1.2 「次世代の ZENworks アーキテクチャ」
- 17 ページのセクション 2.1.3 「アーキテクチャ変更の詳細」

新しいアーキテクチャの詳細については『ZENworks 10 Configuration Management Enterprise Edition 入門ガイド』の「システムアーキテクチャ」を参照してください。この情報は『入門ガイド』の Standard および Advanced エディションにも含まれています。

2.1.1 従来の ZENworks アーキテクチャ

既存の Novell ZENworks ソリューションは、次の点において非常に強力です。

- **柔軟性がある**：ロジックはオブジェクトストア内にあるため、大幅なアーキテクチャの見直しを行うことなく簡単にコンテンツやサービスを移動できます。

- ◆ **シンプルである** : 簡単にサービスを適合できるため、管理者は容易にアーキテクチャを理解、展開、および管理できます。
- ◆ **スケーラブルである** : マーケットにおいて ZENworks に匹敵するほどのレベルのシステム管理製品は他にありません (事実、 1 つの ZENworks システムで管理可能なユーザ数に制限はありません)。

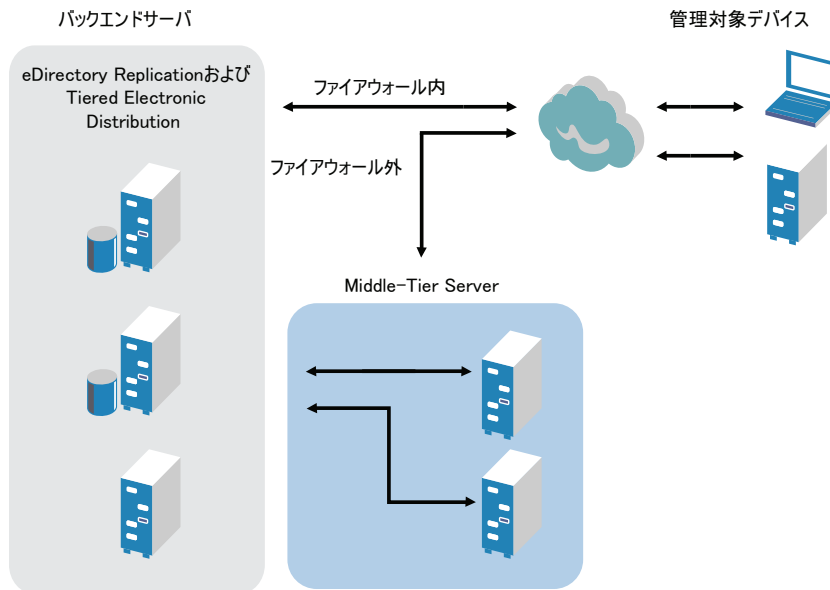
新しいインフラストラクチャも既存の環境と同様に柔軟性がありシンプルそしてスケーラブルです。このように、既存のバージョンの ZENworks 10 Configuration Management と以前のバージョンの Novell ZENworks のアーキテクチャ上の違いについて十分に理解しておくことは非常に役に立ちます。

Novell ZENworks 7.x は、従来の ZENworks アーキテクチャにならって作られた最後のリリースです。従来の ZENworks アーキテクチャは二層構造になっており、設定情報に関してはオブジェクトストア (Novell eDirectory™) へのダイレクトアクセスに頼っています。ZENworks サービス、特にディレクトリ内に保存されているオブジェクト情報やロジックにアクセスするには、すべてのワークステーションに Novell Client32™ をインストールするか、またはミッドティアを設定する必要がありました。

従来の ZENworks では、ロジックやプロセスの大部分はポリシー検索、Launcher の更新などの形でクライアント側で実行することは重要なことです。つまり、クライアント側でほとんどの作業を実行することになります。このセットアップは、製品のスケーラビリティに大きな効果があります。サーバで 100 のクライアントのすべての作業を実行する代わりに、全体の負荷はすべての 100 のクライアントに分散されます。

図 2-1 は Novell ZENworks Desktop Management の従来のアーキテクチャを示しています。

図 2-1 ZENworks Desktop Management のアーキテクチャ



従来の ZENworks アーキテクチャの特徴は次のとおりです。

- ◆ すべてのワークステーションに ZENworks Management Agent がインストールされます。
 - ◆ NetWare® 環境では Client32 が必要です。
 - ◆ Middle Tier Server は、Novell Client™ が管理対象デバイスにインストールされていない場合に必要です。
- ◆ eDirectory は、すべてのユーザのワークステーションおよび ZENworks オブジェクトのオブジェクトストアとして重要な要件です。
- ◆ ZENworks インフラストラクチャを管理するためには Novell ConsoleOne® が必要です。
- ◆ eDirectory 環境へのすべてのアクセスは NetWare Core Protocol™ (NCP™) を介して行われます。
- ◆ 製品はクロスプラットフォームで、Linux、NetWare、および Windows 上で実行されるサービスをサポートします。

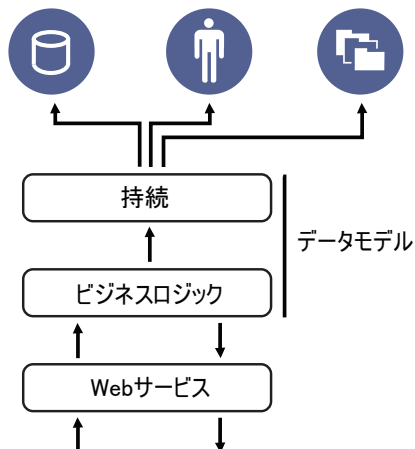
2.1.2 次世代の ZENworks アーキテクチャ

Novell ZENworks 10 Configuration Management には、サービス志向アーキテクチャ (SOA) として知られる三層のアーキテクチャが備わっています。このアーキテクチャではコンポーネントを切り離し、製品をよりモジュール化しています。これによりそれぞれの層を別々に更新することができ、ビジネスロジックの変更や新規のモジュールの追加が容易になりました。

Novell ZENworks 10 Configuration Management では、サーバ側のインフラストラクチャは 2 つの層からなっています (図 2-2 参照)。1 つはデータモデル、もう 1 つはファイルシステム (実際のファイルを保存)、データベース (ZENworks 情報を保存)、オプションの識別情報ストアから構成されており、ユーザベースのリソース管理が可能です。ZENworks 10 Configuration Management のリリースによって、Novell eDirectory および Microsoft* Active Directory* は、ユーザ識別情報のためのユーザソースとしてネイティブにサポートされます。

図 2-2 ZENworks 10 Three-Tier アーキテクチャ

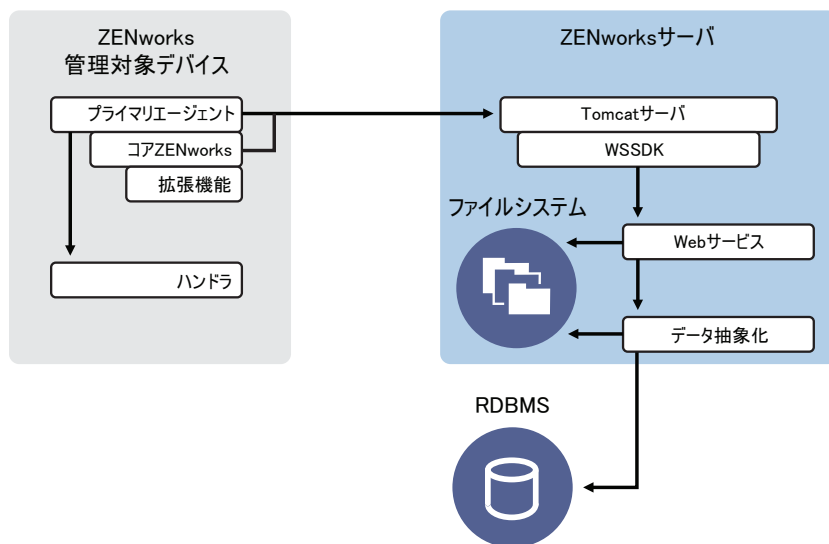
データベース アイデンティティ ファイルシステム



新しいアーキテクチャでは、Novell ZENworks 10 Configuration Management は eDirectory から分離され、製品が機能するための重要な要件ではなくなりました。システム管理サービスを提供するためにディレクトリを管理する必要はなくなりました。これは ZENworks 10 Configuration Management を既存の eDirectory 環境に統合化することによる利点を得られなくなるわけではありません。実際にユーザ識別情報用として引き続き既存のディレクトリ情報インフラストラクチャを使用できますが、eDirectory を実行するサーバでスキーマを拡張したり製品をインストールする必要はありません。

その他の大きなアーキテクチャの変更は、クライアントとサーバが互いに通信する方法です (図 2-3 参照)。管理対象デバイスで引き続き Novell ZENworks エージェント (ZENworks Adaptive Agent) を実行しますが、サーバ側では作業 (ロジックおよび負荷) の一括化が発生します。図 3 から分かるように、クライアントからサーバ側 (ZENworks 10 Configuration Management プライマリサーバの Web サーバ) との通信を開始しますが、サーバもまたクライアントと直接通信できます。クライアントおよびサーバは、HTTP、HTTPS、SOAP、CIFS、および LDAP などの業界標準プロトコルを使用します。クライアントは HTTP または HTTPS を介してサーバと通信し、サーバは HTTPS を通して SOAP (Simple Object Access Protocol) 経由で Adaptive Agent と通信します。

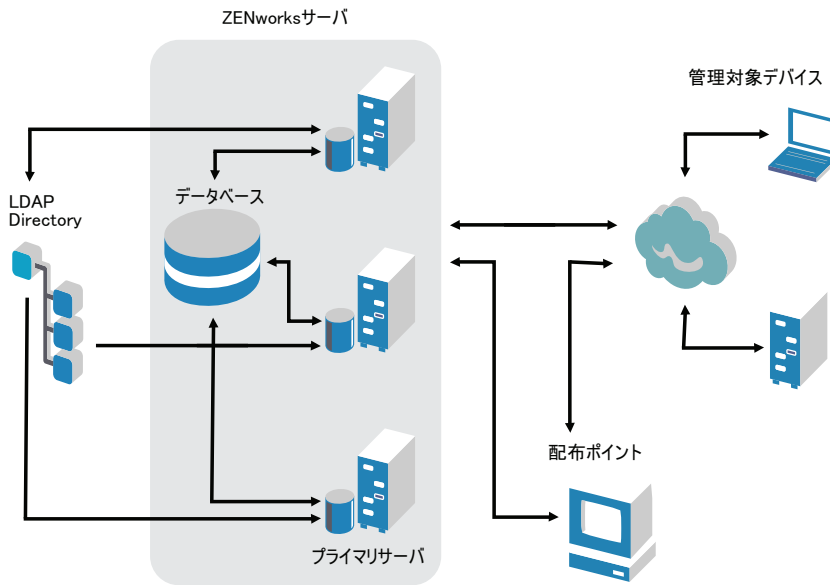
図 2-3 ZENworks 10 クライアント - サーバアーキテクチャ



アーキテクチャの観点からみると、管理対象デバイスはサーバのバックエンド Web サービスと通信し、プライマリサーバはクライアントに対してどのように対処するかおよびどこからコンテンツを取得するかを指示します (図 2-4 参照)。実際に、サーバはクライアントに指示を送信し、クライアントは必要なハンドラを使用して、ソフトウェアのインストール、ポリシーの適用、リモートでのシステム管理などのタスクを実行します。

識別情報の観点からみると、管理対象デバイスのユーザは、ユーザのオブジェクトが保存されている Novell eDirectory または Microsoft Active Directory のいずれかの識別情報ストアに対して直接認証が行われます。Novell ZENworks オブジェクトストアに保存されている唯一の識別情報に関連する情報は、実際の識別情報をポイントする参照オブジェクトで、これによりユーザベースのリソース管理の効率が上がります。

図 2-4 ZENworks 10 アーキテクチャ



新しい Novell ZENworks 10 Configuration Management アーキテクチャには、次の重要な特長があります。

- ◆ すべての管理対象デバイスで ZENworks Adaptive Agent をインストール
- ◆ Three-tier SOA
- ◆ タスクを計算するための追加のプライマリサーバ。管理対象デバイスからワークロードを排除します。
- ◆ Novell eDirectory に対する特定要件の排除
- ◆ 管理対象デバイスまたはサーバにインストールする Novell Client32 に要件はない
- ◆ すべての ZENworks オブジェクト、構成、および機能を管理する新しい Web ベース管理コンソール (ZENworks コントロールセンター)
- ◆ Novell eDirectory および Microsoft Active Directory の両方に対するネイティブのサポート
- ◆ 業界標準のプロトコルに準拠
- ◆ ダイレクト、ワンタイムサーバインストール、次に管理対象デバイスが ZENworks コントロールセンターを介してサーバから展開されます
- ◆ Windows Server 2003、Windows Server 2008、または SUSE® Linux Enterprise Server のいずれかに Primary Server ソフトウェアをインストール

2.1.3 アーキテクチャ変更の詳細

次のセクションでは、アーキテクチャの違いについてさらに詳しく説明します。

- ◆ 18 ページの「管理コンソール」
- ◆ 18 ページの「ソフトウェアリポジトリ」
- ◆ 18 ページの「Novell eDirectory」
- ◆ 19 ページの「オブジェクト管理」

- ◆ 20 ページの「ユーザ管理」
- ◆ 20 ページの「クライアントエージェント」
- ◆ 21 ページの「Middle Tier Server」

管理コンソール

Web ベースの管理コンソールである ZENworks コントロールセンターは、Configuration Management のグラフィカル管理インタフェースとして使用され、従来の ZENworks で使用された ConsoleOne を置き換えるものです。

- ◆ **管理者の役割** : ZENworks コントロールセンターには新しいアーキテクチャデザインに固有の堅牢な管理者の役割が備わっています。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「管理者」を参照してください。
- ◆ **監視リスト** : ZENworks コントロールセンターにはホームページについての監視リストが提供されており、管理ゾーン全体の統計だけでなく選択されたデバイスおよびバンドルの現在のステータスを参照できます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「監視リストの作成」を参照してください。
- ◆ **iManager** : すでに Novell iManager を使用して他の Novell 製品を管理している場合、iManager から ZENworks コントロールセンターを起動するよう設定できます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス」を参照してください。

ソフトウェアリポジトリ

管理ゾーンのすべてのプライマリサーバには同じコンテンツが含まれており、ゾーン内のすべての管理対象デバイスに対して冗長性を提供します。詳細については、「コンテンツリポジトリ」(『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』)を参照してください。

Configuration Management では、耐障害性用の従来の負荷分散法に置き換わり、コンテンツ複製および最近接サーバルールが使用されます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「コンテンツ複製」および「最近接サーバルールの設定」の両方を参照してください。

Novell eDirectory

データ保存用の Novell eDirectory は必要なくなりました。代わりに ZENworks Configuration Management データベースが使用されます。これは従来の ZENworks といくつかの点で異なります。

- ◆ **ZENworks データベース** : 新しい ZENworks データベースが古い ZENworks データベースに置き換わり、すべての eDirectory ツリーオブジェクト情報が保存されます。eDirectory コンテナおよびコンテキストに代わって、Configuration Management はフォ

ルダ / オブジェクト階層に関連するデータベースフォルダと継承の機能を使用します。新しいデータベースは、すべての Configuration Management データのコンテンツリポジトリです。

Configuration Management で使用可能なデータベースの詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「データベース要件」を参照してください。選択したデータベースの保守の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「データベース管理」を参照してください。

- ◆ **スキーマ拡張なし** : Configuration Management は ZENworks データベースのすべてのデータを保存するため、Novell eDirectory スキーマには影響しません。eDirectory へのすべてのアクセスは、ユーザ情報の参照目的であるため読み取り専用です。
- ◆ **ユーザソース** : eDirectory と Active Directory をユーザのソースとして使用できます。これを行うには、ディレクトリに対する読み取り専用の LDAP リンクを定義し、ユーザがいるコンテキストを指定します。ZENworks は独自のデータベース内にユーザへの参照を作成し、これにより ZENworks 管理アクティビティがディレクトリではなくすべて ZENworks データベース内で発生するようにできます。ユーザの割り当てではなくデバイスの割り当てだけを介してデバイスを管理するよう計画している場合は、ユーザソースは必要ありません。詳細については、20 ページの「ユーザ管理」を参照してください。
- ◆ **管理ゾーン** : プライマリサーバおよび管理対象デバイスは、eDirectory ツリーで提供されていた組織に置き換わって、管理ゾーンに分類されます。

オブジェクト管理

Configuration Management は、eDirectory の代わりに ZENworks コントロールセンターオブジェクトを使用します。いくつかの相違点について次に説明します。

- ◆ **ダイナミックグループ** : これは Configuration Management の新機能です。グループおよび動的グループの両方が使用できます。ソフトウェアおよびポリシー割り当ての観点から見ると、グループおよび動的グループ機能は同じです。2つのタイプのグループの唯一の違いは、グループにデバイスを追加する方法です。グループの場合は、手動でデバイスを追加する必要があります。動的グループでは、グループのメンバに合致するデバイスの条件を定義しておき、デバイスがその条件に一致すると自動的に追加されます。

いくつかの動的グループが事前定義されていますが、独自のグループを定義できません。

詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「グループ」を参照してください。

- ◆ **継承** : 動的グループを設定するにはいくつかの方法があります。
 - ◆ 管理ゾーン内のすべてのZENworksコントロールセンターオブジェクト(デバイスまたはバンドル)に対してグローバル
 - ◆ フォルダおよびそのサブフォルダ内のすべてのオブジェクトが対象
 - ◆ オブジェクトのグループが対象(事前定義グループ、ユーザ定義グループ、および動的グループが使用できます)
 - ◆ 個々のオブジェクトに対して

詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「デバイスの分類: フォルダおよびグループ」を参照してください。

- ◆ **関連付け** : Configuration Management では、ZENworks コントロールセンターオブジェクトは、eDirectory オブジェクトに関連付けられる代わりに、互いに割り当てられます (たとえばデバイスにバンドルを割り当て)。Configuration Management にマイグレートする際、割り当てと関連付けの違いについて考慮する必要があります。詳細については、69 ページのセクション 4.10 「**関連付けのマイグレート**」を参照してください。

ユーザ管理

Configuration Management は、eDirectory または Active Directory のいずれかの既存の LDAP ユーザソースを参照します。ユーザは、Configuration Management にマイグレートされません。このように ZENworks は、ユーザオブジェクトに対してネイティブに行われた変更を直ちに知ることができます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「**ユーザソース**」を参照してください。

クライアントエージェント

ZENworks Adaptive Agent が ZENworks Desktop Management Agent に置き換わりました。違いには次のものがあります。

- ◆ **導入** : ZENworks コントロールセンターを使用して、IP アドレスまたは LDAP ディレクトリコンテキストが分かっている (または ZENworks に含まれている LDAP ディレクトリディスカバリテクノロジーのネットワークディスカバリを使用して検出した) 任意のワークステーションに Adaptive Agent を展開できます。
- ◆ **機能** : すべての機能 (ソフトウェア配布、イメージング、リモート管理、ポリシー) は、Adaptive Agent のインストールに自動的に組み込まれます。エージェントのインストールから削除するよう選択できる唯一の機能は、リモート管理です。
- ◆ **ネットワーク クライアントなし** : Adaptive Agent では、プライマリサーバからコンテンツ (アプリケーションなど) を取得するのにネットワーククライアント (Novell クライアントまたは Microsoft クライアント) は必要ありません。Adaptive Agent はコンテンツを取得するのに HTTP および Web サービス要求を使用します。
- ◆ **統合化されたインタフェース** : 別個のクライアントプログラム (Workstation Manager、Remote Control など) が ZENworks アイコンと呼ばれる共通のインタフェースに置き換わりました。ZENworks アイコンは、デスクトップの一番下の通知エリアに表示されます。NAL Window と NAL Explorer ビューはそのまま使用可能です。
- ◆ **環境設定** Adaptive Agent の動作は、Launcher Configuration 設定のみを介してでなく、構成設定とポリシー設定 (ZENworks Explorer Configuration ポリシー) の組み合わせによって制御されるようになりました。これによって、どのデバイスで特定の設定を受信するかを決定する際の柔軟性が大幅に拡張できます。
- ◆ **Inventory-Only モジュール** : ワークステーションが Adaptive Agent インストールの要件を満たしていない場合でも (『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「**管理対象デバイスの要件**」を参照)、Inventory-Only モジュールをインストールすることによってこれらのワークステーションからインベントリ情報を受け取ることができます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management ディスカバリと展開リファレンス』の「**Inventory-Only モジュールの展開**」を参照してください。

詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management ディスカバリと展開リファレンス』の「**ZENworks Adaptive Agent の展開**」を参照してください。

Middle Tier Server

Configuration Management には Middle Tier Server はありません。代わりに、ZENworks Adaptive Agent は Web サービスおよび HTTP 要求を介してプライマリサーバと直接通信します。

2.2 システム管理

Configuration Management には ZENworks を管理するためのいくつかの方法が備わっています：

- ◆ **ZENworks コントロールセンター**：これはメインの Configuration Management 管理インタフェースです。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「ZENworks コントロールセンター」を参照してください。
- ◆ **コマンドラインユーティリティ**：zman および zac コマンドラインユーティリティを使用して Configuration Management を管理できます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』を参照してください。
- ◆ **エラーおよびメッセージ**：従来のエラーメッセージおよびメッセージログは、集中型のメッセージログ機能に置き換われました。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「ZENworks 10 Configuration Management メッセージログリファレンス」および「システムメッセージの表示」を参照してください。
- ◆ **ソフトウェアのアップデート**：ZENworks ソフトウェアのアップデートの処理は、システム更新機能によって Configuration Management に自動化されるようになりました。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「ZENworks システム更新の概要」を参照してください。
- ◆ **レポート機能**：Configuration Management のレポート機能が全面的に新しくなりました。
 - ◆ ZENworks インフラストラクチャレポートは、BusinessObjects* Enterprise XI を使用して実行されます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システムレポートリファレンス』を参照してください。
 - ◆ インベントリされたアセットのレポートはアセットインベントリのレポート機能を使用して実行されます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management アセットインベントリリファレンス』を参照してください。

2.3 ワークステーション

ポリシーを使用して eDirectory にインポートする従来のワークステーション管理は、Configuration Management では管理対象デバイスに置き換わっています。

Configuration Management のデバイスには、両方のプライマリサーバ、管理対象デバイス（プライマリサーバとデバイス）、およびインベントリのみデバイスが含まれます。Configuration Management の場合、Windows デバイスのみ管理できます。Linux デバイスは、プライマリサーバおよびインベントリのみデバイスにだけなることができます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「**最小要件**」を参照してください。

ワークステーションの管理は、次の方法で実行されます。

- ワークステーションは、新しいディスカバリおよび展開機能を使用して管理ゾーンにインポートされます。デバイスはネットワーク上でディスカバリされ、管理ゾーンに登録されて、デバイスにソフトウェアが展開されます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「ネットワークデバイスの検出」を参照してください。また、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス』も参照してください。

手動でデバイスをインポートするには、.csv ファイルを使用できます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス』の「CSV ファイルからのデバイスのインポート」を参照してください。

サーバに Configuration Management をインストールすると、サーバは管理ゾーンのメンバになります。詳細については、『ZENworks Configuration Management インストールガイド』を参照してください。

- 登録ルールおよびキーは、ワークステーションのインポートおよびポリシーと置き換わります。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「デバイスの登録」を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターでデバイスの状態を判別できます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management ソフトウェア配布リファレンス』の「ZENworks アイコン」を参照してください。
- アセット管理は ZENworks 10 で動作するように設定されています。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management リファレンス』を参照してください。
- 従来の ZENworks と Configuration Management の間で、多くのポリシーが基本的に同じです。ただし、いくつかは販売終了されていたり、いくつかは管理ゾーンの設定に移動されていたり、新しいポリシーが追加されているものがあります。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management ポリシー管理リファレンス』を参照してください。

2.4 インベントリ

アセットインベントリはワークステーションインベントリに置き換わります。これは Configuration Management コンテンツモデルをベースとした完全に新しい機能です。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management アセットインベントリリファレンス』を参照してください。

プライマリサーバは、すべてのデータベース情報が ZENworks データベースをホストするプライマリサーバに効率的にロールされるよう管理ゾーン内では階層構造になっています。しかし、データベースはゾーン内でプライマリサーバではないサーバ上に外部に置くことができます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「サーバの階層」を参照してください。

2.5 イメージング

Configuration Management では、従来のポリシーおよび eDirectory イメージングオブジェクトに代わって、バンドルを使用して自動イメージングが実行されます。しかし、ZENworks イメージングエンジンはほとんど同じで、イメージのファイルタイプも引き続き .zmg のままです。

イメージングソフトウェアにはいくつかの改善がありますが、基本的には同じです。自動イメージングを別々に実行するだけです。手動イメージングは類似していますが、強化されています。

イメージファイルの基本リポジトリはハードコーディングされていますが、イメージを整理するためサブフォルダを作成できます。

詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management プレブートサービスおよびイメージングリファレンス*』を参照してください。

2.6 リモート管理

この機能は、VNC(Virtual Network Computing)の使用が含まれ、拡張されています。詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management リモート管理リファレンス*』を参照してください。

2.7 アプリケーション管理

ZENworks 10 Configuration Management では、新しいソフトウェア配布機能が多くの従来の ZENworks Application Management 機能に置き換わっています。

- ◆ **バンドル**：バンドルはファイルおよび情報のパッケージで、アプリケーションオブジェクトに似ていますが、はるかに強力で柔軟性があります。バンドルウィザードを使用してバンドルを作成し、バンドルに関連付けられたアクションを設定して、バンドルをデバイスまたはユーザに割り当てることができます。バンドルには、Windows、ディレクティブ、ファイル、およびイメージングの4つのタイプがあります。詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management ソフトウェア配布リファレンス*』を参照してください。
- ◆ **アクションおよびアクションセット**：バンドルにはコンテンツとともに実行するアクションが含まれています。すべてのアクションは、アクションセットとして参照される6つのカテゴリ、Install、Launch、Verify、Uninstall、Terminate、Preboot に分類されます。バンドルを作成するときにアクションを識別することができ、また後から ZENworks コントロールセンターにアクションを追加、削除することもできます。詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management ソフトウェア配布リファレンス*』の「アクション」を参照してください。
- ◆ **コンテンツ**：アプリケーションおよびファイルは、ポリシーファイルと一緒にコンテンツとして見なされます。コンテンツは、プライマリサーバ上の、コンテンツリポジトリと呼ばれるディレクトリストラクチャ内に保存されます。プライマリサーバと ZENworks Adaptive Agent(管理対象デバイスで実行)は、標準の Web プロトコルを介して通信し、コンテンツに対するアクセスを提供します。システムに対して異なる設定を行わない限り、コンテンツはプライマリサーバ間で自動的に複製され、すべてのプライマリサーバから使用できるようになります。詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス*』の「コンテンツ配布」を参照してください。
- ◆ **キャッシュ**：各管理対象デバイスは、そのままキャッシュディレクトリを使用します。ただしキャッシュのロケーションは、`drive_root\nalcache` から `zenworks_home\cache` に移動されています。すべてのバンドルは、インストールの前にキャッシュディレクトリにコピーされます。デフォルトでは、このコピーはバンドルが最初にデバイスで起動されるときに行われます。

- ◆ **強制キャッシング** : 配布スケジュールを使用してバンドルを強制的にキャッシュし、ユーザがインストールを起動したときに即座に使用できるようにしておくことができます。スケジュールでは、バンドルの配布を即座に起動したり、または配布を後に遅らせることもできます。
- ◆ **強制実行** : 起動スケジュールを使用して、アプリケーションを強制実行できます。たとえば、アプリケーションを即座に実行したり、デバイス更新時に実行したりできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management ソフトウェア配布リファレンス』の「バンドルの起動」を参照してください。
- ◆ **配布元** : 別のプライマリサーバを作成しないでデバイスグループのコンテンツアクセスを改善するには、管理対象デバイスに対してコンテンツ配布ポイントを作成できます。コンテンツ配布ポイントは、スローな WAN 構成の場合に便利です。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「サテライトの役割の理解」を参照してください。
- ◆ **従属関係** : バンドルに対して特定のタイプのアクションを選択するたびに、自動的に従属関係が作成されるようになりました。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management ソフトウェア配布リファレンス』の「コンテンツや別のバンドルへの従属性のあるバンドルの作成」を参照してください。
- ◆ **近接および負荷分散** : サイトリスト (近接) およびソースリスト (負荷) は、最近接サーバルールと呼ばれる機能に置き換わっています。これは管理対象デバイスをプライマリサーバにダイレクトし、そこからコンテンツおよび設定情報を受け取るようにするために作成するルールです。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「最近接サーバルールの設定」を参照してください。

2.8 その他の機能

Configuration Management (Standard、Advanced、または Enterprise) のエディションに応じて、Configuration Management には次のその他のソフトウェア機能が提供されています。

- ◆ **セキュリティの強化** : ZENworks 10 の新機能
 - ◆ **エンドポイントセキュリティ (Enterprise Edition)** エンドポイントセキュリティの詳細については、『Endpoint Security Suite User Guide (<http://www.novell.com/documentation/zesm35/userguide/index.html?page=/documentation/zesm35/userguide/data/bookinfo.html>)』を参照してください。
 - ◆ **USB/Wireless Security (Advanced エディション)** USB/Wireless Security の詳細については、『USB/Wireless Security Reference (<http://www.novell.com/documentation/zesm35/admin/index.html?page=/documentation/zesm35/admin/data/bookinfo.html>)』を参照してください。
- ◆ **Patch Management** : 引き続きパッチアプリケーションを自動化することにより脆弱性およびコンプライアンス上の問題を最小化できます。詳細については、『Novell ZENworks 10 Patch Management リファレンス』を参照してください。

シノプシスについては、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「ソフトウェアのパッチ適用」を参照してください。

Standard エディションの場合、Patch Management は日間有効の試用版が用意されています。

- ◆ **アセット管理** : 引き続きソフトウェアライセンスコンプライアンスの監視、ソフトウェア使用状況のトラッキング、契約の管理、およびライセンスの管理を行うことができます。詳細については、『[ZENworks 10 Asset Management リファレンス](#)』を参照してください。また、『[ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート](#)』の「[ライセンスコンプライアンスの監視](#)」も参照してください。

Standard および Advanced Editions については、アセット管理は 60 日間有効の試用版ソフトウェアとして提供されています。

- ◆ **AdminStudio**: アプリケーションおよびパッチのパッケージ化、テスト、配布および管理の方法を引き続き標準化することができます。詳細については、『[AdminStudio 9.0 ZENworks Edition インストールガイド \(http://www.novell.com/documentation/zcm10/pdfdoc/adminstudio/AS9ZENInstallGuide.pdf\)](#)』 (PDF のみ) を参照してください。
- ◆ **Personality Migration**: Windows 管理対象デバイスの 1 つまたは複数のユーザのパーソナリティ設定をマイグレートできます。詳細については、『[ZENworks 10 Personality Migration リファレンス](#)』を参照してください。
- ◆ **ZENworks Linux Management**: (Enterprise エディションのみ) 引き続き ZENworks Linux Management を使用して Linux ワークステーションを管理できます。詳細については、『[ZENworks 7.2 Linux Management インストールガイド \(http://www.novell.com/documentation/zlm73/lm7install/data/front.html\)](#)』 および 『[ZENworks 7.2 Linux Management 管理ガイド \(http://www.novell.com/documentation/zlm73/lm7admin/data/front.html\)](#)』 を参照してください。
- ◆ **ZENworks Handheld Management**: (Enterprise Edition のみ) 引き続き ZENworks Handheld Management を使用してハンドヘルドを管理できます。詳細については、『[ZENworks 7 Handheld Management インストールガイド \(http://www.novell.com/documentation/zenworks7/hm7install/data/a20gkue.html\)](#)』 および 『[ZENworks 7 Handheld Management 管理ガイド \(http://www.novell.com/documentation/zenworks7/hm7admin/data/a20gkue.html\)](#)』 を参照してください。

ZENworks Configuration Management へのマイグレーションの計画

3

Novell® ZENworks® Configuration Management では、従来の ZENworks Novell eDirectory™ オブジェクトと属性を ZENworks Configuration Management データベースにマイグレートできる ZENworks マイグレーションユーティリティが提供されています。Configuration Management では、以前のバージョンの ZENworks とは異なるアーキテクチャを使用するため、Configuration Management にアップグレードするには、古い ZENworks データをマイグレートする方法しかありません。

マイグレーションユーティリティを使用すると、バッチ内の eDirectory オブジェクトを増分でマイグレートできます。数百のオブジェクトを同時にキューに入れて命グレートとすることができます。ユーティリティは、モデリング、オブジェクト選択、簡易生属性表示、マイグレーション、およびエラーレポートを提供します。

次のセクションでは、Configuration Management へのマイグレートに関する概念について説明します。

- ◆ 27 ページのセクション 3.1 「マイグレーション候補」
- ◆ 28 ページのセクション 3.2 「ZENworks マイグレーションユーティリティのインストール」
- ◆ 28 ページのセクション 3.3 「ZENworks マイグレーションユーティリティの機能」
- ◆ 30 ページのセクション 3.4 「マイグレーションの計画」

3.1 マイグレーション候補

次の ZENworks 製品は、ZENworks 10 Configuration Management にマイグレートできます。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1
- ◆ ZENworks Desktop Management 6.5
- ◆ ZENworks 7.x Desktop Management

その他の ZENworks 製品のマイグレーションは将来のバージョンの Configuration Management で追加される予定です。

3.2 ZENworks マイグレーションユーティリティのインストール

次のステップを実行して、ユーティリティを実行する Windows デバイスに ZENworks マイグレーションユーティリティ実行可能ファイルをダウンロードしてインストールします。

- 1 (条件付き) 以前のバージョンのユーティリティがすでにデバイスにインストールされている場合は、最新バージョンをインストールする前にこれをアンインストールしてください。
- 2 Web ブラウザで、次の URL に移動します。

`http://zenworks_primary_server_id/zenworks-setup/?pageId=tools`

また、ZENmigration.exe を一時ロケーションにダウンロードします。

ZENworks マイグレーションユーティリティはワークファイルをローカルに保存するので、このユーティリティを同じワークステーションから常に実行するように計画する必要があります。これによって、計画とマイグレーション中の両方で使用できるマイグレーション履歴情報が提供されます。これらのワークファイルは、ユーティリティのインストール先である他のワークステーションには転送できません。複数のワークステーションを使用してマイグレーションを実行する場合は、分離済み履歴ができます。

重要: マイグレーションユーティリティをプライマリサーバから実行することはお勧めしません。マイグレーションユーティリティのプロセスは CPU に集中しているため、サーバが著しく遅くなることがあります。

また、Macrovision による Novell のライセンスによって、1つの管理ゾーンに対して、2つ以上のデバイスにマイグレーションユーティリティをインストールすることは禁止されています。

したがって、サポートされている管理ワークステーションにマイグレーションユーティリティをインストールします。

- 3 ZENmigration.exe を実行して、ワークステーションにインストールします。

3.3 ZENworks マイグレーションユーティリティの機能

ZENworks マイグレーションユーティリティには Configuration Management が提供されています。41 ページのステップ 5 を参照 (39 ページのセクション 4.1 「前提条件」)。これを、プライマリサーバに常駐する実行可能ファイルからコピーして、ワークステーションにインストールします。ユーティリティは、マイグレーションをモデル化して実行できるマイグレーション画面で構成されます。

次のセクションでは、マイグレートされるものとされないものを説明します。

- ◆ 29 ページのセクション 3.3.1 「マイグレート済み」
- ◆ 29 ページのセクション 3.3.2 「マイグレートなし」
- ◆ 29 ページのセクション 3.3.3 「その他のソフトウェア」

3.3.1 マイグレート済み

ZENworks マイグレーションユーティリティは、次の機能があります。

- ◆ 実行する前にマイグレーションをモデル化できます。
- ◆ 従来の ZENworks 関連付けから作成された割り当ての固有のビューを提供します。
- ◆ eDirectory オブジェクトと属性と関連付けを ZENworks データベースにコピーし、処理中に eDirectory はそのままの状態が残ります。
- ◆ サイトにリストされているアプリケーションから、重複を解決するようメッセージが表示されます。
- ◆ Configuration Management に存在しない、従来の ZENworks システムの eDirectory オブジェクトの非マイグレート属性のステータスログを提供します。
- ◆ Novell Application Launcher™ (NAL) アプリケーションを Configuration Management バンドルに変換します。

ストリーム (ファイル) が関連付けられている MSI および AOT のアプリケーションは、ZENworks マイグレーションユーティリティに付属する Macrovision* AdminStudio* Repackager を使用して MSI にマイグレートされます。

3.3.2 マイグレートなし

ZENworks マイグレーションユーティリティでは、次の内容はマイグレートされません。

- ◆ ユーザオブジェクト: マイグレートされません。代わりに、ZENworks コントロールセンターで、ユーザソースを簡単にポイントします。したがって、eDirectory または Active Directory でのユーザへの変更は、すぐに ZENworks コントロールセンターで認識されます。
- ◆ インベントリデータ: 従来のインベントリデータおよび関連する eDirectory 属性は、このユーティリティではマイグレートされません。ZENworks Asset Management インベントリデータのマイグレート方法については、29 ページのセクション 3.3.3 「その他のソフトウェア」を参照してください。

マイグレートされないものと、マイグレーション中に変更されるものの詳細については、77 ページの付録 A 「マイグレーションデータ」を参照してください。

3.3.3 その他のソフトウェア

次のものは、その他の方法によってアップグレードまたはマイグレートされます。

- ◆ インベントリデータ: ZENworks Asset Management マイグレーションユーティリティを使用して、インベントリ履歴などの従来のインベントリデータを、ZENworks 7 から ZENworks Configuration Management にマイグレートできます。このユーティリティにアクセスして実行するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザで、次の URL に移動します。

`http://zenworks_primary_server_id/zenworks-setup/?pageId=tools`

また、ZAMmigration.exe を一時的な場所にダウンロードします。

2. ZAMmigration.exe を実行して、ワークステーションにインストールします。
 3. ユーティリティを、サポートされている Windows デバイス上で実行するには、
[スタート] > [すべてのプログラム] > [ZENworks] > [ZENworks Asset Management マイグレーションユーティリティ] の順にクリックします。
- ◆ **PatchLink:** PatchLink* Update は、ZENworks Configuration Management のインストールの一部として、最新のパッチが自動的にインストールされます。
 - ◆ **AdminStudio:** Macrovision AdminStudio ZENworks Edition は、Novell ZENworks Configuration Management CD に収録されています。これは、オプションでインストールします。Novell Application Launcher アプリケーションをマイグレートするために ZENworks マイグレーションユーティリティに必要な AdminStudio の一部は、マイグレーションユーティリティとともに自動的にインストールされます。

3.4 マイグレーションの計画

従来の ZENworks を Configuration Management にアップグレードするには、従来の ZENworks システムからマイグレートする eDirectory オブジェクトと関連付けを決定しなければなりません。すべてをマイグレートしたり、eDirectory の構成と同じ方法で構成したりする必要はありません。

マイグレーションを計画する場合は、次のことを考慮します。

- ◆ 30 ページのセクション 3.4.1 「ZENworks システムの共存」
- ◆ 31 ページのセクション 3.4.2 「LDAP 認証」
- ◆ 32 ページのセクション 3.4.3 「PXE デバイスとサーバ参照リスト」
- ◆ 33 ページのセクション 3.4.4 「インクリメンタルマイグレーション」
- ◆ 33 ページのセクション 3.4.5 「マイグレーション順序」
- ◆ 33 ページのセクション 3.4.6 「管理ゾーンの設定」
- ◆ 34 ページのセクション 3.4.7 「ワークステーションのマイグレート」
- ◆ 35 ページのセクション 3.4.8 「ユーザの識別」
- ◆ 35 ページのセクション 3.4.9 「Configuration Management 内のフォルダ使用」
- ◆ 36 ページのセクション 3.4.10 「マイグレーションモデリング」
- ◆ 37 ページのセクション 3.4.11 「最新情報」

3.4.1 ZENworks システムの共存

Configuration Management を環境に導入する場合は、次のことが発生します。

- ◆ **インストール:** Configuration は、Configuration Management の管理ゾーンにあるプライマリサーバにインストールされます。このサーバは、従来の ZENworks ソフトウェアを実行することはできません。

インストールによって、管理ゾーンと ZENworks データベースが設定されます。別のサーバ上にある外部データベースを使用しない場合は、最初のインストール済みプライマリサーバが、データベースをホストします。

- ◆ **マイグレーション:** eDirectory データは、読み込み専用アクセスを使用して、プライマリサーバ上の ZENworks データベースにマイグレートされます。

Configuration Management へのマイグレーションは、eDirectory データの読み取りによる、ZENworks データベース内の類似オブジェクト、属性、および割り当ての作成から構成されます。ユーザは、Configuration Management にマイグレートされません。Configuration Management では、マイグレートされるユーザ関連付けがある場合は、eDirectory をユーザソースとして使用するだけです。

ユーザ関連付けをマイグレートする前に、ユーザソースを ZENworks コントロールセンターに作成する必要があります。

- ◆ **管理対象デバイス** : Configuration Management によって管理される各デバイスに、ZENworks Adaptive Agent がインストールされます。これらのデバイスは、管理ゾーン内にあるワークステーションやプライマリサーバなどです。

Adaptive Agent をインストールすると、従来の ZENworks Agent ソフトウェアも管理対象デバイスから削除されるため、管理対象デバイスの競合は発生しません。

特定の考慮は、共存に影響を与えます。

- ◆ Configuration Management ソフトウェアは、従来の ZENworks ソフトウェアと同じサーバでは実行できません。
- ◆ Configuration Management は、eDirectory ではなく、独自のデータベースを使用します。
- ◆ 管理対象デバイス上の従来の ZENworks Agent は Adaptive Agent に置き換わります。

このため、Configuration Management と従来の ZENworks システムは、競合することなく、現在の環境で同時に実行できます。Configuration Management と従来の ZENworks システムは共存しますが、相互運用可能ではありません。それぞれのエージェントが実行されているデバイスごとに、別々の管理ソフトウェアとして存在します。

3.4.2 LDAP 認証

ZENworks マイグレーションユーティリティは、LDAP を使用してソース eDirectory ツリーを、Web サービスを使用して宛先 ZENworks 管理ゾーンを両方とも認証し、どちらもセキュリティには TCP/IP を介した SSL を使用します。eDirectory ツリーのデフォルトである LDAP を有効にする必要があります。

eDirectory ログインでは、eDirectory を読み取るための十分な権限を持つ完全に区別されたユーザ名を指定する必要があります。マイグレーションプロセスは eDirectory を読み取るだけなので、eDirectory への書き込みは必要ありません。イメージをマイグレートしている場合は、マイグレーションユーザは .zmg イメージングファイルの読み取り権限も持っている必要があります。

eDirectory から情報を読み取る場合の LDAP SSL のデフォルトポートは 636 です。デフォルトの非 LDAP SSL ポートは 389 です。

Novell Client32™ がマイグレーションユーティリティを実行しているデバイス上で実行されていなくてもマイグレートできますが、NetWare® ボリューム上のファイルにアクセスするには Client32 が必要になる場合があります。

ZENworks 管理ゾーンへの認証は、Configuration Management をインストールしたときに確立した管理者ログイン名およびパスワードを使用して実行されます。インストール後に他の管理者ログインを ZENworks コントロールセンターに追加した場合は、必要な eDirectory への読み取り権および ZENworks Configuration Management データベースへの書き込み権を持っていると、それらも有効になります。

ゾーンのデータベースへ書き込む場合の SSL のデフォルトポートは 443 です。

3.4.3 PXE デバイスとサーバ参照リスト

Configuration Management と ZENworks Linux 管理システムが同時に実行されている場合は、次の情報が適用されます。

- ◆ **PXE デバイス** : PXE デバイスが起動される場合、PXE サービスに対してネットワーク上でブロードキャスト要求が実行されます。ZENworks Proxy DHCP サーバ (novell-proxydhcp デーモン) が、この要求に応答し、デバイスが割り当て済みプレブートワークに要求を送信できるイメージングサーバの IP アドレスなどの情報が提供されます。

PXE デバイスは、新旧両方の ZENworks システムを同時に実行している環境に存在できるので、イメージングサーバで専用の ZENworks バージョンを見つけられない場合、デバイスは割り当て済み起動前作業を判断できません。

ZENworks Configuration Management では、デバイスは複数の管理ゾーンに存在できません。割り当てられているプレブート作業が存在するかどうかを正しく判断できるように、PXE デバイスがホームゾーンに関連付けられている PXE サービスに連絡することは不可欠です。1つの管理ゾーンしか存在しない場合、すべてのプロキシ DHCP サーバで同じゾーンに属すサービスのアドレスが提供されるため、簡単に行われます。デバイスは、同じゾーン内のイメージングサーバからプレブートワークを要求でき、同じ応答を取得できます。

PXE サービスに対する PXE デバイスの初期要求は、ブロードキャストとしてネットワークに送信され、すべてのプロキシ DHCP サーバは、それぞれのゾーン (ZENworks Configuration Management と ZENworks Linux Management) またはツリー内のプロキシ DHCP サーバ (Windows または NetWare イメージングサーバを使用する従来の ZENworks バージョン) に関連する情報とともに応答します。どのプロキシ DHCP サーバが最初に応答するか (複数のプロキシ DHCP サーバが応答する場合)、またはどのサーバの応答がデバイスで使用されるかを決定することはできないので、各 PXE デバイスがホームゾーンまたはツリー内でサーバに連絡できるようにするのは不可能です。

- ◆ **サーバ参照リスト** : PXE サービスを持つ ZENworks 環境サービスの場合、サーバ参照リストの設定セクションでは、PXE デバイスを適切なイメージングサーバに接続する方法が説明されます。サーバ参照リストは PXE デバイスでのみ使用され、ZENworks Configuration Management では、1つの管理ゾーンのみ、アクティブなプロキシ DHCP サーバとサーバ参照リストがある必要があります。ネットワークセグメントでアクティブにできるのは1つの参照リストのみであるため、参照リストが設定されている ZENworks Linux Management を実行している場合は、Linux Management 用のプロキシ DHCP サービスを無効にする必要があります。このため、Configuration Management の参照リストは、すべての PXE デバイスで使用できます。

サーバ参照リストによって、すべてのデバイスがプレブートワーク割り当てについてのホームゾーンまたはツリーに連絡できるようにできます。リストには、既知の管理ゾーンまたは従来の ZENworks システムのツリーごとの、イメージングサーバの IP アドレスが含まれている必要があります。デバイスが、サーバからプレブートワークを要求する場合、サーバは最初にデバイスがサーバと同じゾーンまたはツリーに属しているかどうかを決定します。属していない場合は、デバイスのホームゾーンまたはツリーを見つけるまで、サーバは、サーバ参照リスト内の各サーバへの要求を参照します。デバイスはその後、すべての今後の要求を正しい novell-proxydhcp デーモンに送信するよう指示されます。

2つのサーバ参照リストがアクティブな場合は、次の手順を実行します。

- 1 ZENworks Configuration Management をインストールします。

手順については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』を参照してください。

- 2 Configuration Management システムで、サーバ参照リストを設定します。
- 3 Linux 管理システムでプロキシ DHCP サービスを無効にします。

3.4.4 インクリメンタルマイグレーション

マイグレーション画面は、設計上、1つの項目または何千もの項目を一度にマイグレートできる粒度を備えています。したがって、セッションで複数の項目をマイグレートでき、必要な数を使用できます。

従来の ZENworks と Configuration Management は同時に実行できますが、相互運用性はないため、部署別や地域別などによって、eDirectory オブジェクトを増分でマイグレートできます。

マイグレートするとき、ZENworks マイグレーションユーティリティでは、GUID とバージョン番号が維持されますが、キャッシュは使用されません。したがって、ワークステーションオブジェクトをマイグレートする場合には、Configuration Management でワークステーションを登録する前に、そのワークステーションに関連のあるすべての eDirectory 関連付けをマイグレートすることをお勧めします。

3.4.5 マイグレーション順序

次リストは、マイグレートできる内容と提案されるマイグレーション順序を示します。ただし、これらのマイグレーションタイプのサブセットを含め、どんな順序でもマイグレートできます。

1. アプリケーション
2. イメージ
3. ポリシー
4. ゾーンの設定
5. ワークステーション
6. 関連付け

この順序は、Configuration Management 内の関連付けを再作成するためにすでに存在する、アプリケーションと関連付けられたオブジェクトが必要な関連付けなど、可能な従属によって推奨されます。

3.4.6 管理ゾーンの設定

次の Novell Application Launcher™ 環境設定用の eDirectory 情報および ZENworks Configuration Management 内の管理ゾーン設定になるイメージングポリシーをマイグレートすることができます。

表 3-1 eDirectory からマイグレートするための ZENworks 管理ゾーン設定

ZENworks 管理ゾーン設定	eDirectory ソース
デフォルトゲートウェイ	イメージングポリシー

ZENworks 管理ゾーン設定	eDirectory ソース
デバイスイメージング割り当てルール	イメージングポリシー
DNS サフィックス	イメージングポリシー
完全更新頻度	ワークステーション用ランチャー構成設定 ユーザの場合、これらは Configuration Management 内の ZENworks Explorer Configuration ポリシーにマイグレートされます。
名前サーバ	イメージングポリシー
PXE メニュー設定	イメージングポリシー
ランダム更新最長待機時間	ワークステーション用ランチャー構成設定
手動更新	ワークステーション用ランチャー構成設定
サブネットマスク	イメージングポリシー
関連付けが解除されてからアンインストールされるまでの日数	ワークステーション用ランチャー構成設定
IP 設定	イメージングポリシー
ワークグループ	イメージングポリシー
コンピュータ名のプレフィックス	イメージングポリシー

上記にリストされている、または新しい ZENworks Explorer Configuration ポリシーの Launcher 環境設定のみが、ZENworks 環境設定管理にマイグレートされます。詳細については、[82 ページのセクション A.4 「管理ゾーンの設定」](#) を参照してください。

上記にリストしたイメージングポリシーのみが ZENworks Configuration Management にマイグレートされます。

3.4.7 ワークステーションのマイグレート

2つの異なる方法でワークステーションを ZENworks 管理ゾーン内で管理対象デバイスとして設定できます。

- ◆ マイグレーションユーティリティを使用してマイグレートを行い、ZENworks コントロールセンターを使用して Adaptive Agent をワークステーションに展開します。

これにより、ワークステーションとその他の eDirectory オブジェクト間の eDirectory 関連付けを維持することができます。

また、ワークステーション用に eDirectory オブジェクト内で確立された GUID も維持します。

- ◆ ZENworks コントロールセンターを使用してワークステーションを検出し、Adaptive Agent をワークステーションに展開します。

確立された eDirectory 関連付けおよび GUID は、維持されないため、ZENworks コントロールセンターを使用して新しい関連付けをワークステーションに作成する必要があります。

Workstation オブジェクトへの関連付けを維持したいかどうか、およびワークステーション用に維持したい GUID があるかどうかを判別します。その場合、マイグレーションユーティリティを使用してワークステーションをマイグレートし、ZENworks コントロールセンターを使用して Adaptive Agent をそこに展開します。そうでない場合、ZENworks コントロールセンターを使用してワークステーションを検出して Adaptive Agent をワークステーションに展開し、マイグレーションユーティリティのワークステーションステップを省略します。

3.4.8 ユーザの識別

ユーザは Configuration Management にマイグレートされません。eDirectory オブジェクトは、Configuration Management から簡単に選択されます。このため、eDirectory 内でユーザオブジェクトを変更すると、Configuration Management ですぐに認識されます。

最初に ZCC 内でユーザソースを設定してから、**推奨順序**に従ってオブジェクトタイプをマイグレートする必要があります。ユーザソースが Configuration Management に認識される場合は、ユーザの従属関係は、マイグレーション中はさらに簡単に解決されます。

重要: マイグレート中のユーザソースと関連オブジェクトは、同じツリー内にある必要があります。

Active Directory ユーザは、eDirectory ユーザと同じ方法で Configuration Management で使用されます。ただし、従来の ZENworks システムでは、Active Directory にはマイグレートするディレクトリオブジェクトはありません。Active Directory が ZENworks コントロールセンターで環境設定され、eDirectory および Active Directory が Novell Identity Manager または類似のユーティリティのいずれかを使用して同期化されている場合は、eDirectory ユーザの関連付けを Active Directory のユーザにマイグレートできます。

3.4.9 Configuration Management 内のフォルダ使用

コンテキストを使用して eDirectory でオブジェクトを整理するのと同じような方法で、Configuration Management はフォルダを使用します。フォルダ構造を定義することで、Configuration Management 内でマイグレート済みデータの整理方法を計画する必要があります。

Configuration Management 内でフォルダを作成する場合は、次のことに留意してください。

- ◆ Configuration Management には、eDirectory ツリー名コンテキストなどの、フォルダを配置できるアクセス可能なルートディレクトリはありません。代わりに、Configuration Management には、オブジェクトをマイグレートできる場所のデフォルトの開始パスを提供する異なる Configuration Management コンポーネントに対して特定の基本ルートレベルフォルダが提供されています。たとえば、マイグレートされるすべてのポリシーは Policies フォルダの下に配置されます。ZCC 内では、マイグレート済みポリシーは [ポリシー] ページに表示されます。
- ◆ eDirectory コンテキストを Configuration Management にマイグレートできます。これらは ZENworks データベースのフォルダに変換されます。マイグレートする現在のタイプに適用可能なコンテキスト内の下層にあるものもすべて、マイグレーションキューに入ります。

たとえば、アプリケーションをマイグレートしている場合、サブコンテナにあるアプリケーションオブジェクトも含む、コンテナの下のすべてのアプリケーションオブジェクトは待ち行列に追加されます。マイグレート前に、キュー済みフォルダにある削除したくないオブジェクトを削除できます。

- ◆ マイグレーション画面を使用して、**Configuration Management** 内に新しいフォルダを作成できます。これらのフォルダは、どんな方法でもネストできます。**eDirectory** にある場合はいつでも、**eDirectory** オブジェクトをこれらのフォルダにドラッグできます。

eDirectory にある **Configuration Management** の同じ組織を維持する必要はありません。ただし、コンテナへの可能な関連付けのため、コンテナにグループ化された **eDirectory** オブジェクトがある場合は、コンテキストに含まれる個別のオブジェクトではなく、これらのコンテキストをマイグレートすることをお勧めします。

- ◆ **eDirectory** オブジェクトを新しい **Configuration Management** フォルダにドラッグアンドドロップする前に、空のフォルダをマイグレートして、**Configuration Management** でディレクトリ構造を作成できます。マイグレーションの目的のためには、ナビゲーションの違いによって、**ZCC** で実行するよりは **ZENworks** マイグレーションユーティリティから実行するほうが高速です。
- ◆ イメージオブジェクトをマイグレートするときには、オブジェクトに含まれているイメージング情報がイメージングバンドル情報として **ZENworks Configuration Management** データベースにマイグレートされます。ただし、実際のイメージファイル (.zmg) は、イメージングサーバ上のイメージングディレクトリにコピーされます。この配置は制御できません。

3.4.10 マイグレーションモデリング

マイグレーション画面は、マイグレーションをモデル化できるように設計されているので、モデルを改良した後にマイグレーションを実行します。モデリングデータは、後から改訂できるようにワークステーションに自動的に保存されます。したがって、このユーティリティのモデリング機能を使用して、マイグレーションを視覚的に計画できます。

マイグレーション画面を使用してモデル化するには、オブジェクト、コンテキスト、および関連付けを **eDirectory** ツリービューから選択して、**Configuration** 管理ゾーンのビューにドラッグし、マイグレーションの待ち行列に入れます。これらの項目 (オブジェクト、コンテキスト、および関連付け) は、**Configuration Management** オブジェクト、フォルダ、および関連付けなどの宛先パネルのリストに表示されます。これらのアイコンとテキストは、すでにマイグレートされている **Configuration Management** の項目 (ティールブルー) と区別するために、淡色表示されます。黒色テキストの項目は、元は **Configuration Management** 内に作成され、別のワークステーションからマイグレートされました。マイグレーション履歴ファイルは、ユーティリティを実行しているワークステーションに保持されるためです。

ティールカラーは、今までにワークステーションから何がマイグレートされたかを常に認識できるように、一貫性を持ちます。**eDirectory** ツリーと **ZENworks** データベースコンテンツのリストはどちらも、マイグレートされた項目に対してティールカラーを維持します。これは、**eDirectory** の観点から何がマイグレートされたかを認識するのに役立つことがあります。

マイグレートするには、マイグレーション画面を使用して、マイグレートする項目を待ち行列に入れ、待ち行率に入れる際にユーティリティで識別される問題を解決して、ボタンをクリックして、**eDirectory** データを **ZENworks** データベースにマイグレートします。し

たがって、紙面上でマイグレーションを計画するだけでなく、マイグレーション画面のこのモデリング機能を使用して、実際にマイグレーションを実行する前に、マイグレーションを視覚化できます。

マイグレーション画面は、マイグレーションタスクで動作します。[33 ページのセクション 3.4.5 「マイグレーション順序」](#) で説明されているタスクは、それぞれが1つのマイグレーションセッションです。選択したタスクは、[今すぐ移行] ボタンをクリックしたときにマイグレートされます。したがって、少なくとも、[今すぐ移行] ボタンを数回クリックして eDirectory データをマイグレートする計画を立てる必要があります。ただし、マイグレーションタスクごとに多くのセッションで構成されるインクリメンタルマイグレーションをモデル化できます。

3.4.11 最新情報

紙面上でマイグレーションを計画するだけでなく、マイグレーション画面を使用してマイグレーションをモデル化できます。マイグレーション画面を使用して開始するには、[39 ページの第 4 章 「ZENworks Configuration Management へのマイグレート」](#) に進みます。

ZENworks Configuration Management へのマイグレート

4

従来の ZENworks® ソフトウェアを Configuration Management にマイグレートするには、次のタスクを順序どおりに実行します。

1. 39 ページのセクション 4.1 「前提条件」
2. 41 ページのセクション 4.2 「ZENworks マイグレーションユーティリティの開始」
3. 43 ページのセクション 4.3 「マイグレーション元の選択」
4. 45 ページのセクション 4.4 「マイグレーション先の選択」
5. 47 ページのセクション 4.5 「アプリケーションのマイグレート」
6. 55 ページのセクション 4.6 「イメージのマイグレート」
7. 59 ページのセクション 4.7 「ポリシーのマイグレート」
8. 63 ページのセクション 4.8 「管理ゾーン設定のマイグレート」
9. 65 ページのセクション 4.9 「ワークステーションのマイグレート」
10. 69 ページのセクション 4.10 「関連付けのマイグレート」
11. 75 ページのセクション 4.11 「管理するマイグレート済みワークステーションの設定」
12. 75 ページのセクション 4.12 「マイグレートしたワークステーションのイメージの作成」
13. 75 ページのセクション 4.13 「ZENworks の従来のインストールの管理」

4.1 前提条件

Configuration Management へのマイグレートの前提条件を満たすためには、次の手順を実行します。

1. マイグレートする ZENworks のバージョンが次のいずれかであることを確認してください。
 - ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1
 - ◆ ZENworks Desktop Management 6.5
 - ◆ ZENworks 7.x デスクトップ管理

重要：現在インストールされている従来の ZENworks システムには、Novell® eDirectory™ ツリーと ZENworks スキーマがインストールされており、ZENworks eDirectory オブジェクトがツリー内にリストされている必要があります。ZENworks マイグレーションユーティリティを使用して、従来のバージョンの ZENworks に存在しない新しいオブジェクトや属性を Configuration Management 内に作成することはできません。ただし、ユーティリティを使用して新しいフォルダを作成することはできません。

- 2 eDirectory データのマイグレートのために、管理ゾーンを確立し、ターゲット ZENworks データベースを提供するには、Configuration Management ソフトウェアを ZENworks Configuration Management データベースとともに少なくとも 1 つのプライマリサーバにインストールします。

詳細については、『*Zenworks Configuration Management インストールガイド*』を参照してください。

- 3 ZENworks コントロールセンターを使用して、ユーザのユーザソースを設定し、ユーザが関連付けられている eDirectory 項目を正常にマイグレートできるようにします。ユーザソースの設定方法については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「ユーザソース」を参照してください。

eDirectory を ZENworks Configuration Management のユーザソースとして継続して使用するには、eDirectory のバージョンを最小要件を満たすようにアップデートする必要があります。ZENworks Configuration Management での eDirectory の最小要件については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「信頼されたユーザソース」を参照してください。

ただし、eDirectory に従来の ZENworks オブジェクトとのユーザ関連付けがない場合は、ユーザソースは必要ありません。

- 4 eDirectory の 8.7 以前のバージョンを実行している場合、または Starter Pack 1.0 からアップグレードした場合は、ステップ 4b に一覧表示されている LDAP 属性が適切にマップされていることを確認してください。LDAP はマイグレーション中に既存のアプリケーション属性を読み取るために使用されます。

新しいバージョンの eDirectory では、新しい属性名に自動的にスペースとコロンをマップします。使用しているバージョンの eDirectory に複数のバージョンの属性がある場合 (1 つはコロンを使用し、他では代わりにスペースを使用するなど) は、自動マッピング機能によりマイグレーションユーティリティにスペースのみを使用するバージョンを提供することができます。ただし、コロンを使用する属性のバージョンほうがマイグレーションには適しています。

Configuration Management へアプリケーションをマイグレートするための属性マッピングを設定するには、次の手順を実行します。

- 4a ConsoleOne で、LDAP グループオブジェクトを選択して、[属性マッピング] タブをクリックします。
- 4b 次の属性を見つけて、正しい名前をマップします。

古い属性名	新しい属性名
App:Path	appPath
App:Icon	applcon
App:Contacts	appContacts
App:Working Directory	appWorkingDirectory
App:Drive Mappings	appDriveMappings
App:Printer Ports	appPrinterPorts
App:Parameters	appParameters
App:Flags	appFlags
App:Startup Script	appStartupScript
App:Shutdown Script	appShutdownScript

4c 変更内容を保存します。

- 5** ユーティリティを実行する Windows デバイスに ZENworks マイグレーションユーティリティ実行可能ファイルをダウンロードしてインストールします。詳細については、[28 ページのセクション 3.2 「ZENworks マイグレーションユーティリティのインストール」](#)を参照してください。
- 6** マイグレーションを計画します。
ZENworks マイグレーションユーティリティをモデリングツールとして使用し、計画で役立てることができます。詳細については、[30 ページのセクション 3.4 「マイグレーションの計画」](#)を参照してください。
- 7** [41 ページのセクション 4.2 「ZENworks マイグレーションユーティリティの開始」](#)に進みます。

4.2 ZENworks マイグレーションユーティリティの開始

ZENworks マイグレーションユーティリティは、次のデバイスで実行できます。

- ◆ Windows* Server 2003 SP1
- ◆ Windows 2000 SP4 ワークステーション
- ◆ Windows XP SP2
- ◆ Windows XP SP3
- ◆ Windows Vista*
- ◆ Windows Vista SP1
- ◆ Windows Server 2008

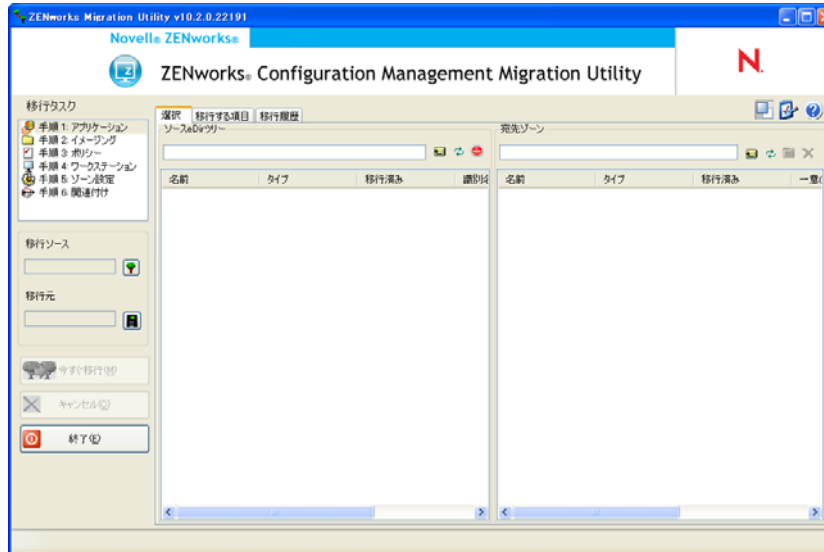
また、Microsoft .NET 2.0 以降が必要です。


ZENworks マイグレーションユーティリティは、下位の互換性はありません。ZENworks サーバをアップグレードするときは必ず ZENworks サーバから最新バージョンのマイグレーションユーティリティをコピーしてインストールしてください。詳細については、[41 ページのステップ 5](#)を参照してください。

ZENworks マイグレーションユーティリティを開始する

- 1 サポートされている Windows デバイスで、[スタート] > [すべてのプログラム] > [Novell ZENworks] > [ZENworks Configuration Management Migration Utility] > [起動] の順にクリックします。
- 2 (条件付き) デフォルトでは、初回に最新情報ウィンドウが表示されます。ユーティリティを起動するたびにこのウィンドウを表示したくない場合は、[今後このメッセージは表示しない] オプションをオンにします。
- 3 [OK] をクリックします。

図 4-1 ZENworks Configuration Management マイグレーションユーティリティ



注: 最新情報ウィンドウを起動するには、ユーティリティの右上の  をクリックします。

- 4 [43 ページのセクション 4.3 「マイグレーション元の選択」](#)に進みます。

4.3 マイグレーション元の選択

マイグレーション元の Novell eDirectory ツリーを識別し、ログインするには、次の手順を実行します。

図 4-2 マイグレーション元

The screenshot shows a dialog box titled "eDir ログイン" (eDir Login). The window has a blue title bar and a header area with the Novell ZENworks logo and the text "ZENworks Configuration Management Migration Utility". The main area is light beige and contains several input fields and a checkbox. The "ツリー(T):" field is a dropdown menu currently showing "<新しいツリー>". Below it are text boxes for "ユーザ名(例: cn=admin,o=novell)(U):", "パスワード(P):", and "サーバ (DNS名またはIPアドレス)(S):". The "LDAPポート(L):" field contains the number "636" and a checked checkbox labeled "SSLを使用する(E)". At the bottom, there are three buttons: "ヘルプ", "OK", and "キャンセル".

1 次のフィールドを入力し、マイグレーション元の eDirectory ツリーを認証します。

ツリー: このフィールドは、[eDir ログイン] ダイアログボックスに最初にアクセスしたときには表示されません。

2 回目および後続のログインでは、ドロップダウンリストからこのダイアログボックスを使用して以前にログインしたツリーが使用できます。

このダイアログボックスを使用するたびに、最後にログインしたツリーは、ここに表示されます。

リストされていない eDirectory ツリーを追加するには、[<New Tree> (新規ツリー)] デフォルトオプションを選択して、他のフィールドを入力し、[OK] をクリックします。その後、そのツリーはドロップダウンリストで使用可能になります。

ユーザ名: LDAP ユーザ名を指定します。

たとえば、cn=readonlyuser,ou=container,o=organization のようになります。

マイグレーションユーティリティを使用してこのツリーに初めてログインした場合は、何も表示されません。初めてでない場合は、最後に使用したユーザ名が表示されます。

[ツリー] フィールドで eDirectory ツリーを選択する場合、このフィールドには、そのツリーで前回使用したユーザ名が自動的に入力されます。

注: オブジェクトをマイグレートするには、ユーザが eDirectory で少なくとも読み込みと比較権限を持ち、これらのオブジェクトを含むコンテナの保管人として設定されている必要があります。保管人追加の詳細については、『*ConsoleOne ユーザガイド* (<http://www.novell.com/documentation/consol13>)』を参照してください。

パスワード: パスワードを指定します。これは、認証のたびに入力する必要があります。

サーバ: eDirectory ツリーをホストするサーバでは、DNS 名または IP アドレスのどちらかを指定します。[ツリー] フィールドで eDirectory ツリーを選択する場合は、このフィールドは自動的に入力されます。

LDAP ポート: LDAP ポートを指定します。デフォルトポートである、SSL には 636、非 SSL には 389 が表示されます。通信のパスワード保護には、SSL を推奨します。[ツリー] フィールドで eDirectory ツリーを選択する場合は、このフィールドは自動的に入力されます。

SSL の使用: SSL を使用している場合、このチェックボックスを選択します。このフィールドは、[ツリー] フィールドにある項目を選択すると、以前の選択肢に自動的に設定されます。

2 [OK] をクリックします。

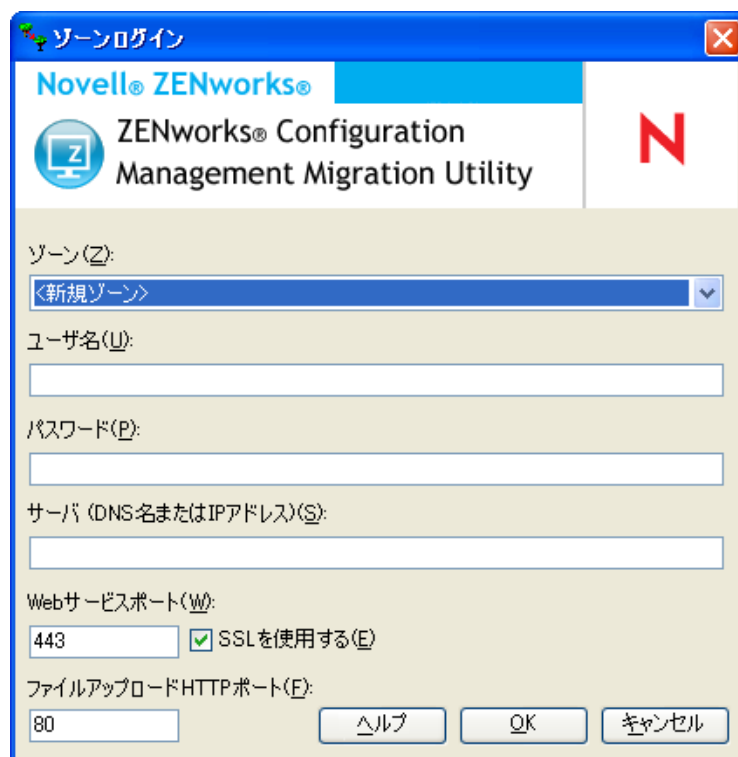
[ソース eDir ツリー] セクションには、使用できるすべての eDirectory 情報が表示され、このレベルに含まれる組織が最初に表示されます。[マイグレーション元] フィールドには、ツリー名も表示されます。

3 マイグレーション先を選択するには、**45 ページのセクション 4.4 「マイグレーション先の選択」**に進みます。

4.4 マイグレーション先の選択

マイグレーション元の Novell ZENworks Configuration Management 管理ゾーンを識別し、ログインするには、次の手順を実行します。

図 4-3 マイグレーション先



- 1 次のフィールドを入力して、宛先の管理ゾーンに認証します。

ゾーン: このフィールドは、[ゾーンログイン] ダイアログボックスに最初にアクセスしたときには表示されません。

2 回目および後続のログインでは、ドロップダウンリストからこのダイアログボックスを使用して以前にログインしたゾーンが使用できます。

このダイアログボックスを使用するたびに、最後にログインしたゾーンは、ここに表示されます。

リストされていない管理ゾーンを追加するには、[<新規ゾーン>] デフォルトオプションを選択して、他のフィールドを入力し、[OK] をクリックします。その後、そのゾーンはドロップダウンリストで使用可能になります。

ユーザ名: ゾーンのユーザ名を指定します。[管理者] が通常使用されます。

たとえば、管理者が ZENworks コントロールセンターを通してスーパー管理者権限が与えられた `admin1@tree1` という名前の LDAP ユーザである場合、次の基準に基づいてユーザ名を指定します。

- ZENworks コントロールセンターに `admin1` と同じ名前で作成されたその他の管理者がいない場合は、`admin1` または `admin1@tree1` という名前でユーザ名を指定できます。
- ZENworks コントロールセンターに `admin1@tree2`、`admin1@tree3`、または `admin1` などと同じ名前で作成された他の管理者がいる場合は、完全なユーザ名：`admin1@tree1` を指定する必要があります。

マイグレーションユーティリティを使用してこのゾーンに初めてログインした場合は、何も表示されません。初めてでない場合は、最後に使用したユーザ名が表示されます。

[ゾーン] フィールドで管理ゾーンを選択した場合、このフィールドには、そのゾーンにログインするのにマイグレーションツールで最後に使用したユーザ名が自動的に入力されます。

パスワード: パスワードを指定します。これは、認証のたびに入力する必要があります。

サーバ: 管理ゾーンデータベースをホストするサーバの場合、DNS 名または IP アドレスのいずれかを指定します。このフィールドは、管理ゾーンを [ゾーン] フィールドで選択する場合には、自動的に入力されます。

Web サービスポート: Web サービスポートを指定します。デフォルトポートの 443 が表示されます。このフィールドは、管理ゾーンを [ゾーン] フィールドで選択する場合には自動的に入力されます。

SSL の使用: SSL を使用しているかどうかを選択します。

HTTP ポートのファイルアップロード: HTTP ポートを指定します。デフォルトポートの 80 が表示されます。このフィールドは、管理ゾーンを [ゾーン] フィールドで選択する場合には、自動的に入力されます。

2 [OK] をクリックします。

[宛先ゾーン] パネルでは、[マイグレーション履歴] タブと同様、ティールブルーテキストを使用してすでにマイグレートされている項目を表示します。またもともと ZENworks コントロールセンターで作成され、マイグレートされることのない項目は、黒色のテキストで表示されます。前に現在のワークステーションで ZENworks マイグレーションユーティリティを使用してマイグレーションをモデル化した場合は、まだマイグレートされていない項目は、淡色表示で表示されます。


3 マイグレートする項目を選択するには、適切なセクションに進みます。

1. [47 ページのセクション 4.5 「アプリケーションのマイグレート」](#)
2. [55 ページのセクション 4.6 「イメージのマイグレート」](#)
3. [59 ページのセクション 4.7 「ポリシーのマイグレート」](#)
4. [65 ページのセクション 4.9 「ワークステーションのマイグレート」](#)
5. [69 ページのセクション 4.10 「関連付けのマイグレート」](#)

上記リストは、考えられる従属関係による、提案されたマイグレーション順序を示します。ただし、サブセットを含めて、いかなる順序でもマイグレートできます。

4.5 アプリケーションのマイグレート

アプリケーションを eDirectory から Configuration Management にマイグレートするには次の手順を実行します。

- 1  ([マイグレーションツール設定] アイコン) をクリックして、次の手順を実行します。

- 1a ZENworks® データベースの既存のアプリケーションオブジェクトを上書きするには、[一般] タブをクリックし、次に [すでに存在するオブジェクトを上書き] オプションをオンにします。

警告：これは、前にマイグレートされたオブジェクトを含め、データベース内の既存のアプリケーションオブジェクトを上書きします。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。

- 1b アプリケーションのマイグレートで使用可能なオプションにアクセスするには、[アプリケーション] をクリックし、次に希望の設定を指定します。


設定	説明
失敗した MSI ビルドの移行	<p>ユーティリティが、1つまたは複数の属性を MSI にマイグレートできなかった場合は、<i>[失敗した MSI ビルドの移行]</i> オプションを使用すると、強制的にアプリケーションのマイグレーションが行えます。</p> <p>MSI バンドルは、AOT アプリケーションオブジェクトが MSI に変換される際に警告が生成された場合、失敗したとみなされます。これらの MSI バンドルは、警告にも関わらず正常にマイグレートされることがよくあります。たとえば、AOT に含まれている Windows* ショートカットリンクがもはや有効ではないために、警告が生成されることがあります。</p> <p>このオプションを有効にする場合は、警告メッセージは表示されません。マイグレートされなかった属性に関する情報はマイグレーションログで確認できます。</p>
作成された MSI および一時ファイルを保持する	<p><i>[作成された MSI および一時ファイルを保持する]</i> オプションは、アプリケーションが作成されてマイグレートされることを意味しますが、一時ファイルを保持しているディレクトリと新しい MSI ファイルは自動的に削除されません。これにより、Configuration Management 内のコンテンツサービスに組み込まれる前に新しく作成された MSI へアクセスできるようになります。</p>
コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード	<p><i>[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード]</i> オプションを使用すると、コンテンツサーバにコンテンツをアップロードできます。デフォルトではこのオプションが選択されています。</p> <p>アプリケーションは、Install MSI アクションとして ZENworks Configuration Management サーバにマイグレートされます。また、<i>[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード]</i> オプションが選択されており、マイグレーション時にファイルのソースパスがローカルパスまたは UNC パスに解決される場合、コンテンツサーバにもアップロードされます。</p> <p>次のシナリオでは、アプリケーションは Install Network MSI アクションでバンドルとして ZENworks Configuration Management サーバにマイグレートされ、コンテンツサーバにはアップロードされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ <i>[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード]</i> オプションが選択解除されています。 ◆ <i>[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード]</i> オプションが選択されていますが、マイグレーション時にファイルのソースパスがローカルパスまたは UNC パスに解決されないか、ファイルが見つかりません。

設定	説明
個別アクションとして配布オプションを移行	<p>[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションにより、INI 編集アクション、レジストリの編集アクション、または編集可能な実行スクリプトアクションなど、個々のアクションとしてアプリケーションの配布オプションをマイグレートできます。デフォルトでこの設定が選択されています。[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションを選択解除すると、MSI としてアプリケーションの配布オプションをマイグレートします。</p> <p>[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションが有効である場合は、アプリケーションは固有のアクションでバンドルとしてマイグレートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ レジストリの変更があるアプリケーションは、レジストリの編集アクションでバンドルとしてマイグレートされます。 ◆ INI 設定があるアプリケーションは、INI ファイルの編集アクションでバンドルとしてマイグレートされます。 ◆ テキストファイルの変更があるアプリケーションは、テキストファイルの編集アクションでバンドルとしてマイグレートされます。 ◆ アイコンやショートカットがあるアプリケーションは、実行スクリプトアクションまたはファイル削除アクションと共に Windows のバンドルとしてマイグレートされます。 ◆ アプリケーションファイル変更があるアプリケーションは、次のアクションでバンドルとしてマイグレートされます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ ファイルのコピーまたはファイルのインストールアクションとしてのファイル。 ◆ ディレクトリのコピー、ディレクトリのインストール、またはディレクトリの作成 / 削除アクションとしてのディレクトリ。 ◆ ファイル削除アクションとしてのファイルの削除 ◆ ディレクトリの作成 / 削除アクションとしてのディレクトリの削除。 <p>[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションが無効である場合は、アプリケーションは MSI のインストールアクションでバンドルとしてマイグレートされます。ただし、テキストファイル編集アクション、ディレクトリのコピー、ディレクトリのインストール、ファイル削除は、この MSI のインストールアクションの一環ではありません。</p>

設定	説明
作業ディレクトリ	[作業ディレクトリ] オプションを使用すると、一時マイグレーションファイルをデフォルトユーザの %TEMP% ディレクトリとは異なる場所に配置することができます。深いパス (256 文字以上) を持つアプリケーションをマイグレートする場合は、このオプションを使用すると c:\temp のように一時パスを短くすることができます。

- 1c [設定の保存] をクリックして、ダイアログボックスを終了します。
- 2 [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ1: アプリケーション] をクリックします。

注: マイグレーションユーティリティでは、配布ルールの複雑なすべての組み合わせのマイグレーションをサポートできるようになりました。従来の ZENworks の新規グループを含む配布ルールは、ZENworks Configuration Management 内のフィルタおよびフィルタセットの組み合わせとしてマイグレートされます。

- 3 マイグレーションをモデル化するには、次の手順を実行します。
 - 3a [ソース eDir ツリー] パネルで、eDirectory コンテキストに移動してアプリケーションオブジェクトを探し、マイグレーションのキューに入れます。[ソース eDir ツリー] のオブジェクトのリストを停止するには、 のオブジェクトのリストを停止します。

表示される eDirectory 情報は、マイグレートしている情報のタイプに従ってフィルタ処理されます。したがって、選択したタイプに対してマイグレートできるコンテキストおよびオブジェクトをブラウズするだけですみます。
 - 3b 必要に応じて、[宛先ゾーン] パネルの任意の場所を右クリックし、マイグレーションの待ち行列に入れるオブジェクトのフォルダを作成して、[新規フォルダ] を選択します。

ネストを含め、必要な数のフォルダを作成できます。この構造は、ZENworks データベース内で作成され、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとして表示可能です。ただし、[今すぐ移行] ボタンをクリックするまではフォルダは作成されません。

アプリケーションオブジェクトをフォルダ内のキューに入れる前に、アプリケーションオブジェクトのフォルダ構造を決定して、そのフォルダを作成およびマイグレートすることができます。

また、既存の eDirectory コンテナも、すべてのアプリケーションオブジェクト (サブコンテナ含む) も、マイグレートできます。コンテナは、コンテナの下になる eDirectory に存在するすべてのアプリケーションオブジェクトを含むフォルダに変換されます。[ソース eDir ツリー] パネル内のコンテナを選択して [宛先ゾーン] パネルにドラッグする場合は、すべてのサブコンテナとアプリケーションオブジェクトも、それぞれのフォルダ内の [宛先ゾーン] パネルに置かれます。

[宛先ゾーン] パネルのコンテナを待ち行列に入れた後で、項目を選択し、右クリックして、[選択した項目の削除] を選択することによって、マイグレートしない待ち行列に入れられた項目を個別に削除できます。削除操作を確認するメッセージが表示されます。
 - 3c [ソース eDir ツリー] パネルで、マイグレートするアプリケーションオブジェクトまたはコンテナを選択して、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。

これは、マイグレーションの項目をキューに入れます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。1 つのパネルから別のパネルに項目をドラッグすると、[宛先ゾーン] パネルにリストされた項目が自動的に保存されます。

項目を複数回ドラッグする場合は、一度だけキューに入ります。

サイトリスト上アプリケーションをドラッグしたとき、その複製がすでにキューに入っている場合は、どちらをマイグレートするか決定して重複を解決するよう求めるメッセージが表示されます。項目を右クリックして、マイグレートする項目を決定するのに役立つ情報について、[属性を表示] を選択できます。

増加させてマイグレートする場合は、このときにマイグレートしたいオブジェクトのみをキューに入れる必要があります。[宛先ゾーン] パネルにキュー済みのすべての項目は、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

[移行する項目] タブで、マイグレートする項目数 (宛先ゾーン] パネルにコピー済み) は、タブのラベルの括弧内に表示されます。

[移行する項目] タブにある [マイグレーションステータス] フィールドには、マイグレーションについて選択した項目に関連する情報が表示されます。たとえば、ZENworks マイグレーションユーティリティは、eDirectory 名の文字が Configuration Management で使用できない場合に、Configuration Management 内のオブジェクト名を調整することがあります。たとえば、コロン (:) は、アンダースコア (_) 文字で置換されます。

- 4 必要に応じて **ステップ 3** を繰り返し、この時点でマイグレーションのためにモデル化するアプリケーションオブジェクトすべてを探してキューに入れます。

重要: [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っているアプリケーションオブジェクトはすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

- 5 [宛先ゾーン] パネルでの選択を確認します。

フォルダに移動し、マイグレーションのキューに入っているアプリケーションオブジェクトを表示できます。

[移行する項目] タブで、チェーン済みアプリケーションは個別にリストされますが、[選択] タブの [宛先ゾーン] パネルは、親アプリケーションの下に階層化されてリストされます。

- 6 マイグレートする前にマイグレーションキューから項目を削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 項目を選択して **X** アイコンをクリックします。
- 選択した項目を右クリックして、[Delete selected items (選択した項目の削除)] をクリックします。

これは、[移行する項目] タブおよび [選択] タブの [宛先ゾーン] パネルで行えます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。この選択内容には、フォルダとその内容を含みます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告: 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、Configuration Management データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- 7 サブフォルダに含まれる淡色表示の項目すべてを含め、[宛先ゾーン] パネルに表示されている淡色表示の項目すべてをマイグレートするには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後に、マイグレーションユーティリティに適用されます。

- フォーカスは、すぐに [移行する項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- [ステップ] カラムには、マイグレート中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは、マイグレーションユーティリティの一番下にあります。
- すでに複製が宛先ゾーンパネルのマイグレーションのキューに入っている、サイトにリストされたアプリケーションをドラッグすると、どれをマイグレートするか選択するようメッセージが表示されます。項目を右クリックして、マイグレートする項目を決定するのに役立つ情報について、[属性を表示] を選択できます。
- [マイグレーション履歴] タブには、マイグレートされたすべての項目が表示されます。このリストは、項目がマイグレートされると動的に更新されます。マイグレーションプロセス中に、[移行する項目] と [マイグレーション履歴] のタブをクリックで切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないもののマイグレートされる項目が含まれるビューを更新できます。
- [選択] タブには、マイグレート済みオブジェクトすべてが表示され、マイグレート後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

暗い灰青色で表示されたままになるため、次にマイグレーションユーティリティを開いて [ソース eDir ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前にマイグレートした項目を確認できます。

- マイグレーションに失敗したオブジェクトは、淡色表示のアイコンで表示されて続行されます。
マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、[ステップ 8](#) を参照してください。
- チェーン済みアプリケーションは、[マイグレーション履歴] タブに個別に表示されますが、[マイグレーションログ] カラムには、アプリケーションのログではなく GUID が表示されます。他のオブジェクトがチェーンされたメインのアプリケーションオブジェクトにのみ、[ログ表示] ボタンがカラムに表示されます。
- マイグレーション中に、マイグレートされるアプリケーションごとに一時作業フォルダがワークステーションに作成されます。これらのフォルダは、各アプリケーションが正常にマイグレートされると、削除されます。

INI 設定のマイグレート中、従来の ZENworks における INI 設定の配布オプションは、ZENworks Configuration Management で最も利用可能なオプションにマッピングされます。次の表でマッピングの説明をしています。

従来の ZENworks における INI 設定の配布オプション	ZENworks Configuration Management におけるマッピングされたオプション
常に作成	キーを追加
存在しない場合に作成	見つからない場合はキーを追加
作成するか、既存のセクションに追加	キーが存在する場合でもキーを追加
存在する場合に作成	キーの値を置換
削除	キーを削除
作成するか、既存の値に追加	値の追加または付加
既存の値を削除	値を削除

8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前にマイグレートした項目を [宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- ◆ マイグレートする他の項目を検出する場合は、**ステップ 3** から **ステップ 7** までを繰り返します。
- ◆ [宛先ゾーン] パネルに一覧表示された項目を削除するには、項目を選択して、**X** をクリックします。

警告: [宛先ゾーン] パネルでは、以前にマイグレート済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターに作成されたか別のワークステーションからマイグレートされたデータは黒色テキストで表示されます。削除オプション (**X**) は、どちらにも使用できます。したがって、以前に Configuration Management からマイグレートされていない既存の項目を削除することもできます。これには、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとその下に含まれるすべてのデータが含まれます。

8b [移行する項目] タブで、マイグレートに失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目をマイグレートするか、[移行する項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。

8c マイグレートしない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[移行する項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。

これによって、[移行する項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだマイグレートされていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択する場合は、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方からリスト済み項目すべてが削除され、ZENworks データベースからも削除され、ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除] を使用して、キュー済み (未マイグレート) 項目のみを削除するには、[移行する項目] タブから削除するのが最も安全です。

アプリケーションをマイグレートする際、次のシステム要件の条件はマイグレートされません。

- ◆ プロセッサは、Pentium^{*} Pro, Pentium 1、Pentium 2、Pentium 3、または Pentium 4 以上。
- ◆ 従来の ZENworks のプロセッサ規則が <、>、<=、または >= に設定されている。
- ◆ オペレーティングシステムは Windows XP または Windows 2000 以外。
- ◆ オペレーティングシステムのバージョンは 5 より下に設定されている。
- ◆ リモートアクセス
- ◆ ターミナルサーバ


注: Windows バンドルが ZENworks Configuration Management にマイグレートされた後、バンドルを管理対象デバイスに割り当てると、バンドルは管理対象デバイスで再インストールされます。

9 マイグレーション結果に満足したら、次のいずれかに進みます。

- ◆ 他のアプリケーションをマイグレートするには、**50 ページのステップ 3**に進みます。
- ◆ イメージをマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで **[ステップ 2: イメージング]** をクリックします。
- ◆ ポリシーをマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで **[ステップ 3: ポリシー]** をクリックします。
- ◆ ゾーンの設定をマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで **[ステップ 4: ゾーン設定]** をクリックします。
- ◆ ワークステーションをマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで **[ステップ 5: ポリシー]** をクリックします。
- ◆ 関連付けをマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで **[ステップ 6: 関連付け]** をクリックします。
- ◆ 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、**75 ページのセクション 4.13 「ZENworks の従来のインストールの管理」**に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

4.6 イメージのマイグレート

ZENworks Adaptive Agent(従来のZENworks エージェントに代わるもの)のインストール後に、マイグレートしたワークステーションを再イメージする場合は、これらのイメージをマイグレートする必要はありません。以前のイメージを使用する場合は、マイグレートする必要はありません。

1  (マイグレーションツール設定アイコン) をクリックして、次の手順に従います。

1a ZENworks® データベース内の既存のイメージオブジェクトを上書きするには、[全般] タブをクリックし、次に [すでに存在するオブジェクトを上書き] オプションを選択します。

警告: これは、前にマイグレートされたオブジェクトを含め、データベース内の既存のイメージオブジェクトを上書きします。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。

1b コンテンツサーバの既存のイメージファイルを上書きするには、[イメージング] をクリックし、次に [コンテンツサーバの既存のイメージファイルを上書きする] オプションをオンにします。

イメージファイルがコンテンツサーバにすでに存在するイメージオブジェクトをマイグレートする場合、[コンテンツサーバ上に既存のイメージファイルを上書き] オプションをオンにして、イメージファイルを上書きできます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

1c [設定の保存] をクリックして、ダイアログボックスを終了します。

2 [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ2: イメージング] をクリックします。

3 マイグレーションをモデル化するには、次の手順を実行します。

3a [ソース eDir ツリー] パネルで、eDirectory コンテキストに移動して、マイグレートするイメージングオブジェクトを探します。[ソース eDir ツリー] のオブジェクトのリストを停止するには、 のオブジェクトのリストを停止します。

有効なイメージングオブジェクトを含んでいるコンテキストのみがブラウザ用に表示されます。有効なイメージは、標準、スクリプト、およびマルチキャストセッションイメージです。アドオンイメージはマイグレートされません。

3b 必要に応じて、[宛先ゾーン] パネルの任意の場所を右クリックして、マイグレーションのキューに入れるオブジェクトのフォルダを作成してから、[新規フォルダ] を選択します。

実際の .zmg イメージファイルは、eDirectory イメージング情報をマイグレートするときに、イメージングサーバ上(現在のプライマリサーバ)にあるイメージングディレクトリにコピーされます。ここで作成するフォルダは、Configuration Management 内でイメージングバンドルを作成するために使用される eDirectory 情報用です。

重要: イメージのマイグレーションを実行する管理者はイメージングファイルを読み取るのに十分なファイル権限を持っている必要があります。

ネストを含め、必要な数のフォルダを作成できます。この構造は、ZENworks データベース内で作成され、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとして表示可能です。ただし、[今すぐ移行] ボタンをクリックするまではフォルダは作成されません。

イメージングオブジェクトをフォルダ内のキューに入れる前に、イメージングオブジェクトのフォルダ構造を決定して、そのフォルダを作成およびマイグレートすることができます。

また、既存の eDirectory コンテナも、すべてのイメージングオブジェクト (サブコンテナ含む) も、マイグレートできます。コンテナは、eDirectory でそのコンテナの下に存在するイメージングオブジェクトすべてが含まれたフォルダに変換されます。[ソース eDir ツリー] パネル内のコンテナを選択して [宛先ゾーン] パネルにドラッグする場合は、すべてのサブコンテナとイメージングオブジェクトも、それぞれのフォルダ内の [宛先ゾーン] パネルに置かれます。

[宛先ゾーン] パネルのコンテナを待ち行列に入れた後で、項目を選択し、右クリックして、[選択した項目の削除] を選択することによって、マイグレートしない待ち行列に入れられた項目を個別に削除できます。削除操作を確認するメッセージが表示されます。

- 3c** [ソース eDir ツリー] パネルで、マイグレートするイメージングオブジェクトまたはコンテナを選択して、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。

これは、マイグレーションの項目をキューに入れます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。

1つのパネルから別のパネルに項目をドラッグすると、[宛先ゾーン] パネルにリストされた項目が自動的に保存されます。

項目を複数回ドラッグする場合は、一度だけキューに入ります。

増加させてマイグレートする場合は、このときにマイグレートしたいオブジェクトのみをキューに入れる必要があります。[宛先ゾーン] パネルにキュー済みのすべての項目は、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

[移行する項目] タブで、マイグレートする項目数 (宛先ゾーン] パネルにコピー済み) は、タブのラベルの括弧内に表示されます。

[移行する項目] タブにある [マイグレーションステータス] フィールドには、マイグレーションについて選択した項目に関連する情報が表示されます。たとえば、ZENworks マイグレーションユーティリティは、eDirectory 名の文字が Configuration Management で使用できない場合に、Configuration Management 内のオブジェクト名を調整することがあります。たとえば、コロン (:) は、アンダースコア () 文字で置換されます。

- 4** 必要に応じて **ステップ 3** を繰り返し、この時点でマイグレートするイメージングオブジェクトすべてを探してキューに入れます。

重要: [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っているイメージングオブジェクトはすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

- 5** [宛先ゾーン] パネルでの選択を確認します。

フォルダに移動し、マイグレーションのキューに入っているイメージングオブジェクトを表示できます。

- 6** マイグレーションキューから項目を削除するには、項目を選択して、**X** アイコンをクリックします。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。これには、フォルダとそのコンテンツが含まれます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告: 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、ZENworks データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- 7 サブフォルダに含まれる淡色表示の項目すべてを含め、[宛先ゾーン] パネルに表示されている淡色表示の項目すべてをマイグレートするには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後に、マイグレーションユーティリティに適用されます。

- ◆ フォーカスは、すぐに [移行する項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- ◆ [ステップ] カラムには、マイグレート中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは画面の一番下にあります。
- ◆ [マイグレーション履歴] タブには、マイグレートされるすべての項目が表示されます。このリストは、項目がマイグレートされるとダイナミックに更新されます。マイグレーションプロセス中に、[移行する項目] と [マイグレーション履歴] のタブをクリックで切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないもののマイグレートされる項目が含まれるビューを更新できます。
- ◆ [選択] タブには、マイグレート済みオブジェクトすべてが表示され、マイグレート後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

暗い灰青色で表示されたままになるため、次にマイグレーションユーティリティを開いて [ソース eDir ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前にマイグレートした項目を確認できます。

- ◆ マイグレーションに失敗したオブジェクトは、淡色表示のアイコンで表示されて続行されます。

マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、[ステップ 8](#) を参照してください。

- ◆ マイグレーション中に、マイグレートされるイメージごとに一時作業フォルダがワークステーションに作成されます。これらのフォルダは、各イメージが正常にマイグレートされると、削除されます。

- 8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

- 8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前にマイグレートした項目を [宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- ◆ マイグレートする他の項目を検出する場合は、[ステップ 3](#) から [ステップ 7](#) までを繰り返します。
- ◆ [宛先ゾーン] パネルに一覧表示された項目を削除するには、項目を選択して、**X** をクリックします。

警告: [宛先ゾーン] パネルでは、以前にマイグレート済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターに作成されたか別のワークステーションからマイグレートされたデータは黒色テキストで表示されます。削除オプション (X) は、どちらにも使用できます。したがって、以前に Configuration Management からマイグレートされていない既存の項目を削除することもできます。これには、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとその下に含まれるすべてのデータが含まれます。

- 8b** [移行する項目] タブで、マイグレートに失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目をマイグレートするか、[移行する項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。


- 8c** マイグレートしない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[移行する項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。
- これによって、[移行する項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだマイグレートされていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択する場合は、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方からリスト済み項目すべてが削除され、ZENworks データベースからも削除され、ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除] を使用して、キュー済み (未マイグレート) 項目のみを削除するには、[移行する項目] タブから削除するのが最も安全です。

- 9** マイグレーション結果に満足したら、次のいずれかに進みます。
- ◆ 他のアプリケーションをマイグレートするには、**55 ページのステップ 3** に進みます。
 - ◆ ポリシーをマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで **[ステップ 3: ポリシー]** をクリックします。
 - ◆ ゾーンの設定をマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで **[ステップ 4: ゾーン設定]** をクリックします。
 - ◆ ワークステーションをマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで **[ステップ 5: ポリシー]** をクリックします。
 - ◆ 関連付けをマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで **[ステップ 6: 関連付け]** をクリックします。
 - ◆ 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、**75 ページのセクション 4.13 「ZENworks の従来のインストールの管理」** に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

4.7 ポリシーのマイグレート

ポリシーを eDirectory から Configuration Management にマイグレートするには、次の手順を実行します。

- 1  ([マイグレーションツール設定] アイコン) をクリックして、次の手順を実行します。

- 1a ZENworks データベースの既存のポリシーオブジェクトを上書きするには、[一般] タブをクリックし、次に [すでに存在するオブジェクトを上書き] オプションをオンにします。


警告: これは、前にマイグレートされたオブジェクトを含め、データベース内の既存のポリシーオブジェクトを上書きします。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。

- 1b Launcher Configuration ポリシーの割り当て作成をスキップするには、[ポリシー] オプションを選択して、チェックボックスをオンにして、オプションを有効にします。

Launcher Configuration 設定を eDirectory からマイグレートする場合は、これらの設定は、Configuration Management 内の Launcher Configuration ポリシーに変換されます。マイグレーション中に、同一オブジェクトから新しい Launcher Configuration ポリシーへの割り当ては、割り当てのスキップを選択して [オプション] ダイアログボックスでこの機能がオフになるまでは、自動的に作成されます。

- 1c [設定の保存] をクリックして、ダイアログボックスを終了します。
- 2 [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ3: ポリシー] をクリックします。
- 3 マイグレーションをモデル化するには、次の手順を実行します。

- 3a [ソース eDir ツリー] パネルで、eDirectory コンテキストに移動して、マイグレートするポリシーオブジェクトを探します。[ソース eDir ツリー] のオブジェクトのリストを停止するには、 のオブジェクトのリストを停止します。

表示される eDirectory 情報は、マイグレートしている情報のタイプに従ってフィルタ処理されます。したがって、選択したタイプに対してマイグレートできるコンテキストおよびオブジェクトをブラウズするだけですみます。

- 3b 必要に応じて、[宛先ゾーン] パネルの任意の場所を右クリックし、マイグレーションの待ち行列に入れるオブジェクトのフォルダを作成して、[新規フォルダ] を選択します。

ネストを含め、必要な数のフォルダを作成できます。この構造は、ZENworks データベース内で作成され、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとして表示可能です。ただし、[今すぐ移行] ボタンをクリックするまではフォルダは作成されません。

ポリシーオブジェクトをフォルダ内のキューに入れる前に、ポリシーオブジェクトのフォルダ構造を決定して、そのフォルダを作成およびマイグレートすることができます。

また、既存の eDirectory コンテナも、すべてのポリシーオブジェクト (サブコンテナ含む) も、マイグレートできます。コンテナは、コンテナの下にある eDirectory に存在するすべてのポリシーオブジェクトを含むフォルダに変換されます。[ソース eDir ツリー] パネル内のコンテナを選択して [宛先ゾーン] パネルにドラッグする場合は、すべてのサブコンテナとポリシーオブジェクトも、それぞれのフォルダ内の [宛先ゾーン] パネルに置かれます。

[宛先ゾーン] パネルのコンテナを待ち行列に入れた後で、項目を選択し、右クリックして、[選択した項目の削除] を選択することによって、マイグレートしたくない待ち行列に入れられた項目を個別に削除できます。削除操作を確認するメッセージが表示されます。

- 3c** [ソース eDir ツリー] パネルで、マイグレートするポリシーオブジェクト、パッケージ、またはコンテナを選択して、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。

これは、マイグレーションの項目をキューに入れます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。

1 つのパネルから別のパネルに項目をドラッグすると、[宛先ゾーン] パネルにリストされた項目が自動的に保存されます。

項目を複数回ドラッグする場合は、一度だけキューに入ります。

増加させてマイグレートする場合は、このときにマイグレートしたいオブジェクトのみをキューに入れる必要があります。[宛先ゾーン] パネルにキュー済みのすべての項目は、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

[移行する項目] タブで、マイグレートする項目数 (宛先ゾーン] パネルにコピー済み) は、タブのラベルの括弧内に表示されます。

[移行する項目] タブにある [マイグレーションステータス] フィールドには、マイグレーションについて選択した項目に関連する情報が表示されます。たとえば、ZENworks マイグレーションユーティリティは、eDirectory 名の文字が Configuration Management で使用できない場合に、Configuration Management 内のオブジェクト名を調整することがあります。たとえば、コロン (:) は、アンダースコア (_) 文字で置換されます。

ポリシーパッケージをキューにドラッグする場合は、そのポリシーのみが [宛先ゾーン] パネル内のキューに入ります。ポリシーパッケージは、Configuration Management では使用されません。代わりに、ポリシーはタイプによってグループ化されます。

Launcher Configuration 設定を eDirectory からマイグレートする場合は、これらの設定は、Configuration Management 内の Launcher Configuration ポリシーに変換されます。マイグレーション中に、同一オブジェクトから新しい Launcher Configuration ポリシーへの割り当ては、割り当てのスキップを選択して [オプション] ダイアログボックスでこの機能がオフになるまでは、自動的に作成されます (ステップ 1b 参照)。

- 4** 必要に応じて **ステップ 3** を繰り返し、この時点でマイグレートするポリシーオブジェクトすべてを探してキューに入れます。

重要: [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っているポリシーオブジェクトはすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

- 5** [宛先ゾーン] パネルでの選択を確認します。

フォルダに移動し、マイグレーションのキューに入っているポリシーオブジェクトを表示できます。

- 6 マイグレーションキューから項目を削除するには、項目を選択して、**X**アイコンをクリックします。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。これには、フォルダとそのコンテンツが含まれます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告： 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、ZENworks データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- 7 サブフォルダに含まれる淡色表示の項目すべてを含め、[宛先ゾーン] パネルに表示されている淡色表示の項目すべてをマイグレートするには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後に、マイグレーションユーティリティに適用されます。

- ◆ フォーカスは、すぐに [移行する項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- ◆ eDirectory 内のポリシーパッケージの一部であったポリシーは、キューに入れられ、それぞれの Configuration Management タイプに個別にマイグレートされます。
- ◆ [ステップ] カラムには、マイグレート中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは画面の一番下にあります。
- ◆ [マイグレーション履歴] タブには、マイグレートされるすべての項目が表示されます。このリストは、項目がマイグレートされるとダイナミックに更新されます。マイグレーションプロセス中に、[移行する項目] と [マイグレーション履歴] のタブをクリックで切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないもののマイグレートされる項目が含まれるビューを更新できます。
- ◆ [選択] タブには、マイグレート済みオブジェクトすべてが表示され、マイグレート後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

暗い灰青色で表示されたままになるため、次にマイグレーションユーティリティを開いて [ソース eDir ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前にマイグレートした項目を確認できます。

- ◆ マイグレーションに失敗したオブジェクトは、淡色表示のアイコンで表示されて続行されます。
マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、**ステップ 8** を参照してください。
- ◆ マイグレーション中に、マイグレートされるポリシーごとに一時作業フォルダがワークステーションに作成されます。これらのフォルダは、各ポリシーが正常にマイグレートされると、削除されます。

8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前にマイグレートした項目を[宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- ◆ マイグレートする他の項目を検出する場合は、**ステップ 3** から **ステップ 7** まですを繰り返します。
- ◆ [宛先ゾーン] パネルに一覧表示された項目を削除するには、項目を選択して、**X** をクリックします。

警告: [宛先ゾーン] パネルでは、以前にマイグレート済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターに作成されたか別のワークステーションからマイグレートされたデータは黒色テキストで表示されます。削除オプション (**X**) は、どちらにも使用できます。したがって、以前に Configuration Management からマイグレートされていない既存の項目を削除することもできます。これには、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとその下に含まれるすべてのデータが含まれます。

8b [移行する項目] タブで、マイグレートに失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目をマイグレートするか、[移行する項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。

8c マイグレートしない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[移行する項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。

これによって、[移行する項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだマイグレートされていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択する場合は、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方からリスト済み項目すべてが削除され、ZENworks データベースからも削除され、ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除] を使用して、キュー済み (未マイグレート) 項目のみを削除するには、[移行する項目] タブから削除するのが最も安全です。

9 マイグレーション結果に満足したら、次のいずれかに進みます。


- ◆ 他のポリシーをマイグレートするには、**59 ページのステップ 3** に進みます。
- ◆ ゾーンの設定をマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで [ステップ 4: ゾーン設定] をクリックします。
- ◆ ワークステーションをマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで [ステップ 5: ポリシー] をクリックします。

- 関連付けをマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで [ステップ 6: 関連付け] をクリックします。
- 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、75 ページのセクション 4.13 「ZENworks の従来のインストールの管理」に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

4.8 管理ゾーン設定のマイグレート

設定が ZENworks Configuration Management の管理ゾーン設定にマイグレートされると、DNS 設定のネームサーバ以外のすべてのゾーン設定が上書きされます。従来の ZENworks からマイグレートされた名前サーバは、ZENworks Configuration Management の [名前サーバ] リストの既存のエントリに追加されます。


eDirectory のデータを環境設定管理の管理ゾーン設定にマイグレートするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks データベースにある既存の管理ゾーン設定を上書きするには、 ([マイグレーションツール設定] アイコン) をクリックして、[一般] オプションを選択し、[すでに存在するオブジェクトを上書き] オプションをオンにしてオプションをオンにして、[設定の保存] をクリックしてダイアログボックスを終了します。

警告： これを選択すると、すでにマイグレート済みの設定を含め、データベース内の既存の管理ゾーン設定がすべて上書きされます。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。


現在は管理ゾーン設定特有のグローバルなマイグレーションオプションはありません。

- 2 [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ 4: ゾーン設定] をクリックします。
- 3 マイグレーションをモデル化するには、[ソース eDir ツリー] パネルにアクセスし、次に eDirectory コンテキストに移動して、マイグレートする情報を探します。[ソース eDir ツリー] のオブジェクトのリストを停止するには、 のオブジェクトのリストを停止します。

重要： Novell Application Launcher™ 設定またはイメージングポリシーの個別のコンポーネントが表示されるため、すべての設定またはポリシー情報をマイグレートするのではなく選択してマイグレートすることができます。

- 4 必要に応じて **ステップ 3** を繰り返し、この時点でマイグレートするゾーン設定へのすべての情報を探してキューに入れます。

重要： [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っている項目はすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

- 5 [宛先ゾーン] パネルでの選択内容を確認します。
- 6 マイグレーションキューから項目を削除するには、項目を選択して、 アイコンをクリックします。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告: 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、ZENworks データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- 7 [宛先ゾーン] パネルにグレー表示されているすべての項目をマイグレートするには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後に、マイグレーションユーティリティに適用されます。

- ◆ フォーカスは、すぐに [移行する項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- ◆ [ステップ] カラムには、マイグレート中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは画面の一番下にあります。
- ◆ [マイグレーション履歴] タブには、マイグレートされるすべての項目が表示されます。このリストは、項目がマイグレートされると動的に更新されます。マイグレーションプロセス中に、[移行する項目] と [マイグレーション履歴] のタブをクリックで切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないもののマイグレートされる項目が含まれるビューを更新できます。
- ◆ [選択] タブには、マイグレート済みオブジェクトすべてが表示され、マイグレート後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

暗い灰青色で表示されたままになるため、次にマイグレーションユーティリティを開いて [ソース eDir ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前にマイグレートした項目を確認できます。

- ◆ マイグレーションに失敗したオブジェクトは、淡色表示のアイコンで表示されて続行されます。

マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、**ステップ 8** を参照してください。

- 8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

- 8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前にマイグレートした項目を [宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- ◆ マイグレートする他の項目を検出する場合は、**ステップ 3** から **ステップ 7** まですを繰り返します。
- ◆ [宛先ゾーン] パネルに一覧表示された項目を削除するには、項目を選択して、**X** をクリックします。

警告: [宛先ゾーン] パネルでは、以前にマイグレート済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターに作成されたか別の eDirectory オブジェクトからマイグレートされたデータは黒色テキストで表示されま

す。削除オプション (X) は、どちらにも使用できます。したがって、まだ Configuration Management からマイグレートされていない既存の項目を削除することもできます。

- 8b** [移行する項目] タブで、マイグレートに失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目をマイグレートするか、[移行する項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。

- 8c** マイグレートしない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[移行する項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。

これによって、[移行する項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだマイグレートされていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択する場合は、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方からリスト済み項目すべてが削除され、ZENworks データベースからも削除され、ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除] を使用して、キュー済み (未マイグレート) 項目のみを削除するには、[移行する項目] タブから削除するのが最も安全です。


- 9** マイグレーション結果に満足したら、次のいずれかに進みます。
- ◆ その他の情報を Management Zone 設定にマイグレートするには、[66 ページのステップ 3](#)に進みます。
 - ◆ 関連付けをマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで [ステップ 6: 関連付け] をクリックします。
 - ◆ 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、[75 ページのセクション 4.13 「ZENworks の従来のインストールの管理」](#)に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

4.9 ワークステーションのマイグレート

Novell eDirectory から保持するワークステーションまたはワークステーション GUID への関連付けがない場合、およびワークステーションを ZENworks 管理ゾーン内で ZENworks コントロールセンターを使用して検出し、Adaptive Agent を展開することによって管理対象デバイスとして設定する場合、ワークステーションのマイグレーションはスキップします。

ワークステーションをマイグレートしてワークステーションまたはワークステーション GUID への関連付けを保持する場合、またはこれらのワークステーションイメージを以前に作成したことがある場合は、Adaptive Agent をインストールしてから再イメージします。詳細については、[75 ページのセクション 4.12 「マイグレートしたワークステーションのイメージの作成」](#)を参照してください。

ワークステーションを eDirectory から Configuration Management にマイグレートするには、次の手順を実行します。


- 1 ZENworks データベースにある既存のワークステーションオブジェクトを上書きするには、 ([マイグレーションツール設定] アイコン) をクリックして、[一般] オプションを選択し、[すでに存在するオブジェクトを上書き] オプションをオンにしてオプションをオンにして、[設定の保存] をクリックしてダイアログボックスを終了します。

警告: これは、前にマイグレートされたオブジェクトを含め、データベース内の既存のワークステーションオブジェクトを上書きします。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。

現在はワークステーション特有のグローバルなマイグレーションオプションはありません。

- 2 [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ5: ワークステーション] をクリックします。
- 3 マイグレーションをモデル化するには、次の手順を実行します。

- 3a [ソース eDir ツリー] パネルで、eDirectory コンテキストに移動して、マイグレートするワークステーションオブジェクトを探します。[ソース eDir ツリー] のオブジェクトのリストを停止するには、 のオブジェクトのリストを停止します。

表示される eDirectory 情報は、マイグレートしている情報のタイプに従ってフィルタ処理されます。したがって、選択したタイプに対してマイグレートできるコンテキストおよびオブジェクトをブラウズするだけですみます。

- 3b 必要に応じて、[宛先ゾーン] パネルの任意の場所を右クリックし、マイグレーションの待ち行列に入れるオブジェクトのフォルダを作成して、[新規フォルダ] を選択します。

ネストを含め、必要な数のフォルダを作成できます。この構造は、ZENworks データベース内で作成され、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとして表示可能です。ただし、[今すぐ移行] ボタンをクリックするまではフォルダは作成されません。

ワークステーションオブジェクトをフォルダ内のキューに入れる前に、ワークステーションオブジェクトのフォルダ構造を決定して、そのフォルダを作成およびマイグレートすることができます。

重要: 既存の eDirectory コンテナとワークステーションオブジェクトすべてをマイグレートすることをお勧めします (サブコンテナ含む)。これによって、デバイス関連付けの GUID を保持できます。

キューに入っている eDirectory コンテナは、コンテキストの下にある eDirectory に存在するすべてのワークステーションオブジェクトを含むフォルダに変換されます。[ソース eDir ツリー] パネル内のコンテナを選択して [宛先ゾーン] パネルにドラッグする場合は、すべてのサブコンテナとワークステーションオブジェクトも、それぞれのフォルダ内の [宛先ゾーン] パネルに置かれます。

[宛先ゾーン] パネルのコンテナを待ち行列に入れた後で、項目を選択し、右クリックして、[選択した項目の削除] を選択することによって、マイグレートしたくない待ち行列に入れられた項目を個別に削除できます。削除操作を確認するメッセージが表示されます。

- 3c** [ソース *eDir* ツリー] パネルで、マイグレートするワークステーションオブジェクトまたはコンテナを選択して、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。

これは、マイグレーションの項目をキューに入れます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。

1つのパネルから別のパネルに項目をドラッグすると、[宛先ゾーン] パネルにリストされた項目が自動的に保存されます。

項目を複数回ドラッグする場合は、一度だけキューに入ります。

増加させてマイグレートする場合は、このときにマイグレートしたいオブジェクトのみをキューに入れる必要があります。[宛先ゾーン] パネルにキュー済みのすべての項目は、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

[移行する項目] タブで、マイグレートする項目数 ([宛先ゾーン] パネルにコピー済み) は、タブのラベルの括弧内に表示されます。

[移行する項目] タブにある [マイグレーションステータス] フィールドには、マイグレーションについて選択した項目に関連する情報が表示されます。たとえば、ZENworks マイグレーションユーティリティは、eDirectory 名の文字が Configuration Management で使用できない場合に、Configuration Management 内のオブジェクト名を調整することがあります。たとえば、コロン (:) は、アンダースコア () 文字で置換されます。

- 4** 必要に応じて **ステップ 3** を繰り返し、この時点でマイグレートするワークステーションオブジェクトすべてを探してキューに入れます。

重要: [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っているワークステーションオブジェクトはすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

- 5** [宛先ゾーン] パネルでの選択を確認します。

フォルダに移動し、マイグレーションのキューに入っているワークステーションオブジェクトを表示できます。

- 6** マイグレーションキューから項目を削除するには、項目を選択して、**X** アイコンをクリックします。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。これには、フォルダとそのコンテンツが含まれます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告: 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、ZENworks データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- 7** サブフォルダに含まれる淡色表示の項目すべてを含め、[宛先ゾーン] パネルに表示されている淡色表示の項目すべてをマイグレートするには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後に、マイグレーションユーティリティに適用されます。

- フォーカスは、すぐに [移行する項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- [ステップ] カラムには、マイグレート中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは画面の一番下にあります。
- [マイグレーション履歴] タブには、マイグレートされるすべての項目が表示されます。このリストは、項目がマイグレートされると動的に更新されます。マイグレーションプロセス中に、[移行する項目] と [マイグレーション履歴] のタブをクリックで切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないもののマイグレートされる項目が含まれるビューを更新できます。
- [選択] タブには、マイグレート済みオブジェクトすべてが表示され、マイグレート後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。
暗い灰青色で表示されたままになるため、次にマイグレーションユーティリティを開いて [ソース eDir ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前にマイグレートした項目を確認できます。
- マイグレーションに失敗したオブジェクトは、淡色表示のアイコンで表示されて続行されます。
マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、[ステップ 8](#) を参照してください。
- マイグレーション中に、マイグレートされるワークステーションごとに一時作業フォルダがワークステーションに作成されます。これらのフォルダは、各ワークステーションが正常にマイグレートされると、削除されます。

重要：マイグレート済みワークステーションは、ZENworks コントロールセンターの [デバイス] タブの [ワークステーション] セクションにはすぐには表示されません。これらのワークステーションは ZENworks コントロールセンターの [展開可能デバイス] パネルに一覧表示され、[デバイス] タブに表示されるには Adaptive Agent が展開されている必要があります。Adaptive Agent のマイグレート先のワークステーションへの展開については、[75 ページのセクション 4.11 「管理するマイグレート済みワークステーションの設定」](#) を参照してください。

8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前にマイグレートした項目を [宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- マイグレートする他の項目を検出する場合は、[ステップ 3](#) から [ステップ 7](#) までを繰り返します。
- [宛先ゾーン] パネルに一覧表示された項目を削除するには、項目を選択して、**X** をクリックします。

警告：[宛先ゾーン] パネルでは、以前にマイグレート済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターに作成されたか別のワークステーションからマイグレートされたデータは黒色テキストで表示されます。削除オプション (**X**) は、どちらにも使用できます。したがって、以前に

Configuration Management からマイグレートされていない既存の項目を削除することもできます。これには、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとその下に含まれるすべてのデータが含まれます。

- 8b** [移行する項目] タブで、マイグレートに失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目をマイグレートするか、[移行する項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。

- 8c** マイグレートしない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[移行する項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。


これによって、[移行する項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだマイグレートされていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択する場合は、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方からリスト済み項目すべてが削除され、ZENworks データベースからも削除され、ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除] を使用して、キュー済み (未マイグレート) 項目のみを削除するには、[移行する項目] タブから削除するのが最も安全です。

- 9** マイグレーション結果に満足したら、次のいずれかに進みます。
- 他のワークステーションをマイグレートするには、**66 ページのステップ 3** に進みます。
 - 関連付けをマイグレートするには、[マイグレーションタスク] フィールドで **[ステップ 6: 関連付け]** をクリックします。
 - 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、**75 ページのセクション 4.13 「ZENworks の従来のインストールの管理」** に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

4.10 関連付けのマイグレート

バンドル用のユーザ関連付けおよびワークステーション関連付け、ポリシー用のユーザ関連付けおよびワークステーション関連付け、およびイメージ用のワークステーション関連付けをマイグレートできます。

- 1**  ([マイグレーションツール設定] アイコン) をクリックして、次の手順を実行します。

- 1a** ZENworks データベースの既存の関連付けを上書きするには、[一般] タブをクリックし、次に [すでに存在するオブジェクトを上書き] オプションをオンにします。

警告: これは、前にマイグレートされたオブジェクトを含め、データベース内の既存の関連付けを上書きします。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。


- 1b** 関連付けのマイグレーションに使用可能なオプションにアクセスするには、[関連付け] をクリックし、次に希望の設定を指定します。

設定	説明
関連付けられたオブジェクトが存在しない場合は、マイグレーションを中止して、適切なマイグレーションタスクに転送してオブジェクトの作成を促します。	<p>関連付けるオブジェクトがZENworks データベースに存在しない場合はマイグレーションを中止し、適切な [Migration Tasks(マイグレーションタスク)] ステップに移行してオブジェクトのマイグレーションを行います。</p> <p>必要なオブジェクトをマイグレートしたら、[ステップ6: 関連付け] に戻り、[今すぐ移行] をクリックして関連付けのマイグレートを再開します。</p> <p>このオプションは、数個の項目のみをマイグレートする場合で、すぐに関連付けの失敗を処理したい場合に便利です。</p> <p>無人マイグレーションを実行する場合は、このオプションを選択しないでください。</p>
一致するエンティティを検索するマイグレーション先のユーザソースコンテキストを指定します。	<p>グループとコンテナ関連付けのマイグレーション中に、マイグレーション先のユーザソース内で一致するエンティティを検索するためのコンテキストを指定できます。</p> <p>たとえば、マイグレーション先のユーザソースが migration.orgunit.org.com で、コンテキストを OU1/OU2/users と指定すると、ユーティリティは migration.orgunit.org.com/OU1/OU2/users 内で一致するエンティティを検索します。</p> <p>コンテキストを指定しなかった場合、マイグレーション先のユーザソース全体、すなわち migration.orgunit.org.com で検索が行われます。</p>

- 1c** [設定の保存] をクリックして、ダイアログボックスを終了します。
- 2** [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ6: 関連付け] をクリックします。
- 3** マイグレーションをモデル化するには、次の手順を実行します。
- 3a** [次のオブジェクトを表示] と [追加] ドロップダウンリストで希望するオプションを選択します。

このオプションの組み合わせによって、宛先ゾーンにドラッグして表示される関連付けが決定され、不適当な関連付けに警告を表示するかどうか決定されます。警告は、[移行する項目] タブと [マイグレーション履歴] タブのカラムに表示されます。

マイグレートできる関連付けは、関連 eDirectory オブジェクトが以前にマイグレートされているかどうかによって異なります。マイグレーションの資格のある関連付けを表示できます。また、関連付けがマイグレーションできるかできないかの表示もでき、マイグレートできない関連付けについての警告ありまたはなしで表示することもできます。

次のオブジェクトを表示：これらのオプションによって、] パネルでこの時点で検索する関連付けを選択できます。[*Display objects that are (次のオブジェクトを表示)*] オプションから別のオプションに変更すると、[宛先ゾーン] パネルへの関連付けの追加を続行でき、表示するオブジェクトまたは一度に関連付けのグループをマイグレートできます。[ソース eDir ツリー] のオブジェクトの、 をクリックします。

次のオプションによって、表示される関連付けが決定されます。

オプション	目的
バンドル <--> ユーザ	バンドルとユーザまたはユーザグループの eDirectory にある既存の関連付けのみが表示されます。 これらの関連付けをマイグレートする前に、ユーザソースを ZENworks コントロールセンターで設定する必要があります。
バンドル <--> ワークステーション	バンドル、ワークステーション、ワークステーショングループ、イメージ、およびワークステーションの eDirectory に存在する関連付けのみを表示します。
ポリシー <--> ユーザ	ポリシーとユーザまたはユーザグループの eDirectory での既存の関連付けのみが表示されます。 これらの関連付けをマイグレートする前に、ユーザソースを ZENworks コントロールセンターで設定する必要があります。
ポリシー <--> ワークステーション	ポリシー、ワークステーション、およびワークステーショングループの eDirectory に存在する関連付けのみを表示します。
ポリシー、バンドル、ユーザ、<--> ワークステーション	ポリシー、バンドル、ユーザ、ユーザグループ、ワークステーション、ワークステーショングループ、およびイメージの既存のすべての eDirectory 関連付けが表示されます。 ユーザ関連の関連付けをマイグレートする前に、ユーザソースを ZENworks コントロールセンターで設定する必要があります。

追加：これらのオプションは、[次のオブジェクトを表示] フィールドで選択した組み合わせに従って、次の手順を実行します。

オプション	目的
マイグレーションの資格ありまたは資格なし (警告なし)	<p>選択したオブジェクトの間の関連付けについては、この組み合わせに、警告なしで、資格ありと資格なしの関連付けが表示されます。</p> <p>これは、チェックの必要がないため最も高速で、無人マイグレーションプロセスが実行されます。</p>
マイグレーションの資格あり	<p>マイグレーションの資格がある選択済みオブジェクトの間の関連付けのみが表示されます。</p> <p>マイグレーション元とユーザソースが同じ場合、ユーティリティは各項目がキューされるたびに検証する必要があるため、これはもっと遅い方法です。失敗した項目のログを確認して、マイグレートできなかった理由を解決することをお勧めします。</p>
マイグレーションの資格ありまたは資格なし (警告表示)	<p>選択済みオブジェクトの間の関連付けについては、この組み合わせに、警告とともに、資格ありと資格なしの関連付けが表示されます。</p> <p>マイグレーション元とユーザソースが同じ場合、キューされた各項目ごとにチェックが必要で、警告に対して応答するためにマイグレーションを監視する必要があるため、これはもっとも遅い方法です。</p>

宛先ユーザソース : ZENworks Configuration Management で使用できるユーザソースを一覧表示します。デフォルトでは、マイグレーションソースとして一覧表示されたユーザソースが選択されます。

3b [ソース *eDir* ツリー] パネルで、eDirectory コンテキストに移動して、関連付けのあるオブジェクトを見つけて、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。

[一覧表示範囲] オプションで一覧される関連付けの範囲を指定します

これは、マイグレーションの項目をキューに入れます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。

1つのパネルから別のパネルに項目をドラッグすると、[宛先ゾーン] パネルにリストされた項目が自動的に保存されます。

項目を複数回ドラッグする場合は、一度だけキューに入ります。

増加させてマイグレートする場合は、このときにマイグレートしたいオブジェクトのみをキューに入れる必要があります。[宛先ゾーン] パネルにキュー済みのすべての項目は、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

[移行する項目] タブで、マイグレートする項目数 (宛先ゾーン] パネルにコピー済み) は、タブのラベルの括弧内に表示されます。

[移行する項目] タブにある [マイグレーションステータス] フィールドには、マイグレーションについて選択した項目に関連する情報が表示されます。たとえば、ZENworks マイグレーションユーティリティは、eDirectory 名の文字が Configuration Management で使用できない場合に、Configuration Management 内のオブジェクト名を調整することがあります。たとえば、コロン (:) は、アンダースコア () 文字で置換されます。

- 4 必要に応じて**ステップ 3**を繰り返し、この時点でマイグレートする関連付けすべてを探してキューに入れます。

重要: [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っている関連付けはすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

- 5 [宛先ゾーン] パネルでの選択を確認します。

[名前] カラムには、キューされている関連付け名とともに関連付けが表示されます。<-> 文字は関連付けを表し、オブジェクトの名前は eDirectory 内で関連付けられます。この情報は、完全に区別されるオブジェクト名とともに [一意な識別子] カラムで繰り返されます。

関連付け対象の各オブジェクト ([次のオブジェクトを表示] と [追加] フィールドで選択することにより決まります。ステップ 3 を参照) が ZENworks データベースに存在しない場合、関連付けはマイグレートできません。ステップ 1b で選択して、マイグレーション中にこれを解決するようメッセージが表示された場合は、このインスタンスに注意を払うことができます。それ以外の場合は、マイグレーションは続行し、[移行する項目] タブで検出できます。

- 6 関連付けされている項目を削除するには、項目を選択して、**X** アイコンをクリックします。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。これには、フォルダとそのコンテンツが含まれます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告: 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、ZENworks データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- 7 サブフォルダに含まれる淡色表示の項目すべてを含め、[宛先ゾーン] パネルに表示されている淡色表示の項目すべてをマイグレートするには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後に、マイグレーションユーティリティに適用されます。

- ◆ フォーカスは、すぐに [移行する項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- ◆ [ステップ] カラムには、マイグレート中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは画面の一番下にあります。
- ◆ [マイグレーション履歴] タブには、マイグレートされるすべての項目が表示されます。このリストは、項目がマイグレートされると動的に更新されます。マイグレーションプロセス中に、[移行する項目] と [マイグレーション履歴] のタブを安全にクリックで切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないもののマイグレートされる項目が含まれるビューを更新できます。
- ◆ [選択] タブには、マイグレート済み関連付けすべてが表示され、マイグレート後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

暗い灰青色で表示されたままになるため、次にマイグレーションユーティリティを開いて [ソース *eDir* ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前にマイグレートした項目を確認できます。

- ◆ 関連付けオブジェクトが **Configuration Management** に存在しないため、マイグレーションに失敗した関連付けは、続行され、淡色表示のアイコンに表示されません。

マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、**ステップ 8** を参照してください。

- ◆ マイグレーション中に、マイグレートされる関連付けごとに一時作業フォルダがワークステーションに作成されます。これらのフォルダは、各関連付けが正常にマイグレートされると、削除されます。
- ◆ グループとコンテナの関連付けのマイグレーション中、マイグレーション先のユーザソースのグループとコンテナに一致するエンティティが複数ある場合は、関連付けのマイグレート先のエンティティを選択するように促されます。

8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前にマイグレートした項目を [宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- ◆ マイグレートする他の項目を検出する場合は、**ステップ 3** から **ステップ 7** までを繰り返します。
- ◆ [宛先ゾーン] パネルに一覧表示された項目を削除するには、項目を選択して、**X** をクリックします。

警告: [宛先ゾーン] パネルでは、以前にマイグレート済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターに作成されたか別のワークステーションからマイグレートされたデータは黒色テキストで表示されます。削除オプション (**X**) は、どちらにも使用できます。したがって、以前に **Configuration Management** からマイグレートされていない既存の項目を削除することもできます。これには、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとその下に含まれるすべてのデータが含まれます。

8b [移行する項目] タブで、マイグレートに失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目をマイグレートするか、[移行する項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。

8c マイグレートしない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[移行する項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。

これによって、[移行する項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだマイグレートされていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択する場合は、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方からリスト済み項目すべてが削除され、ZENworks データベースからも削除され、ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除] を使用して、キュー済み (未マイグレート) 項目のみを削除するには、[移行する項目] タブから削除するのが最も安全です。

- 9 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、75 ページのセクション 4.13 「ZENworks の従来のインストールの管理」に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

4.11 管理するマイグレート済みワークステーションの設定

オブジェクトを ZENworks Configuration Management で管理するためワークステーションのオブジェクトをマイグレートした場合、ZENworks Adaptive Agent をインストールする必要があります。

マイグレート済みワークステーションでの Adaptive Agent のインストールの詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の「ZENworks Adaptive Agent の展開」を参照してください。

エージェントを ZENworks Adaptive Agent に更新したワークステーションを再イメージするには、75 ページのセクション 4.12 「マイグレートしたワークステーションのイメージの作成」を参照してください。

完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、75 ページのセクション 4.13 「ZENworks の従来のインストールの管理」に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

4.12 マイグレートしたワークステーションのイメージの作成

従来の ZENworks エージェントを持つワークステーションをマイグレートする場合、Adaptive Agent をインストールした後にこれらのワークステーションのイメージを取得してください。

更新済みワークステーションのイメージングの詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management プレブートサービスおよびイメージングリファレンス』の「イメージングデバイス」を参照してください。

完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、75 ページのセクション 4.13 「ZENworks の従来のインストールの管理」に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

4.13 ZENworks の従来のインストールの管理

マイグレーションの完了後、適合するか確認して、従来の ZENworks ソフトウェアを削除できます。ZENworks の以前のバージョンのアンインストールについては、従来の ZENworks マニュアルを参照してください。

ただし、関連付けをマイグレートするために Configuration Management のユーザが必要な場合、または Novell Client™ のユーザが必要な場合は、ユーザオブジェクトのある eDirectory の稼働中のインストールを保持する必要があります。

ZENworks Configuration Management では、eDirectory クリーンアップは提供されません。

マイグレーションデータ

A

次のセクションでは、マイグレーションタイプごとに、マイグレートされるものとされないものについて詳しく説明します。

- ◆ 77 ページのセクション A.1 「アプリケーション」
- ◆ 80 ページのセクション A.2 「イメージ」
- ◆ 81 ページのセクション A.3 「ポリシー」
- ◆ 82 ページのセクション A.4 「管理ゾーンの設定」
- ◆ 84 ページのセクション A.5 「ワークステーション」
- ◆ 85 ページのセクション A.6 「関連付け」

A.1 アプリケーション

アプリケーションは ZENworks Configuration Management に固有のアクションでバンドルとしてマイグレートされます。たとえば、レジストリの変更があるアプリケーションは、レジストリの編集アクションでバンドルとしてマイグレートされます。

いくつかの機能はマイグレートされますが、されないものもあります。また新しい機能と置き換わるものもあります。77 ページの **図表 A-1** は、マイグレートされない機能を一覧表示しています。コメント欄はマイグレートされない理由と Configuration Management に存在する従来の機能の代替機能があるかどうかを示します。

マイグレートされない Novell Application Launcher™ Configuration 設定については、81 ページのセクション A.3 「ポリシー」を参照してください。

表 A-1 Configuration Management にマイグレートされないアプリケーション機能

機能	コメント
ACL	Configuration Management はアクセス制御に新しいセキュリティモデルを使用します。
自動起動機能	この機能は Novell Application Launcher が自身をスタートメニューに追加してユーザがログインしたときに自動的に起動するようになります。これは ZENworks® Adaptive Agent では処理されません。
使用可能スケジュール	これは関連付けがマイグレートされたときにマイグレートされます。つまり、アプリケーションのスケジュールごとに、そのアプリケーションへのそれぞれの直接関連付け用の特定のスケジュールがあります。
BITS サポート	BITS は Configuration Management ではサポートされていません。管理者はスロットルを手動でオンにすることができます。
プリンタポートのキャプチャ	起動スクリプトで実行できます。終了スクリプト内でポートをキャプチャ解除することができます。
ディレクトリのコピー	このアクションは、File バンドルの Copy Directory カテゴリを使用して手動で ZENworks コントロールセンター内に作成する必要があります。

機能	コメント
Deframe 設定	Configuration Management はシンプル RDP および ICA セッションのみをサポートします。
接続解除可能	この機能は、ワークステーションが切断された場合にデスクトップにアプリケーションを表示しないように管理者が設定することができます。Configuration Management の同等のシステム要件を使用します。
ディスプレイフォルダリスト	この機能は管理者が複数のディスプレイフォルダ内のアプリケーションのショートカットを配置することができます。Configuration Management は、フォルダへのショートカットの配置のみを許可します。したがって、Configuration Management は最初のフォルダのみをマイグレートします。
ドライブマッピング	起動スクリプトで実行できるようになりました。終了スクリプト内でドライブをアンマップできます。
障害対策	新しいコンテンツシステムはゾーン全体ベースでこれを自動的に行います。
ワークステーションが関連付けられている場合のユーザとして強制実行	Configuration Management ではサポートされていません。
強制実行待機	この機能はアプリケーションチェーンによって置き換えられます。
粒度インストールファイルコントロール	この機能は、どのファイルをインストール時にコピーされたかを ConsoleOne® 内でのマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に、「Request Confirm」とマークされたファイルのみをコピーするように通知できます。MSI はきめ細かな設定 (ファイル単位) ができないため、この機能はアプリケーションが MSI インストールアクションでバンドルとしてマイグレートされた場合はマイグレートできません。
粒度アンインストールファイルコントロール	この機能は、どのファイルがアンインストール時に削除されたかを ConsoleOne 内でのマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に「Request Confirm」というマークが付いているファイルのみをアンインストールするように通知することができます。MSI はきめ細かな (ファイルごと) 設定を許可しないため、この機能はマイグレートできません。
粒度インストールレジストリコントロール	この機能は、どのレジストリ設定がインストール時に作成されたかを ConsoleOne 内でのマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に「Registry Append」というマークが付いているレジストリのみを作成するように通知することができます。MSI はきめ細かな (レジストリ設定ごと) コントロールを許可しないため、この機能はマイグレートできません。
粒度アンインストールレジストリコントロール	この機能は、どのレジストリ設定がアンインストール時に削除されたかを ConsoleOne 内でのマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に「Registry Append」というマークが付いているレジストリのみをアンインストールするように通知することができます。MSI はきめ細かな (レジストリ設定ごと) コントロールを許可しないため、この機能はマイグレートできません。
粒度 install.INI コントロール	この機能は、どの INI ファイルエントリがインストール時に作成されたかを ConsoleOne 内でのマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に「create add to section」というマークが付いている INI エントリを作成するように通知することができます。MSI はきめ細かな (INI エントリごと) コントロールを許可しないため、この機能はマイグレートできません。

機能	コメント
粒度 uninstall.INI コントロール	この機能は、どの INI ファイルエントリがアンインストール時に削除されたかを ConsoleOne 内でのマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に「create add to section」というマークが付いている INI エントリのみをアンインストールするように通知することができます。MSI はきめ細かな (INI エントリごと) コントロールを許可しないため、この機能はマイグレートできません。
アイコン順序	Configuration Management はアイコンが表示される順序を制御しません。アプリケーションチェーンを使用してアプリケーションインストールの順番をコントロールします。
負荷分散	新しいコンテンツシステムはゾーン全体ベースでこれを自動的に行います。デフォルトで、管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバはコンテンツを相互に複製します。
MSI 管理者パス	MSI パッケージ情報はメタデータに保存されなくなったため、ZENworks コントロールセンター内の実際の MSI ファイルにアクセスする必要はありません。また、ほとんどの MSI がコンテンツシステムにアップロードされます。
MSI オプションインストールパスランダム	負荷分散を自動的に実行する新しいコンテンツシステムに置き換わります。
MSI パッケージの説明	MSI パッケージの情報はメタデータに保存されなくなりました。これにより MSI バンドル自体を処理する必要がなくなり、MSI パッケージの更新が簡単になりました。
MSI パッケージ識別子	MSI パッケージの情報はメタデータに保存されなくなりました。これにより MSI バンドル自体を処理する必要がなくなり、MSI パッケージの更新が簡単になりました。
MSI パッケージサイズ	MSI パッケージの情報はメタデータに保存されなくなりました。これにより MSI バンドル自体を処理する必要がなくなり、MSI パッケージの更新が簡単になりました。
Novell Licensing Service (NLS)	Configuration Management は NLS をサポートしません。
オンデマンド	Configuration Management はシンプル RDP および ICA セッションのみをサポートします。
RDP 色の深さ	色の深さは 256、32768、65536、または 16777216 である必要があります。
リモート代替アプリケーション	ZENworks Adaptive Agent は同じ内部または外部ファイアウォールを実行します。区別をしないため、この機能はこれ以降サポートされません。
レポート機能	Configuration Management はグローバルなレポートシステムを備えているため、レポートはこれ以降アプリケーションベースでアプリケーション上で設定されることはありません。
16 ビットアプリケーションは別のセッションで実行されます。	Configuration Management は 16 ビットオペレーティングシステムをサポートしません。
サイトリスト	この機能は、ユーザがアプリケーションをワークステーションにインストールするための最も近い一致アプリケーションソースパスを使用できるようにします。新しいコンテンツシステムはこれを自動的に行います。

機能	コメント
シンククライアント設定	<p>Configuration Management は Novell Application Launcher がサポートに使用する機能のサブセットのみをサポートします。次の属性は除去されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ シンククライアントユーザ名(ターミナルサーバに資格情報は渡されません) ◆ シンククライアントパスワード(ターミナルサーバに資格情報は渡されません) ◆ シンククライアントプロトコル ◆ シンククライアント圧縮 ◆ シンククライアントシームレス
再起動のためのアンインストールプロンプト	<p>この機能はサポートされていません。Msiexec.exe は各アンインストールの再起動を処理するようになりました。この機能のほとんどは MSIExec コマンドラインにパラメータを追加することによって処理されます。</p>
ボリュームファイルシステム権限	<p>Configuration Management はファイルシステムに権限を自動的に割り当てません。</p>

A.2 イメージ

イメージファイルのマイグレーションを実行する管理者は、イメージファイル (.zmg) を読み取るための十分な権限を持っている必要があります。

次のものがマイグレートされます。

- ◆ 標準イメージ
- ◆ スクリプトイメージ
- ◆ マルチキャストセッションイメージ

ZENworks Configuration Management イメージングは従来の ZENworks イメージングファイル形式と下位互換性があるため、マイグレートされたイメージングファイルは変更されません。

次のものはマイグレートされません。

- ◆ アドオンイメージ

ローカルワークステーションキャッシュに大幅な変更があるため、アドオンイメージはマイグレートできません。それらは ZENworks コントロールセンター上でバンドルの [サマリ] ページで再作成することができます。

- ◆ イメージングサーバとワークステーションポリシー

これらのポリシーは、Configuration Management 内に同等のポリシーがないため、ステップ 4: ゾーン設定マイグレーションタスクを使用して管理ゾーン設定にマイグレートされます。

A.3 ポリシー

マイグレートできないポリシーはフィルタされ、マイグレーション用として表示されません。次のポリシーがマイグレートされます。

- ◆ Dynamic Local User (DLU)
- ◆ グループ
- ◆ イメージングサーバ
- ◆ イメージングワークステーション
- ◆ iPrint
- ◆ リモートコントロール
- ◆ ローミングプロファイル
- ◆ SNMP トラップターゲット

次のものはマイグレートされません。

表 A-2 Configuration Management にマイグレートされないポリシー機能

機能	コメント
拡張可能コンピュータポリシー	拡張可能ポリシーは Configuration Management では存在しません。
グループポリシー	次の設定はマイグレートされません。 <ul style="list-style-type: none">◆ ユーザ設定のキャッシュ : Configuration Management では存在しません。◆ グループポリシーはユーザログアウト後も有効 : Configuration Management では存在しません。◆ グループポリシーループバックサポート : これはポリシーインフラストラクチャオプションで、すべてのグループポリシーがデバイスに割り当てられたときに定義されます。◆ 永続ワークステーション設定 : Configuration Management では存在しません。
スケジュールされたアクションのポリシー	これらのポリシーは実行可能ファイルのスケジュールされた起動を含みます。この機能は同じ機能を実行するために簡単なアプリケーションを使用して複製されます。したがって、Configuration Management 内では同等のポリシーは作成されません。代わりに ZENworks コントロールセンター内で Directive バンドルを作成してこの機能を複製することができます。
拡張可能ユーザポリシー	拡張可能ポリシーは Configuration Management では存在しません。
ワークステーションインベントリ	すべての ZENworks Asset Management インベントリのデータマイグレーションは、ZENworks Asset Management マイグレーションツールによって処理されます。従来の ZENworks Asset Management Workstation Inventory 前のデータは、データベーススキーマの大きな相違点のためにマイグレートされません。
zendmSearchPolicy	アプリケーションと類似していて、ポリシーはフォルダ、ユーザ、およびデバイスに割り当てられ、検索ポリシーの必要が削減されました。

機能	コメント
zenimgWorkstationPolicy	事前ワークステーション管理ゾーン設定は、このポリシーに対して Configuration Management では利用できません。
zeninvDictionaryUpdatePolicy	新しい ZENworks Asset Management インベントリシステムには、Configuration Management に同等のポリシーはありません。
zeninvRollUpPolicy	新しい ZENworks Asset Management インベントリシステムには、Configuration Management に同等のポリシーはありません。ロールアップは管理ゾーンのプライマリサーバに対して ZENworks コントロールセンターで設定可能です。
zenlocDatabaseLocationPolicy	このポリシーはデータベースをレポートおよびインベントリ用に書き込むために見つけることに関連しています。Configuration Management はレポートとインベントリに別々のデータベースを使用するので、このポリシーはマイグレートされません。
zenlocSMTPHostPolicy	Configuration Management は同等のポリシーを持ちません。
zenlocXMLTargetPolicy	このポリシーは ZENworks 6.5 および ZENworks 7. x でのレポートに関連しています。レポートは XML を介して送信されないため、Configuration Management には同等のポリシーはありません。
zenwmWorkstationImport	ワークステーションインポートポリシーを管理ゾーン設定にマイグレートすることが技術的に可能ですが、ZENworks コントロールセンターにいくつかのグローバルゾーン設定を手動で設定するほうがマイグレートするよりも簡単です。ZENworks 7 では、Configuration Management で任意のフォルダレベルに階層的に登録ルールを設定できます。x 1 つまたは複数のサーバに関連付けられたサーバパッケージにワークステーションインポートポリシーを設定する必要がありました。これらの関係に対する単純な 1 対 1 のマッピングはありません。管理者がこれらの規則を手動で定義するほうが簡単です。
zenwmWorkstationRemoval	Configuration Management 内のワークステーション除去に関するポリシーはありません。
zenwmZENConfigPolicy	このポリシーは以前の ZENworks エージェントに適用されます。新しい ZENworks Adaptive Agent は新しい管理ゾーンによって制御され動作が異なります。
ダイナミックローカルユーザポリシー	<p>一時的ユーザキャッシュ設定がマイグレートされません。ZENworks コントロールセンターでマイグレートされたポリシーを編集して、次の操作を実行できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [一時的ユーザキャッシュの有効化] オプションを選択します。 2. [一時的ユーザのキャッシュ期間] オプションで、一時的ユーザアカウントをデバイスでキャッシュする日数を指定します。 <p>ポリシーの編集の詳細は、『ZENworks 10 Configuration Management ポリシー管理リファレンス』の「ポリシーの編集」を参照してください。</p>

A.4 管理ゾーンの設定

次の 2 つの eDirectory オブジェクトは管理ゾーン設定としてマイグレート可能な属性を含んでいます。

- ◆ イメージングサーバポリシー設定
- ◆ ワークステーションランチャの環境設定

左側のビューにこれらの eDirectory オブジェクトのいずれかが表示されている場合、マイグレート可能な各属性は下に一覧表示され、ユーザがマイグレーション用に個々の属性を選択できるようになっています。右側ビューは、マイグレートされる管理ゾーン設定のサブセットが表示されます。eDirectory からマイグレートされた属性は、ゾーン内の既存のターゲット設定を上書きします。

従来の ZENworks は、ランチャ環境設定を直接 User、Device、または Container オブジェクトに保存していました。Configuration Management は、これらの設定を ZENworks Explorer Configuration ポリシーと呼ばれる新しいポリシーに保存します。

マイグレーションツールは以前のシステムの設定の小さなサブセットのみを新しい ZENworks Explorer Configuration ポリシーにマイグレートします。さまざまな理由により、ほとんどのランチャ環境設定は Configuration Management 内の新しい ZENworks Explorer Configuration ポリシーでは使用されません。ゾーン全体に対して一つの設定のみですが、多くがグローバル管理ゾーン設定になっています。

ワークステーション用のランチャ環境設定は、管理ゾーン設定にマイグレートされますが、ユーザ用のランチャ環境設定は ZENworks Explorer Configuration ポリシーにマイグレートされます。

任意の指定ツリーには複数のランチャ環境設定があるため、ZENworks コントロールセンター内で手動で管理ゾーン設定の 1 つのセットを設定することが容易になっています。

次のランチャ環境設定は、新しい ZENworks Explorer Configuration ポリシーにマイグレート可能です。

- ◆ デスクトップ上にアイコンを表示 (ルートフォルダ名になります)
- ◆ フォルダビューを有効にする
- ◆ 手動更新を有効にする
- ◆ 起動時にフォルダビューを展開する
- ◆ デスクトップアイコンの名前

次のランチャ環境設定は、管理ゾーン設定にマイグレート可能です。

- ◆ 時間による更新を有効にする (ワークステーション)
- ◆ 更新頻度を設定する (ワークステーション)
- ◆ ランダムリフレッシュ分散を設定する
- ◆ 関連付けが解除されてからアンインストールされるまでの日数(ワークステーション)

次のランチャ環境設定はマイグレートできません。

- ◆ ユーザによる BITS 転送の上書きを許可する
- ◆ ユーザによる終了を許可する
- ◆ 常に参照を評価する
- ◆ 更新中にオンラインにする (ユーザ)
- ◆ 更新中にオンラインにする (ワークステーション)
- ◆ Application launcher の自動起動
- ◆ すべてのポップアップウィンドウを前画面に表示する
- ◆ ブラウザの終了時に Application Launcher を終了する

- ◆ リモートアクセス検出方法を設定する
- ◆ システムトレイアイコンを表示
- ◆ 自動アイコンクリーンアップを有効にする
- ◆ BITS を有効にする (ユーザ)
- ◆ BITS を有効にする (ワークステーション)
- ◆ [すべて] フォルダを有効にする
- ◆ ヘルパを有効にする (ワークステーション)
- ◆ Middle Tier ログインを有効にする
- ◆ ログインを有効にする
- ◆ パーソナルフォルダを有効にする
- ◆ リムーバブルキャッシュからの読み込みを有効にする (ユーザ)
- ◆ リムーバブルキャッシュからの読み込みを有効にする (ワークステーション)
- ◆ チェックポイントの [延期] ボタンを有効にする
- ◆ 時間による更新を有効にする (ユーザ)
- ◆ キャッシュへの書き込みを有効にする (ユーザ)
- ◆ キャッシュへの書き込みを有効にする (ワークステーション)
- ◆ アプリケーションのためにグループを読み込む (ユーザ)
- ◆ アプリケーションのためにグループを読み込む (ワークステーション)
- ◆ ウィンドウのサイズと位置を保存する
- ◆ アプリケーション継承レベルを設定する (ユーザ)
- ◆ アプリケーション継承レベルを設定する (ワークステーション)
- ◆ 更新頻度を設定する (ユーザ)
- ◆ 電子メール属性を指定する
- ◆ 最上位オブジェクト
- ◆ 関連付けが解除されてからアンインストールされるまでの日数 (ユーザ)
- ◆ ウォーターマークディスプレイプロパティ
- ◆ ウォーターマークソースパス

A.5 ワークステーション

Configuration Management は現在 Windows 2000 Support Pack 4、Windows XP SP2 ワークステーション、および Windows XP SP3 ワークステーションのマイグレーションのみをサポートしています。ワークステーショングループもマイグレートできます。次のワークステーションオブジェクト属性はマイグレートされます。

表 A-3 Configuration Management にマイグレートされるワークステーション機能

機能	コメント
wmnamecomputer	ワークステーションの名前。
wmnamedns	ワークステーションのドメイン名サービス (DNS) 名。

機能	コメント
wmnameos	ワークステーションのオペレーティングシステム。
wmnameuser	ワークステーションの所有者。これは、ワークステーションのマイグレート元と同じツリーをポイントする認証ユーザソースが定義されている場合にのみ取得されます。
wmnetworkaddress	通常はワークステーションの IP アドレス。
zenwmid	ワークステーションの固有の ID。
zenwmmacaddress	ネットワークカード MAC アドレス。
zenwmsubnetmask	IP アドレスに合致するサブネットマスク。

Launcher 環境設定はポリシーと遺書にマイグレートされます。アプリケーション関連付けは関連付けと一緒にマイグレートされます。グループメンバーはワークステーショングループと一緒にマイグレートされます。その他すべてのワークステーション属性は Configuration Management n 類似の属性がないためにマイグレートされません。

関連付けをワークステーションオブジェクトを含むコンテナにマイグレートしようと計画している場合は、ワークステーションタスク内のコンテナをマイグレートしてください。これは、コンテナの固有 ID を保持する唯一のマイグレーションタスクであるため、コンテナへの関連付けは保持されます。ユーザ関連付けでは、Configuration Management が同じユーザオブジェクトをポイントするユーザソースに依存しているため、固有の ID は常に古い ZENworks システムのものと同じであるため、これは問題になりません。

A.6 関連付け

マイグレーションツールは直接関連付けのみを表示およびマイグレートします。Configuration Management は以前の ZENworks 製品が持っていたものと同じ間接関連付けコンセプトを持ちます。間接関連付けはオブジェクトをコンテナに関連付け、コンテナ内のすべてがそのコンテナ内の存在によってオブジェクトに関連付けられたときに作成されます。間接関連付けのすべてがマイグレートされ、マイグレートされたオブジェクトが同じフォルダ構造に配置されたら、すべての間接関連付けは自動的にマイグレートされます。

この関連付けタスクは意図的にマイグレーション画面の最後の手順としてリストされています。これは、関連付けの継承性 (Configuration Management での割り当て) が、「App A は User 1 に割り当てる」などのように、2つのオブジェクト間で1対1の関係を確立するためです。

ConsoleOne には直接関連付けのビューはありません。これによりいくつかの ZENworks 環境が複雑になります。マイグレーションユーティリティはディスプレイフィルタによって eDirectory 内の既存の関連付けのサブセットを表示することによってこの複雑性を解除しようとしています。各オブジェクトは選択したコンテナおよび選択したフィルタに基づいて表されます。各オブジェクトの下には、そのオブジェクトの関連付けがすべて表示されます。それぞれの関連付けはオブジェクトタイプアイコンの上に2方向矢印 <-> オーバーレイアイコンを持ちます。複数の関連付けが選択可能で右側にドラッグしたり、またはオブジェクト全体をドラッグして項目内のすべての関連付けをマイグレートキューに入れることができます。右側ビューは、選択したフィルタに基づいて既存の関連付けがすべて表示されています。

マイグレーションユーティリティはこのビューに2つのフィルタを追加して関連付けの表示の速度を上げる手助けをします。最初のフィルタはバンドル、ユーザ、ワークステーション、コンテナ、およびポリシーから選択可能なさまざまな組み合わせのみを表示するように強制します。または、最後のオプションのもを選択してすべてのオブジェクトタイプを表示することができます。2番目のフィルタは、適格または不適格のすべてのオブジェクトを表示するか、または適格な関連付けのみを表示します。適格な関連付けは関連付けがポイントするオブジェクトの両方ともが **Configuration Management** に存在するため、適格です。どの関連付けが適格であるかを計算するには数分間かかるため、このオプションはデフォルトではありません。フィルタは「**不適格および適格の両方を表皮する(警告を表示)**」と呼ばれ、どの関連付けが不適格であるかをユーティリティが判別して最後の表示欄に理由を表示します。適格な関連付けもすべて表示されます。

関連付けの実際のマイグレーションは単純です。**Configuration Management** が両方のオブジェクトをポイントする新しい **Assignment** オブジェクトを作成します。アプリケーションでは、**Configuration Management** はこのマイグレーションプロセス中に **Location Mask** (ロケーションマスク) および **Availability Schedule** (使用可能スケジュール) もマイグレートします。

グローバルマイグレーションオプション

B

グローバルマイグレーションオプションパネルを使用すると、オブジェクトを ZENworks Configuration Management にマイグレートする前にさまざまな設定を構成できます。


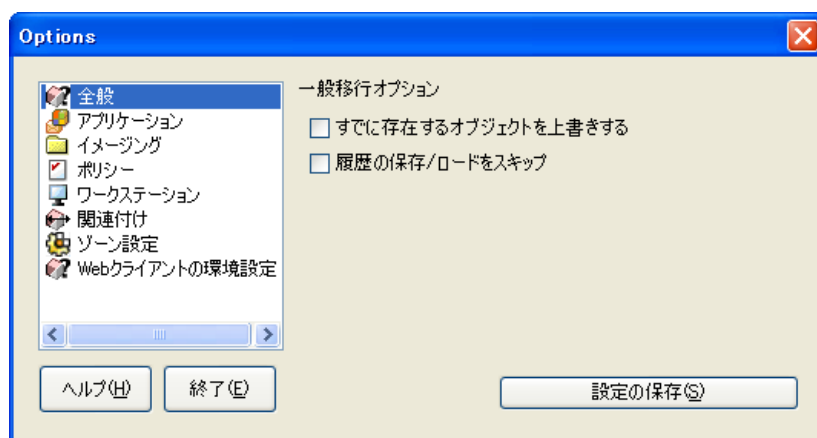
オプションウィンドウを起動するには、ユーティリティの右上の  をクリックします。

図 B-1 グローバルマイグレーションオプション



グローバルマイグレーションオプションの詳細については、次のセクションを確認してください。

- ◆ 87 ページのセクション B.1 「一般」
- ◆ 88 ページのセクション B.2 「アプリケーション」
- ◆ 89 ページのセクション B.3 「関連付け」
- ◆ 90 ページのセクション B.4 「イメージング」
- ◆ 90 ページのセクション B.5 「ポリシー」
- ◆ 90 ページのセクション B.6 「ゾーンの設定」
- ◆ 90 ページのセクション B.7 「ワークステーション」
- ◆ 90 ページのセクション B.8 「Web クライアント設定」

B.1 一般

すでに環境設定管理に存在するオブジェクトをマイグレートする場合は、[すでに存在するオブジェクトを上書き] オプションを使用すると、マイグレートされる最新のオブジェクトを代わりに使用できます。既存のオブジェクトは、ZENworks® Configuration Management データベース内の新しいマイグレーションオブジェクトで上書きされます。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。

B.2 アプリケーション

ユーティリティが、1つまたは複数の属性を MSI にマイグレートできなかった場合は、**[失敗した MSI ビルドの移行]** オプションを使用すると、強制的にアプリケーションのマイグレーションが行えます。

MSI バンドルは、AOT アプリケーションオブジェクトの MSI への変換時に警告が生成された場合、失敗するとみなされます。これらのバンドルは、警告にも関わらず正常にマイグレートされることがよくあります。たとえば、AOT に含まれている Windows ショートカットリンクがもはや有効ではないために、警告が生成されることがあります。

このオプションを有効にする場合は、警告メッセージは表示されません。マイグレートされなかった属性に関する情報についてのマイグレーションログを確認できます。

[作成された MSI および一時ファイルを保持する] オプションは、アプリケーションが作成されてマイグレートされることを意味しますが、一時ファイルを保持しているディレクトリと新しい MSI ファイルは自動的に削除されません。これにより、**Configuration Management** 内のコンテンツサービスに組み込まれる前に新しく作成された MSI へアクセスできるようになります。

[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード] オプションを使用すると、コンテンツサーバにコンテンツをアップロードできます。デフォルトではこのオプションが選択されています。

アプリケーションは、**Install MSI** アクションとして **ZENworks Configuration Management** サーバにマイグレートされます。また、**[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード]** オプションが選択されており、マイグレーション時にファイルのソースパスがローカルパスまたは UNC パスに解決される場合、コンテンツサーバにもアップロードされます。

このアプリケーションは **Install Network MSI** アクションとして **ZENworks Configuration Management** サーバにマイグレートされますが、次のシナリオでは、コンテンツサーバにはアップロードされません。

- ◆ **[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード]** オプションが選択解除されています。
- ◆ **[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード]** オプションが選択されていますが、マイグレーション時にファイルのソースパスがローカルパスまたは UNC パスに解決されないか、ファイルが見つかりません。

[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションにより、INI 編集アクション、レジストリの編集アクション、または編集可能な実行スクリプトアクションなど、個々のアクションとしてアプリケーションの配布オプションをマイグレートできます。デフォルトでこの設定が選択されています。**[個別アクションとして配布オプションを移行]** オプションを選択解除すると、MSI としてアプリケーションの配布オプションをマイグレートします。

[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションが有効である場合は、アプリケーションは固有のアクションとしてマイグレートされます。

- ◆ レジストリの変更があるアプリケーションは、レジストリの編集アクションでバンドルとしてマイグレートされます。
- ◆ INI 設定があるアプリケーションは、INI ファイルの編集アクションでバンドルとしてマイグレートされます。

- ◆ テキストファイルの変更があるアプリケーションは、テキストファイルの編集アクションでバンドルとしてマイグレートされます。
- ◆ アイコンやショートカットがあるアプリケーションは、スクリプト実行アクションまたはファイルの削除アクションと共に Windows のバンドルとしてマイグレートされます。
- ◆ アプリケーションファイルの変更があるアプリケーションは、次のようにマイグレートされます。
 - ◆ ファイルのコピーまたはファイルのインストールアクションとしてのファイル。
 - ◆ ディレクトリのコピー、ディレクトリのインストール、またはディレクトリの作成/削除アクションとしてのディレクトリ。
 - ◆ ファイル削除アクションとしてのファイルの削除
 - ◆ ディレクトリの作成/削除アクションとしてのディレクトリの削除。

[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションが無効である場合は、アプリケーションは MSI のインストールアクションとしてマイグレートされます。ただし、テキストファイル編集アクション、ディレクトリのコピー、ディレクトリのインストール、ファイル削除は、この MSI のインストールアクションの一環ではありません。

[作業ディレクトリ] オプションを使用すると、一時マイグレーションファイルをデフォルトユーザの %TEMP% ディレクトリとは異なる場所に配置することができます。長いパス (256 文字以上) を持つアプリケーションをマイグレートする場合は、このオプションを使用すると c:\temp のように一時パスを短くすることができます。

B.3 関連付け

関連付けられたオブジェクトが存在しない場合は、マイグレーションを中止し、適切なマイグレーションタスクに転送してオブジェクトの作成を促します。まだマイグレーションを行っていないオブジェクトに対する関連付けをマイグレートすると、オプションが適切なマイグレーションタスクへの転送を促します。オブジェクトをマイグレートしたら、[関連付け] に戻り、[今すぐ移行] をクリックして関連付けのマイグレーションを再開します。このオプションは、数個の項目のみをマイグレートし、関連付けの失敗をその場で処理したい場合に便利です。無人マイグレーションを実行する場合は、このオプションを選択しないでください。

[マイグレーション先のユーザソースで、一致するエンティティを検索するコンテキストを指定します] オプションでは、グループおよびコンテナの関連付けのマイグレーション中に、一致するエンティティを検索するためのコンテキストを指定できます。コンテキストを指定しなかった場合、マイグレーション先のユーザソース全体で検索が行われます。

たとえば、マイグレーション先のユーザソースが migration.orgunit.org.com で、コンテキストを OU1/OU2/users として指定すると、ユーティリティは migration.orgunit.org.com/OU1/OU2/users 内で一致するエンティティを検索します。

コンテキストを指定しなかった場合、マイグレーション先のユーザソース全体、すなわち migration.orgunit.org.com で検索が行われます。

B.4 イメージング

イメージファイルがコンテンツサーバにすでに存在するイメージオブジェクトをマイグレートする場合、[コンテンツサーバ上に既存のイメージファイルを上書き] オプションを使用して、イメージファイルを上書きできます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

B.5 ポリシー

Novell® eDirectory™ から Launcher 設定をマイグレートする場合は、[Launcher 設定ポリシーの割り当て作成をスキップ] オプションを選択し、設定を環境設定管理の Launcher 設定ポリシーに変換します。マイグレーション中は、同一オブジェクトから新しい Launcher 設定ポリシーへの割り当ては、割り当てのスキップを選択して [オプション] ダイアログボックスのこの機能をオフにしない限り、自動的に作成されます。

B.6 ゾーンの設定

管理ゾーン設定に定義されているグローバルマイグレーションオプションは現在ありません。

B.7 ワークステーション

現在、ワークステーション用に定義されているグローバルマイグレーションオプションはありません。

B.8 Web クライアント設定

[Web クライアント設定] を使用すると、ファイルをコンテンツサーバにアップロードする設定を行うことができます。

[データをチャンクで送信] オプションは、データをチャンクでアップロードします。このオプションはデフォルトで選択されます。マイグレーションユーティリティをホストするデバイスでプロキシが有効になっている場合、マイグレーションが失敗する可能性があります。マイグレーションを実行するには、[データをチャンクで送信] オプションを無効にします。

[接続を保持] オプションは、ZENworks Configuration Management サーバとの永続的な接続を確立します。

[読み書きタイムアウト] オプションを使用すると、読み込みまたは書き込み操作にタイムアウト時間を指定できます。デフォルトでは、このオプションは [なし] に設定されています。

[応答取得のタイムアウト] オプションを使用すると、ZENworks Configuration Management サーバから応答を受け取るためのタイムアウト時間を設定できます。デフォルトでは、このオプションは [なし] に設定されています。

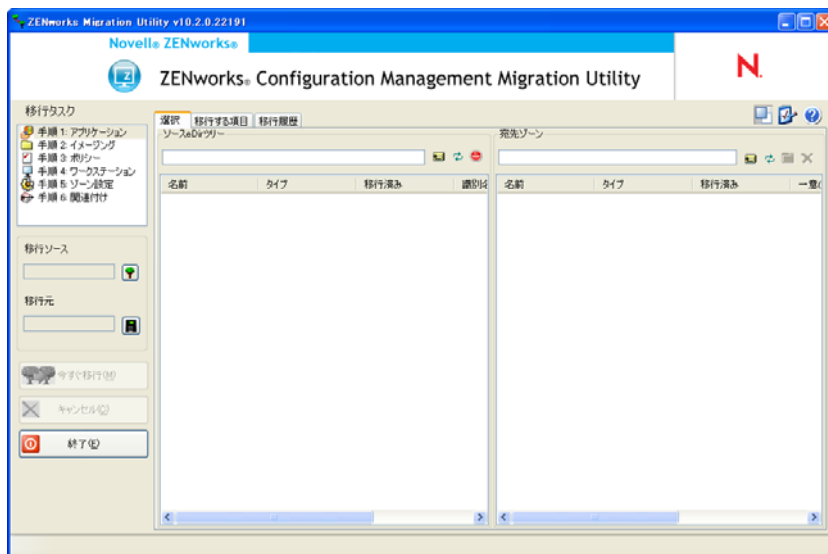
デフォルト設定に戻すには、[デフォルトの復元] をクリックします。

マイグレーションユーティリティの 理解

C

ZENworks マイグレーションユーティリティは、マイグレーションをモデル化して実行できるマイグレーション画面で構成されます。

図C-1 ZENworks マイグレーションユーティリティ



マイグレーションユーティリティの構成と機能の詳細については、次のセクションを確認してください。

- ◆ 92 ページのセクション C.1 「マイグレーションタスク」
- ◆ 92 ページのセクション C.2 「マイグレーション元/マイグレーション先」
- ◆ 92 ページのセクション C.3 「[今すぐ移行] ボタン」
- ◆ 93 ページのセクション C.4 「[キャンセル] ボタン」
- ◆ 93 ページのセクション C.5 「終了」
- ◆ 93 ページのセクション C.6 「タブの選択」
- ◆ 95 ページのセクション C.7 「[移行する項目] タブ」
- ◆ 96 ページのセクション C.8 「[マイグレーション履歴] タブ」
- ◆ 97 ページのセクション C.9 「最新情報」
- ◆ 97 ページのセクション C.10 「オプションアイコン」
- ◆ 97 ページのセクション C.11 「プロセス全体」

C.1 マイグレーションタスク



マイグレートできる Novell® eDirectory™ データにはいくつかのタイプがあります。1つまたは複数のセッションですべてのタイプをモデル化できます (モデル化情報は保存されるため)。ただし、一度にマイグレートできるのは1つのタイプだけです。[マイグレーションタスク] フィールドで選択したタイプは、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、マイグレートされます。

[マイグレーションタスク] フィールドに表示されるオプションは、[選択] タブに何が表示されるかを決定するフィルタです。マイグレーションタスクを選択する場合は、フィールド (およびデータ) は [選択] タブの2つのパネル ([ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン]) で適切に変更されます。たとえば、[ステップ1: アプリケーション] を選択する場合は、アプリケーションに適合するパス、フィールド、およびデータのみが両方のパネルに表示されます。[ソース eDir ツリー] パネルでは、eDirectory ツリー内の項目を確認できます。[宛先ゾーン] パネルでは、現在 ZENworks データベースに存在する項目を確認でき、ZENworks コントロールセンターで表示可能です。

[マイグレーションタスク] オプションの数は、アプリケーションと関連付けオブジェクトが Configuration Management での関連付けの再作成のためにすでに存在する必要があるアプリケーションなど、考えられる従属関係の理由から、提案されたマイグレーションシーケンスを表します。したがって、まずアプリケーションをマイグレートして、関連付けをマイグレートします。ただし、タイプのサブセットを含め、eDirectory データはいかなる順序でもマイグレートできます。これは、さまざまな部署のアプリケーションを別々にマイグレートするなど、増加するマイグレーションで便利です。

また、どの項目でも [宛先ゾーン] パネルから削除できます。この場合、項目はデータベースから削除されるため、ZENworks コントロールセンターでも表示できなくなります。

C.2 マイグレーション元 / マイグレーション先

[マイグレーション元] と [マイグレーション先] フィールドには、現在の選択肢が表示されます。これらのフィールドが空の場合、またはソースまたは宛先を変更するには、 または  アイコンをクリックして、[eDir ログイン] また [ゾーンログイン] ダイアログボックスを表示して、エンティティを認証します。

C.3 [今すぐ移行] ボタン

マイグレーションタイプを選択して、マイグレートする項目を選択したら ([ソース eDir ツリー] パネルを [宛先ゾーン] パネルにコピーしてマイグレーションタイプのモデル化を完了)、このボタンをクリックしてマイグレーションを実行します。[移行する項目] タブにリストされている項目すべてが、一度にマイグレートされます。マイグレートされるまでは、淡色表示されたアイコンで表示されます。

サイトリスト上アプリケーションをドラッグしたとき、その複製がすでにキューに入っている場合は、どちらをマイグレートするか決定して重複を解決するよう求めるメッセージが表示されます。項目を右クリックして、マイグレートする項目を決定するのに役立つ情報について、[属性を表示] を選択できます。

C.4 [キャンセル] ボタン

このボタンは、マイグレーション中にいつでもクリックでき、プロセスを停止できます。すでにマイグレートされた項目はマイグレートされたままになります。まだマイグレートされていない項目は続行され、淡色表示されたアイコンとテキストで [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

C.5 終了

マイグレーションユーティリティを終了します。実行したモデル化は、今後のセッション用に保存されます。

保存済みマイグレーション情報は、マイグレーション先とマイグレーション元のペアを基準とします。したがって、[宛先ゾーン] パネルに表示される保存済みモデル化情報は、選択するマイグレーション先とマイグレーション元のペアによって異なります。保存済みモデル化ファイルは、サブディレクトリ (ユーティリティの実行元である場所) で保持されます。これは、マイグレーション先とマイグレーション元のペアを基準とします。複数の eDirectory ツリーから 1 つの管理ゾーンへのマイグレーションをモデル化する場合は、これに留意してください。

C.6 タブの選択

このタブには、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルが表示されます。両方のパネルで、項目をマイグレートした後に、マイグレート済みエントリのテキストは暗い灰青色になります。これは、ユーティリティを後から実行した場合にも、マイグレートした項目とマイグレートしていない項目を表示するのに便利です。エラーのため、エントリがマイグレートされない場合は、アイコンは淡色表示のままになります。

- ◆ 93 ページのセクション C.6.1 「ソース eDir ツリー」
- ◆ 94 ページのセクション C.6.2 「宛先ゾーン」

C.6.1 ソース eDir ツリー

eDirectory ツリーにログインすると、[ソース eDir ツリー] パネルには適切な情報が入力され、ツリーのルートで開始されます。たとえば、[ステップ1: アプリケーション] を選択する場合は、移動して、アプリケーションオブジェクトのみがツリーに表示されます。




[ソース eDir ツリー] パネルに一覧表示されているマイグレートする項目を選択するには、その項目を選択して、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。

重要: オブジェクトの選択、ドラッグ、およびマイグレートは、eDirectory ツリーには何も影響しません。マイグレーションは、読み取りとコピーのみの操作です。eDirectory ツリーは変更されません。そのため、eDirectory ツリーに読み込み専用ユーザとしてログインしてマイグレーションを実行することもできます。

[ソース eDir ツリー] フィールドには、ツリー内で現在選択済みのコンテキストのフルパスが表示されます。

次のアイコンをクリックして、ツリーに移動できます。

表 C-1 ソース eDir ツリーアイコン

	1 階層上へ移動 ：現在のコンテキストから 1 階層上へフォーカスを移動します。
	更新 ：ビューを更新します。たとえば、ツリーを最初に認証する場合は、現在のツリーの状態を受信します。その後ツリーに変更を加えた場合は、[更新] をクリックして、マイグレーションユーティリティでマイグレーション対象の変更内容をキャプチャします。
	ソース eDir ツリーでオブジェクトの一覧表示を停止 ：[ソース eDir ツリー] フィールドでオブジェクトの一覧表示を停止します。

リスト内の項目を右クリックする場合は、次の 2 つのオプションがあります。

- ◆ **属性を表示**：[一般属性] ダイアログボックスに選択済みオブジェクトの属性を表示します。これは、トラブルシューティングとサポートコールに役立ちます。
- ◆ **マイグレーションキューに追加**：項目を [Destination Zone(宛先ゾーン)] パネルと [移行する項目] タブのマイグレーション用にキューに入れられた項目のリストにコピーします。

これらのオプションは、選択済み項目にもパネル全体にも適用できるので、特定の項目にのみ適用できるオプションについては、項目を右クリックします。すべての項目に適用できるオプションについては、パネルのどこかを右クリックします。

ワークステーションオブジェクトとアプリケーションオブジェクトのように、含まれるオブジェクトのタイプが異なるマイグレーションのコンテナを選択する場合は、アクティブな [マイグレーションタスク] 選択に関連するオブジェクトのみが [宛先ゾーン] パネルにコピーされます。

以前に [宛先ゾーン] のキューに入れられた項目をドラッグして、まだマイグレートされていない場合は、項目がすでにそこにあるため、アクションは発生しません。



C.6.2 宛先ゾーン

[宛先ゾーン] パネルでは、マイグレートされる項目は淡色表示アイコンで表示され、すでにマイグレートされた項目または ZENworks コントロールセンターにもともと作成された項目は色付きアイコンで表示されます。

[宛先ゾーン] フィールドには、管理ゾーン内のマイグレート済みオブジェクトの選択済みマイグレート先のフルパスが表示されます。デフォルトの場所が表示されます。

次のアイコンをクリックして、ゾーンの移動または選択済み項目の変更ができます。

表 C-2 宛先ゾーンアイコン

	1 階層上へ移動 ：現在のフォルダから 1 階層上へフォーカスを移動します。
	更新 ：ビューを更新します。たとえば、ゾーンを最初に認証する場合は、現在のゾーンの状態を受信します。その後ゾーンで変更を加えた場合は、[更新] をクリックして、マイグレーションユーティリティで変更内容を更新します。



新規フォルダを作成する：ZENworks コントロールセンターに表示される Configuration Management フォルダ構造を変更すると、新しいフォルダを追加して管理ニーズに合わせるすることができます。たとえば、/bundles~ の下にあるフォルダ (Files など) を追加する場合は、File フォルダは ZENworks コントロールセンターの [バンドル] の下に表示され、コピーした eDirectory オブジェクトについて作成されたすべてのバンドルが含まれます。

モデル化されたフォルダは、マイグレートするまでは ZENworks コントロールセンターに追加されません。ただし、空のフォルダをモデル化して、[今すぐ移行] をクリックして Configuration Management に追加することができます。これは、オブジェクトをマイグレートする前にフォルダ構造を設定するのに役立ちます。



選択したオブジェクトを削除：淡色表示アイコンのある項目をリストから削除しますが、eDirectory または ZENworks データベースからは削除されません。項目のアイコンに色が付いている場合は、すでにマイグレート済みの項目か、もともと ZENworks コントロールセンターで作成された項目かのどちらかです。[選択済みオブジェクトを削除] アイコンを選択する場合は、ZENworks データベースから項目が削除され、ZENworks コントロールセンターで表示できなくなります。

重要：マイグレート済み項目または ZENworks コントロールセンターでもともと作成された項目が両方表示される場合は、色付きアイコンのある項目の削除を選択する場合はこのことに注意してください。

リストの項目を右クリックすると、次のオプションが表示されます。

- ◆ **選択した項目を削除**：選択した項目をこのビューのリストから削除します。ただし、項目がまだマイグレートされていない場合は、選択した項目はこのビューと [移行する項目] タブの両方から削除されます。
- ◆ **新規フォルダ**：新規フォルダを現在レベルに挿入できます。このフォルダは、マイグレーションを実行するまでは ZENworks コントロールセンターに作成されません。マイグレートするフォルダ構造を作成する場合は、フォルダ内に項目が置かれます。
- ◆ **ゾーン設定を表示**：選択されたオブジェクトの ZENworks 管理ゾーン設定を表示します。
- ◆ **属性を表示**：[一般属性] ダイアログボックスに選択済みオブジェクトの属性を表示します。これは、トラブルシューティングとサポートコールに役立ちます。

これらのオプションは、選択済み項目にもパネル全体にも適用できるので、特定の項目にのみ適用できるオプションについては、項目を右クリックします。すべての項目に適用できるオプションについては、パネルのどこかを右クリックします。

[一意な識別子] カラムには、同じ名前前の複数オブジェクトを区別する方法が用意されています。識別子にはマイグレート元のフルコンテキストがあるからです。ZENworks マイグレーションユーティリティは、追加される項目が重複しないよう自動的に防止しています。ただしこれは、[名前] カラム内の項目の名前でなく、一意な識別子に適用されます。

C.7 [移行する項目] タブ

このタブには、マイグレートされる項目が表示されます。これは、マイグレーションが進行中の間のアクティブなビューです。

最上部のパネルには、項目がマイグレートされるのに応じて、[ステップ] カラムにマイグレーションの進行状況が表示されます。問題が発生した場合は、[ステップ] に示されます。

[マイグレーションステータス] パネルには、データがマイグレートされるように、書き込み中のマイグレーションログが表示されます。またこれは、項目のマイグレーション後に作成された、マイグレーションログファイルのコンテンツです。ログファイルは、[ステップ] カラムにある [ログ表示] ボタンをクリックすると、アクセスできます。また、[マイグレーション履歴] タブにある [マイグレーションログ] カラムにある同じオプションからアクセスできます。

リストの項目またはビュー内のいずれかの場所を右クリックすると、次の3つのオプションが表示されます。

- ◆ **選択した項目を削除**：このビュー内および [選択] タブの [宛先ゾーン] の下にあるリストで、マイグレートする項目のリストから選択した項目を削除します。
- ◆ **すべてを削除**：マイグレーションリストからリスト済み項目すべてを削除します。選択済みかどうかに関わらず、[選択] タブにある [宛先ゾーン] の下のリスト内のすべての項目が含まれます。
- ◆ **正常に削除**：[今すぐ移行] をクリックする前にリスト内にもともとあったすべての項目はリスト内に残り、マイグレーションステータスが表示されます。このオプションによって、正常にマイグレート済みの項目すべてを削除でき、マイグレートに失敗した項目の確認と処理ができます。

これらのオプションは、選択済み項目にもパネル全体にも適用できるので、特定の項目にのみ適用できるオプションについては、項目を右クリックします。すべての項目に適用できるオプションについては、パネルのどこかを右クリックします。


C.8 [マイグレーション履歴] タブ

このタブには、マイグレートした項目すべてが、[マイグレーションタスク] パネルで選択したマイグレーションタイプに従って、表示されます。


リスト内またはビュー内のいずれかの場所で項目を右クリックすると、次のオプションが表示されます。

- ◆ **選択した項目を削除**：マイグレートされた項目のリストから選択した項目を削除しますが、マイグレートされたという事実は変更されません。これはリストを縮小する場合に役立ちます。
- ◆ **すべての項目を削除**：マイグレーションリストから一覧表示された項目をすべて削除しますが、マイグレートされたという事実は変更されません。これはリストを消去する場合に役立ちます。
- ◆ **更新**：リストを更新します。
- ◆ **マイグレーションログ**：マイグレーションデータは、RTF ログファイルにログされます。マイグレーションログファイルは、行の任意の場所をダブルクリックすることによって常に利用可能です。また、ZENworks マイグレーションユーティリティ実行ファイルが存在する \log ディレクトリでも、このログファイルにアクセス可能です。ただし、ファイル名には GUID が使用されるため、通常、マイグレーションログファイルにアクセスするには管理ユーティリティが最適な方法です。

C.9 最新情報

 アイコンは、ZENworks 10 Configuration Management SP2 の新機能が一覧されている、最新情報ウィンドウにアクセスします。マイグレーションユーティリティを開始している間、最新情報ウィンドウを表示させない場合、[今後このメッセージは表示しない] オプションをオンにします。

C.10 オプションアイコン

 アイコンは、[オプション] ダイアログボックスにアクセスします。ここでは、マイグレート中の eDirectory データのタイプに関連するグローバルオプションを指定できます。タイプによっては、グローバルオプションがないものもあります。マイグレーションオプションは、マイグレーション中に強制され、モデル化中の情報表示に影響することがあります。

C.11 プロセス全体

このフィールドは、画面の一番下にあり、マイグレーションの進行を棒グラフで示します。[移行する項目] タブに、マイグレート中の個別の項目の進行バーも表示できます。

トラブルシューティング

D

次のセクションでは、従来の ZENworks[®] ソフトウェアを Novell[®] ZENworks[®] 10 Configuration Management にマイグレートする際に発生する可能性のあるシナリオについて説明します。

- ◆ 99 ページの「アプリケーションバージョンがマイグレートされない」
- ◆ 99 ページの「アプリケーションのスケジュールが正しくマイグレートされない」
- ◆ 100 ページの「マイグレーションの後、アプリケーションアイコンを使用できない」
- ◆ 100 ページの「マイグレーション中にマイグレーションユーティリティがハングする」
- ◆ 100 ページの「iPrint ポリシーをマイグレートできない」
- ◆ 100 ページの「グループポリシーをマイグレートできない」
- ◆ 101 ページの「管理対象デバイスで特定のオプションを指定した登録アクションが失敗する」
- ◆ 101 ページの「コンテンツサーバにアップロードされるべきオブジェクトをマイグレートできない」
- ◆ 101 ページの「マイグレート済みの Adobe MSI をインストールできない」
- ◆ 102 ページの「手動で作成したユーザがマイグレーションを実行できない」
- ◆ 102 ページの「マイグレーションユーティリティでユーザの関連付けを表示できない」
- ◆ 102 ページの「デバッグログを有効にする方法」

アプリケーションバージョンがマイグレートされない

説明： アプリケーションをマイグレートする際に、アプリケーションバージョンがマイグレートされないことがあります。

考えられる原因： マイグレートに使用されているデバイスに Windows .NET Framework 2.0 パッチ KB928365 が適用されている。

アクション： アプリケーションをマイグレートするには、パッチ KB928365 がまだ適用されていない Windows デバイスのみを使用します。

アプリケーションのスケジュールが正しくマイグレートされない

説明： サマータイム中に使用可能なスケジュールが設定されているアプリケーションをマイグレートすると、スケジュールは正しくマイグレートされません。たとえば開始日を 2/11/08 と指定し、終了日を 10/11/08 と指定すると、アプリケーションは開始日が 1/11/08、終了日が 9/11/08 としてマイグレートされます。

アクション： マイグレーションが完了した後、ZENworks コントロールセンターを使用して手動でスケジュールを修正してください。

マイグレーションの後、アプリケーションアイコンを使用できない

説明： アプリケーションオブジェクトが MSI バンドルとして ZENworks Configuration Management にマイグレートされると、アプリケーションのアイコンのいくつかが使用できなくなり、ログに次のエラーが表示される場合があります。

ISDEV : error -1024: message string.

このエラーは管理対象デバイスのバンドルの機能には影響はありません。またマイグレーションは成功しています。

アクション： エラーを無視してください。

マイグレーション中にマイグレーションユーティリティがハングする

説明： 500 INI セクション以上ある AOT アプリケーションを ZENworks Configuration Management にマイグレートすると、マイグレーションユーティリティツールはハングします。

アクション： なし。

iPrint ポリシーをマイグレートできない

説明： nipp.exe クライアントインストラーによって設定された iPrint ポリシーは、nipp.exe ではサイレントインストールはサポートされていないため、ZENworks Configuration Management にマイグレートされません。

アクション： 従来の ZENworks で、iPrint policy が nipp-s.exe または nipp.zip クライアントのインストラーを使用するように設定し、その後でマイグレートします。

グループポリシーをマイグレートできない

説明： 従来の ZENworks で、認証を必要とする共有フォルダの UNC パスを指定してグループポリシーを設定している場合、Windows Vista SP1 デバイスにインストールされているマイグレーションユーティリティを使用してポリシーを ZENworks Configuration Management にマイグレートすると、Vista デバイスはネットワークフォルダにアクセスできないためマイグレーションは失敗します。

アクション： 次を実行します。

1. [スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。system32 を指定してから、[OK] をクリックします。
2. cmd.exe を右クリックして、[管理者として実行] を選択します。
3. コマンドプロンプトで「explorer」と入力して、Explorer ウィンドウを起動します。
4. Explorer ウィンドウで、[ツール] > [ネットワーク ドライブの割り当て] をクリックしてネットワークの場所を割り当てます。
5. ユーザのアカウント情報を入力し、そのパスに設定されているポリシーまたはアプリケーションをマイグレートします。

管理対象デバイスで特定のオプションを指定した登録アクションが失敗する

説明： レジストリおよび INI だけに変更されており、[存在する場合に作成]、[削除]、[存在する場合に追加し、そうでなければ作成]、あるいは [ソフトウェア配布で存在する場合に付加し、そうでなければ作成] オプションなどのオプションが指定されているアプリケーションを MSI としてマイグレートすると、管理対象デバイスでオプションは失敗します。

アクション： 次の手順 w 実行して、アプリケーションを MSI ではなく個々のアクションとしてマイグレートします。

1. マイグレーションユーティリティを起動します。
2. [マイグレートツールの設定] アイコンをクリックした後、[アプリケーション] をクリックします。
3. [配布オプションを個別のアクションとしてマイグレート] オプションをオンにします。
4. レジストリが変更されているアプリケーションを宛先ゾーンにマイグレートします。アプリケーションは、Regedit アクションを持つ Windows バンドルとしてマイグレートされます。

コンテンツサーバにアップロードされるべきオブジェクトをマイグレートできない

説明： コンテンツサーバにアップロードされるべきオブジェクトをマイグレートする際、マイグレーションユーティリティではマイグレートの失敗によるエラーが発生する場合があります。

考えられる原因： マイグレーションユーティリティをホストしているデバイスで有効になっているプロキシがデータを送信するよう設定されていないか、ファイルをコンテンツサーバにアップロードする際にサーバと永続的な接続を確立している。

アクション： [Web クライアント設定] オプションを使用してファイルをコンテンツサーバにアップロードするための設定を構成し、もう一度マイグレートしてみます。詳細については、[90 ページのセクション B.8 「Web クライアント設定」](#)を参照してください。

考えられる原因： リモートサーバとの接続に失敗した可能性がある。

アクション： マイグレーションの宛先ゾーンにログインする際に指定したファイルアップロード *Http* ポートが、ZENworks Configuration Management サーバで設定されているポートと同じであることを確認してください。

マイグレート済みの Adobe MSI をインストールできない

考えられる原因： Adobe* Flash* Player プラグインがデバイスにインストールされている。

アクション： デバイスにバンドルを展開する前に、管理対象デバイスで次のステップを実行してください。

- 1 コマンドプロンプトを開きます。
- 2 Flash Player プラグインインストールディレクトリに移動します。デフォルトのインストールディレクトリは C:\WINDOWS\system32\Macromed\Flash です。

- 3 次の手順を実行して既存の Flash ファイルの登録エントリのロックを解除します。
 - ◆ uninstfl.exe ファイルが使用可能な場合は、次のコマンドを実行します。
uninstfl.exe -u
 - ◆ NPFSW32_FlashUtil.exe など、*FlashUtil.exe と一致する名前のファイルが使用可能な場合は、次のコマンドを実行します。
*FlashUtil.exe -uninstallUnlock -u
- 4 管理対象デバイスでバンドルを展開します。

手動で作成したユーザがマイグレーションを実行できない

考えられる原因： ユーザは、マイグレーションオブジェクトを含むコンテナのトラスティとして eDirectory™ に設定されていない。

アクション： 管理者権限を提供するほかに、ユーザはマイグレートするオブジェクトを含むコンテナの保管人としても設定されている必要があります。保管人追加の詳細については、『[ConsoleOne ユーザガイド \(http://www.novell.com/documentation/consol13/\)](http://www.novell.com/documentation/consol13/)』を参照してください。

マイグレーションユーティリティでユーザの関連付けを表示できない

説明： アプリケーションがユーザコンテナに関連付けられている場合、マイグレーションユーティリティはコンテナレベルで関連付けを一覧表示します。ただし、関連付けはコンテナ内の個々のユーザに適用されません。関連付けをマイグレートすると、コンテナ内のすべての個々のユーザの関連付けがマイグレートされます。

アクション： なし。

デバッグログを有効にする方法

アクション： ログを有効にするには、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 3418069 を参照してください。

ベストプラクティス

以降のセクションでは、従来の Novell® ZENworks® 10 Configuration Management をマイグレートする際に従う必要のあるベストプラクティスについて説明します。

- 103 ページのセクション E.1 「Windows Vista デバイスでのマイグレートユーティリティの実行」
- 103 ページのセクション E.2 「マイグレーションオプションの選択」
- 103 ページのセクション E.3 「オブジェクトをコンテンツサーバにアップロード」
- 104 ページのセクション E.4 「アプリケーションをアクションまたは MSI としてマイグレート」
- 104 ページのセクション E.5 「ネットワークファイルの使用」
- 105 ページのセクション E.6 「マイグレーションユーティリティで関連付けをリスト」
- 105 ページのセクション E.7 「マイグレーションユーティリティで AppFsRights 属性を持つアプリケーションオブジェクトをリスト」

E.1 Windows Vista デバイスでのマイグレートユーティリティの実行

Windows Vista デバイスでマイグレートユーティリティを実行して、従来の ZENworks アプリケーションオブジェクトを MSI ファイルとしてマイグレートすると、パフォーマンスは低下します。パフォーマンスを改善するには、Windows XP SP2 または Windows XP SP3 デバイスでマイグレーションユーティリティを実行します。

E.2 マイグレーションオプションの選択

マイグレーションは、マイグレーションユーティリティを介して設定されたマイグレーションオプションに基づいて実行されます。オブジェクトをマイグレートする前に、マイグレーションに最も適したオプションを選択するため使用可能なすべてのマイグレーションオプションに目を通してください。各種のマイグレーションオプションの詳細については、87 ページの付録 B 「グローバルマイグレーションオプション」を参照してください。

E.3 オブジェクトをコンテンツサーバにアップロード

- コンテンツをコンテンツサーバにアップロードする必要のあるアプリケーションをマイグレートすると、マイグレーションが失敗する場合があります。マイグレーションの宛先ゾーンにログインする際 [HTTP ポートのファイルアップロード] オプションで指定したポートが、ZENworks Configuration Management サーバをインストールする際に設定したポートと一致していることを確認します。ZENworks Configuration Management サーバをインストールする際のポート設定の詳細については、「インストールの実行」を参照してください。

- ◆ コンテンツサーバにアップロードする必要のある大きなアプリケーションをマイグレートする際、サーバとの接続が切断され、マイグレーションが失敗する場合があります。サーバと永続的な接続を確立するためには、Web クライアントの設定で [応答取得のタイムアウト] が [なし] に設定されていることを確認します。詳細については、[90 ページのセクション B.8 「Web クライアント設定」](#) を参照してください。
- ◆ コンテンツサーバにアプリケーションをアップロードしない場合は、アプリケーションをマイグレートする際に [コンテンツサーバにアップロード] オプションを選択解除します。オプションを選択解除すると MSI アプリケーションはネットワーク MSI のインストールアクションでバンドルとしてマイグレートされ、ネットワークパスから MSI がインストールされます。デフォルトでは、[コンテンツサーバにアップロード] オプションは有効です。] オプションの詳細については、[88 ページのセクション B.2 「アプリケーション」](#) を参照してください。

E.4 アプリケーションをアクションまたは MSI としてマイグレート

- ◆ 従来の ZENworks でスナップショットマネージャなどのツールを使用して、レジストリ、INI、およびファイルコピーなど複数の変更がある複雑なアプリケーションオブジェクトを作成している場合、[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションを無効にして、MSI としてアプリケーションをマイグレートする必要があります。マイグレーションオプションの詳細については、[88 ページのセクション B.2 「アプリケーション」](#) を参照してください。
- ◆ 従来の ZENworks でスナップショットマネージャなどのツールを使用して、レジストリ、INI、およびファイルコピーなど複数の変更がある複雑なアプリケーションオブジェクトを作成している場合、あるいは後でアプリケーションオブジェクトを編集する必要がある場合は、[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションを無効にして、アクションとしてアプリケーションをマイグレートする必要があります。
- ◆ アプリケーションが他のアプリケーションに従属している場合、従属関係のあるアプリケーションを確認し、要件に応じて MSI またはアクションとしてアプリケーションをマイグレートしてから、従属アプリケーションをマイグレートします。

E.5 ネットワークファイルの使用

- ◆ 従来の ZENworks アプリケーションオブジェクトでネットワーク共有でホストされているファイルを使用している場合、マイグレーションツールをホストしているデバイスでネットワーク共有をマッピングする必要があります。
- ◆ デフォルトでは、アプリケーションはマイグレーションのときにコンテンツサーバにアップロードされます。アプリケーションファイルが共有ネットワークにあり、引き続きネットワークファイルを使用したい場合は、[コンテンツサーバにアップロード] オプションを選択解除します。] オプションの詳細については、[88 ページのセクション B.2 「アプリケーション」](#) を参照してください。

E.6 マイグレーションユーティリティで関連付けをリスト

マイグレーションユーティリティでリストする関連付けが多過ぎる場合、[マイグレーションの資格ありまたは資格なし(警告なし)] オプションをオンにして、ユーティリティで関連付けをリストするのにかかる時間を短縮できます。

E.7 マイグレーションユーティリティで AppFsRights 属性を持つアプリケーションオブジェクトをリスト

eDirectory™ で AppFsRights 属性が設定されているアプリケーションオブジェクトは、マイグレーションユーティリティではリストされません。マイグレーション用にこれらのアプリケーションをリストするためには、AppFsRights 属性を削除します。属性削除の詳細については、[Novell Cool Solutions Community \(http://www.novell.com/communities/coololutions\)](http://www.novell.com/communities/coololutions) で LDAP 属性の削除に関する記事を検索してください。

マニュアルの更新

このセクションには、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP2 が最初にリリースされた後、この ZENworks マイグレーションガイドのマニュアルの変更内容に関する情報が含まれています。変更が行われた日付に基づいて、変更が一覧表示されています。

この製品のドキュメントは、HTML および PDF の 2 つの形式で Web にて提供されています。HTML および PDF ドキュメントにはこのセクションに一覧表示された変更が反映され、最新の状態に保たれています。

使用している PDF ドキュメントが最新のものであるかどうかを知る必要がある場合、PDF ドキュメントの表紙の発行日を参照してください。

このドキュメントは次の日付に更新されました。

- ◆ 107 ページのセクション F.1 「2009 年 5 月 27 日 :SP2 (10.2)」

F.1 2009 年 5 月 27 日 :SP2 (10.2)

次のセクションが更新されました。

- ◆ 107 ページのセクション F.1.1 「ZENworks Configuration Management へのマイグレート」
- ◆ 107 ページのセクション F.1.2 「グローバルマイグレーションオプション」
- ◆ 108 ページのセクション F.1.3 「マイグレーションデータ」

F.1.1 ZENworks Configuration Management へのマイグレート

このセクションでは次の箇所が変更されました。

ディレクトリ	更新内容
39 ページのセクション 4.1 「前提条件」	このセクションで情報が更新されました。
69 ページの 「関連付けのマイグレート」	ステップ 1b とステップ 7 で情報が更新されました。

F.1.2 グローバルマイグレーションオプション

このセクションでは次の箇所が変更されました。

ディレクトリ	更新内容
89 ページの 「関連付け」	このセクションで情報が更新されました。

F.1.3 マイグレーションデータ

このセクションでは次の箇所が変更されました。

ディレクトリ	更新内容
82 ページの「 ダイナミック ローカルユーザポリシー 」	[一時的ユーザキャッシュ] 設定に情報を追加しました。
